

付録：カザフ共和国の特別入植者に関する資料

本文：ソ連の民族強制移住政策とカザフ共和国 1939-1945

出典：Из истории депортаций. Казахстан. 1939–1945 гг.
(強制移住の歴史から：カザフスタン 1939～1945 年)

訳者：高橋 秀歩

目次

ポーランド人特別入植者に関する資料	4
第 29 号 ソフホーズ「スルクリ」に到着する旧ポーランド領域からの移住者の受け入れ体制に関する、カザフスタン共産党（ポリシェヴィキ）クスタナイ州委員会決議	4
第 30 号 ウクライナとベラルーシの西部地域の捕虜収容所や刑務所に収容されている元ポーランド軍将校の家族のカザフスタンへの強制移住に関する、ソ連内務人民委員部ベリヤ委員からウクライナ・ソビエト社会主義共和国とベラルーシ・ソビエト社会主義共和国内務人民委員部への指令第 892/B 号	4
第 33 号 ソ連人民委員会議の決議第 497-177ss 号、「1940 年 3 月 2 日のソ連人民委員会議決議第 289-127ss 号で指定された人物をウクライナ・ソビエト社会主義共和国およびベラルーシ・ソビエト社会主義共和国の西部地域から追放することに関する指示」の承認に関する決議	7
第 36 号 パヴロダル州内務人民委員部長マルセルスキーおよび内務人民委員部経済部第 1 部長モスクヴィチン、カザフ・ソビエト社会主義共和国内務人民委員部副人民委員ボグダノフの特殊覚書第 19255 号「1940 年 9 月 1 日現在のマイカインゾロト工場における強制移住者・旧ポーランド人に対する公共サービス状況について」	8
第 39 号 1940 年 10 月 15 日現在、ウクライナとベラルーシの西部地域からの強制移住者の配属、雇用、諜報作戦活動の状況に関する、カザフ・ソビエト社会主義共和国内務人民委員部の指導部からソ連内務人民委員部ベリヤ人民委員への覚書より	10
第 45 号 ポーランドからの強制移住者オストシェグがソ連最高会議のスクヴォルツォフ議員に助けを求める請願	22
第 46 号 ポーランドからの強制移住者クペルベルグがソ連最高会議のスクヴォルツォフ議員に対し窮状について述べた請願	22
第 47 号 ポーランドからの強制移住者からソ連最高会議のスクヴォルツォフ議員への窮状に関する手紙 ..	23
第 55 号 カザフ・ソビエト社会主義共和国内務人民委員部からカザフ・ソビエト社会主義共和国軍事委員部への、同共和国に駐留するポーランド国民の総数に関する情報	23
第 58 号 新聞記事「ポーランドの子どものための学校」	24
第 59 号 バルハシ市執行委員会の決定「バルハシにおけるポーランド学校の開校について」	24
第 60 号 クジルオルダ州執行委員会の決定「ポーランドの子どもたちのための幼稚園開設について」	25
第 61 号 ポーランド国民のために受け取った慈善品の違法使用に関するカザフ・ソビエト社会主義共和国人民委員会議の決議	25
ドイツ人・フィン人特別入植者に関する資料	26
第 63 号 ソ連内務人民委員部人民委員命令第 001175 号「レニングラード郊外のドイツ人とフィンランド人をカザフ共和国に移住させる作戦を実行するための措置について」	26
第 65 号 カザフスタン共産党（ポリシェビキ）のクスタナイ州執行委員会と州委員会の決議「ドイツ人移住者の経済的取り決めについて」	27
第 68 号 カザフスタンにおけるドイツ人移住者の情報	29
第 75 号 ソ連人民委員会内務特別移住部部長イワノフによるソ連人民委員会農業部へのドイツ人移住者の就労に関する訴え	30
第 77 号 カザフスタン共産党（ポリシェビキ）ウバガンスキー地区委員会書記長ベルリンからカザフスタン共産党（ポリシェビキ）中央委員会書記長スクヴォルツォフ宛て、この地域の状況に関する書簡	31
第 78 号 「ヴォルガ・ドイツ人共和国からの移住者の子供たちのための既存の初等学校、中等学校、高等学校における追加学級の編成について」のクジル・オルダ州執行委員会決定	35

第 79 号 ドイツ人移住者と疎開者へのパン供給の困難についての、セミパラチンスク州の党・ソビエト指導部からカザフスタン共産党（ボリシェビキ）中央委員会書記スクヴォルツォフとカザフ共和国人民委員会議長ウンダスィノフへの書簡	36
第 83 号 スヴェルドロフスク地区執行委員会議長イスマイロフからジャンブル州執行委員会議長ジャンサカロフへの通知「地区におけるドイツ人移住者の配置と経済的取り決めについて」	37
第 85 号 カザフスタン共産党（ボリシェビキ）セミパラチンスク州委員会書記ボゴリューボフからカザフスタン共産党（ボリシェビキ）中央委員会書記スクヴォルツォフへの書簡「ドイツ人移住者への食料供給の深刻な状況について」	38
第 89 号 カザフスタン共産党（ボリシェビキ）ルザエフカ地区委員会のドイツ共産主義者の反ソビエトおよび反党感情に関する調査からの抜粋	39
第 91 号 南カザフスタン州内務人民委員部管理局からパフタ・アラル地区内務人民委員部部長スズディオフ宛「ドイツ人移住者ツィメルマンの家族との再会許可に関する指令」	41
第 92 号 カザフ共和国国際革命闘士援助組織中央委員会の政治亡命問題担当責任指導員ヴァイスから、カザフスタン共産党中央委員会宣伝扇動担当書記アブディカリコフへの報告書「ソフホーズ『パフタ・アラル』の政治亡命者の生活物質状況調査の結果、および政治亡命者とその家族の状況改善のためにパフタ・アラル現地とアルマ・アタ市で講じられた措置について」	42
第 93 号 カザフスタン共産党（ボリシェビキ）中央委員会書記シャヤフメトフからカザフスタン共産党（ボリシェビキ）アクモラ州委員会書記クバエフへの飢餓に関する手紙	48
第 94 号 カザフスタン共産党（ボリシェビキ）中央委員会宛てのカザフ共和国人民委員会議によるドイツ人特別移住者への食糧供給に関する情報	48
第 95 号 カザフ共和国人民委員会議の決議「労働不能の高齢者、多くの子供を持つ母親、およびドイツ国籍の子供の特別移住者への食糧援助の支給について」	49
労働軍に関する資料	49
第 97 号 国家防衛委員会決議第 1123ss 号「徴兵年齢 17 歳から 50 歳までのドイツ人移住者の利用手続きについて」	49
第 102 号 ソ連内務人民委員部キムペルサイ収容所・鉱山管理局副長官デューディンによる、1942 年 3 月 1 日時点のソ連内務人民委員部キムペルサイ収容所に関する報告書。	51
第 109 号 「セミパラチンスク州内に居住するドイツ人住民の労働軍への動員と派遣に関する」カザフスタン共産党セミパラチンスク州委員会決議	53
第 112 号 「戦時中のドイツ人の労働軍への動員について」に関する北カザフスタン州共産党（ボリシェヴィキ）委員会決議	55
第 114 号 1942 年 10 月 7 日付国家防衛委員会決定の実施に関するソ連人民委員会議決定第 1843-861s 号	56
第 116 号 動員されたドイツ人の管理に関するエンバネフテストロイ・トラスト管理者シチェルボフと特別部部長バシェニナから検査所、建設および組立列車、[...]事務所長宛指令	56
第 124 号 カザフ共和国内務人民委員部からカザフスタン共産党中央委員会への報告書「カザフ共和国の各州における動員予定のドイツ人および労働入植者について」	57
第 125 号 「石炭産業における就労のためのドイツ人男女、労働移住者および特別移住者の動員について」に関するカザフ共和国人民委員会議およびカザフスタン共産党中央委員会決定案	57
第 128 号 カザフ共和国人民委員会議およびカザフスタン共産党中央委員会から州執行委員会および州党委員会宛「カラガンダ石炭への動員労働者の不適切な選抜について」の電報	58
第 132 号 パプロダール毛皮工場・皮革工場の工場長代行ブルコフからパプロダール州共産党委員会書記クリトフ宛の、「子供を伴う女性労働軍（ドイツ人女性）の悲惨な状況について」の書簡	59
第 137 号 カザフスタン石油コンビナートの企業責任者への指令：動員解除された労働軍メンバーへの衣服、靴、食料の支給について	60

第 139 号 カザフスタン共産党グーリエフ州委員会書記クルグロフからカザフスタン石油コンビナート長官 ピリペツへの指令「動員ドイツ人の住居・生活環境について」	60
第 144 号 カザフスタン石油コンビナート建設組立局部長ダンシンからコンビナート長官ピリペツへの報告 書「特別居住者の住居・生活環境と給食状況の調査について」	61
カルムイク人特別入植者に関する資料	63
第 150 号 カルムイク自治共和国に居住するカルムイク人の追放に関するソ連人民委員会議決定第 1432/425 号抜粋	63
第 156 号 クジルオルダ州特別移住者経済整備局からカザフスタン共産党クジル・オルダ州委員会への報告 書：「1944 年 11 月 5 日現在のクジル・オルダ州における特別移住者の経済・生活状況について」	64
第 158 号 カルムイク人とチェチェン人特別移住者の状況に関するアラリスク内務人民委員部地区部からカ ザフスタン共産党アラリスク地区委員会への報告	67

ポーランド人特別入植者に関する資料

第 29 号 ソフホーズ「スルクリ」に到着する旧ポーランド領域からの移住者の受け入れ体制に関する、カザフスタン共産党（ポリシェヴィキ）クスタナイ州委員会決議

クスタナイ市

1940 年 1 月 7 日
特別ファイル（最高機密）

カザフスタン共産党（ポリシェビキ）州委員会事務局は、この出来事を非常に重要視し、次のように決定する：

1. 移住者の日常生活と生産に対する態度の両面で、移住者をよりよく受け入れ、より良い条件を整えるために、ソフホーズ「スルクリ」の所長シュリギン同志と政治部長オルロフ同志に以下の活動を実践するよう義務付ける。

a) ソフホーズの労働者に対し、移住労働者を受け入れることの政治的意義について広く説明し、ソフホーズに到着した労働者（移住者）の受け入れ態勢を組織する。

b) ソフホーズに到着する労働者（移住者）に良好な生活環境を提供する。

c) ソフホーズに到着する労働者（移住者）に寝具、家具、燃料、照明を提供する。

d) 彼らに途切れることなく高品質の食料を提供し、ソフホーズ・農村協同組合から商品を購入する機会を与えると同時に、賃金の前払いを確実に行う。

e) 労働者（移住者）がソフホーズに到着したら、直ちに仕事を提供し、彼らがノルマを満たし、それを上回ることができるよう必要な条件を整える。

f) 到着した人々の間で体系的な大衆政治活動を組織し、このために最も優れた、よく訓練された共産主義者を選抜する。定期的に政治討論、対話、新聞朗読、スターリン憲法の研究、全ソ共産党（ポリシェビキ）第 18 回大会の決定の研究を実施する。

2. カザフスタン共産党（ポリシェビキ）のセミオゼルヌイ地区委員会に、難民受け入れ準備においてソフホーズに实际的な支援を提供するために地区委員会事務局の委員 1 名を割り当てることを義務付ける。

3. ミヘーエフ同志とセミオゼルヌイ地区のカザフスタン共産党（ポリシェビキ）地区委員会に、新しく到着するすべての労働者を対象に学校での訓練を組織するよう義務付ける。

4. 到着した労働者の非識字や低識字をなくすため、普通教育学級を設置し、アマチュア芸術サークルに参加させること。

5. カザフスタン共産党（ポリシェビキ）セミオゼルヌイ地区委員会書記ヤゴフキン同志に対し、ソフホーズの難民受け入れ態勢を組織的に監視することを直接委任する。

カザフスタン共産党（ポリシェビキ）地域委員会書記
ベルニヤゾフ

第 30 号 ウクライナとベラルーシの西部地域の捕虜収容所や刑務所に収容されている元ポーランド軍将校の家族のカザフスタンへの強制移住に関する、ソ連内務人民委員部ベリヤ委員からウクライナ・ソビエト社会主義共和国とベラルーシ・ソビエト社会主義共和国内務人民委員部への指令第 892/B 号

モスクワ市

1940 年 3 月 7 日

ソ連内務人民委員部は、今年 4 月 15 日までに、ウクライナ西部およびベラルーシの捕虜収容所および刑務所に収容されている、ポーランドの元軍将校、警察官、看守、憲兵、諜報員、元地主、元工場主、旧ポー

ランド国家機構の主要職員の家族全員を 10 年間、カザフ・ソビエト社会主義共和国の地域に強制移住させることを提案する¹。

この決定に従い、私は以下を命令する。

1. 添付の書式を使用して、上記すべてのカテゴリーの捕虜および抑留者の家族の正確な記録の作成を直ちに開始し、今年 3 月 30 日までに完了すること。

注意: 家族には、妻、子供、および逮捕者または捕虜の家族と同居している両親、兄弟姉妹も含まれる。

2. ウクライナ西部地域およびベラルーシの内務人民委員部による作戦遂行の準備として、対応する内務人民委員部事務所長官、ソ連内務人民委員部の代表、ウクライナ・ソビエト社会主義共和国またはベラルーシ・ソビエト社会主義共和国の内務人民委員部の代表から構成される作戦実行トロイカ²を組織する。

3. 立ち退きの対象となる世帯数が 200 を超える州の都市または地区では、都市および地区の作戦実行トロイカも組織される。これは内務人民委員部事務所の都市または地区支部の長が率い、対応する州内務人民委員部事務所の代表者が参加する。

4. 州、都市、地区の作戦実行トロイカは、それぞれの地域内で作戦を実施するための具体的な計画を慎重に策定する必要がある。

5. 以下の指示を参考に、作戦計画を立てる：

a) 作戦遂行には、ウクライナ・ソビエト社会主義共和国とベラルーシ・ソビエト社会主義共和国の人民内務委員会の地域機関および輸送機関の作戦責任者、職員、指揮官、政治将校、ウクライナとベラルーシの西部地域に駐留する内務人民委員部の内務部隊および国境部隊の赤軍兵士、および作戦警察官が投入される。彼らは 3 人からなる作戦グループを構成する。各グループは 2～3 家族を立ち退かせる。

b) 作戦に直接関与する作戦グループの編成に加えて、各州、都市、地区の作戦実行トロイカごとに、3～5 人の作戦要員と内務人民委員部部隊の赤軍兵士 15～25 人からなる予備隊が編成される。

c) 作戦はウクライナとベラルーシの西部全域において夜明けと共に一斉に実施する。作戦の日付は追って発表される。

d) 立ち退きを命じられた家族のアパートに到着すると、作戦部隊は武器、反革命的な文書、外貨を探す捜索を行い、その後、家族に対し、今後の立ち退きについて告知し、立ち退きの手続きについて説明する。

e) 立ち退きを命じられた家族の不動産、商業・工業企業は没収の対象となる。立ち退きを命じられた家族は、子供を含め一人当たり 100kg 以下の私物を立ち退き場所に持ち込む権利を有する。立ち退きを命じられた人々は、以下の順序で残りの財産を売却する権利を有する。

f) 立ち退き後に明け渡されたすべての住居および商業施設は、まず第一に、ウクライナおよびベラルーシの西部地域で労働するために派遣された労働者・農民赤軍・党の兵士およびソビエト労働者が居住するために、現地のソビエト当局に移管されなければならない。

g) 作業終了後、立ち退きを命じられた家族は、持ち出しを許可された財産とともに、事前に用意された貨車に積み込むため、護衛のもと鉄道駅に送られる。立ち退き者は、内務人民委員部が用意した輸送手段で積み込み地点まで輸送される。

¹ カザフスタンでは 8000 人しか受け入れられないという統計的に裏付けられたデータがあったにもかかわらず、1940 年 3 月 20 日、ソ連内務人民委員部人民委員ベリヤがカザフ・ソビエト社会主義共和国内務人民委員部バブキンに出した、行政的に追放された抑圧されたポーランド人将校の家族を共和国北部に再定住させるための措置を講じることに関する指示第 1042/B 号では、抑圧された家族の数は 25,000 家族と決定され、そのうち「暫定的に」76,000 人から 100,000 人と想定されていた。同命令により、ウクライナ・ソビエト社会主義共和国とベラルーシ・ソビエト社会主義共和国の西部地域から 2,000～3,000 人の売春婦がカザフスタンに連れてこられることになっていた。移住地はアクモラ、アクトベ、クスタナイ、パブロダル、北カザフスタン、セミパラチンスクの各地域と決定され、それぞれ 1 万 5000 人から 2 万人が居住すると見積もられた。強制退去者にはパスポートが発行され、そのパスポートは強制退去者の居住地域内でのみ有効であることが 10 欄に記されることになっていた。強制退去は 1940 年 4 月 9 日と 13 日に行われた。(Поболь, Полян 2004 pp.143-144)

² ここでいう作戦実行トロイカとは、簡略化された迅速な調査の後、公開裁判なしで人々に刑を宣告する 3 人のメンバーで構成された組織であると思われる。

h) 立ち退きを命じられた家族のうち病気の者は、一時的にその場所に留まり、回復後、残りの家族が立ち退きを命じられた場所に送られる。このような家族の監視は、関係する内務人民委員部諸機関によって行われる。

i) 輸送列車に移住者が乗車する際には、輸送部隊長に移住者名簿とその個人情報引き渡される。輸送部隊長は名簿と移住者の存在を照合しなければならず、表と実際との不一致を文書の形で記録し、その一部を移住者を送り出す側に残して不一致の原因を究明させ、もう一部は輸送部隊長のもとに保管する。

j) 部隊長は、大量輸送隊における人員の受入れ及び乗車後、自己に引き渡されたすべての人員及びそれらの人員の目的地への引渡しについて責任を負う。

6. 立ち退きの対象となる特に悪質な家族については、内務人民委員部が過去または現在の反ソビエト活動に関する資料を保有している場合は、逮捕し、その後、ソ連内務人民委員部の特別部門で検討するためにその事件を登録する必要がある。

7. 立ち退きを命じられた者の財産の売却手続きは、次のように定められる。

a) 立ち退きを命じられた者は、アパート内に残された私物の売却を委託できる信頼できる人物（隣人、知人、親戚）の名前を挙げなければならない。

b) 立ち退きを実施する対策本部長は、立ち退き者の家族から示された信頼できる人物を呼び出さなければならない。

c) 別紙様式により、放棄された財産の売却について管財人（信頼できる人物）から申込みが行われ、放棄された財産が差し押さえ目録に従って管財人に譲渡される。

d) 目録は3部作成され、1部目は立ち退き対象者の家族に渡され、2部目は管財人に渡され、3部目は内務人民委員部の作戦部隊に保管される。

e) 管財人の誓約書が2部作成され、そのうち1部は立ち退く家族に渡される。もう1部は作戦部隊が報告の際に内務人民委員部の財産目録の写しと共に提出する。

f) 管財人には、不動産を売却しアパートを明け渡すために10日以内の期間が与えられる。

g) 財産の売却後、管財人が内務人民委員部に出頭し、申請に基づき、立ち退き場所において立ち退き対象家族に譲渡するための収益を手渡す。

h) 家財のなくなった立ち退き者の住居は内務人民委員部の機関によって封印され、目録は現地当局機関に渡される

8. 即時の作戦遂行計画は入念に検討されるべきであり、立ち退き中に、立ち退きを強いられた家族だけでなく、我々に敵対する住民の一部による暴行、反革命的な演説、遅滞行為を防ぐために必要な措置を講じるべきである。

9. 捕虜収容所に収容されていた元ポーランド将校、警察官、憲兵、看守、公務員および秘密警察職員、元地主、元工場主、旧ポーランド国家機関の高官のリスト（家族構成および住所を記載）が、家族の特定および登録のために捕虜事務局から貴官に送付される。

内務人民委員部による検査および登録の過程で、立ち退き対象家族のメンバーがウクライナおよびベラルーシの西部地域を離れたことが判明した場合、彼らの新たな居住地を調査するための措置を講じ、これに関するすべての資料をソ連内務人民委員部に送付する必要がある。

10. 計画の策定や立ち退きのプロセスでは、旧ポーランド人立ち退きや林業従事者立ち退き³で起きた過ちや誤りを繰り返すことなく、旧ポーランド人立ち退き作戦で得た経験を活用すること。

³ おそらく、ある「事件」についての話だろう。「旧ポーランド人と林業従事者を立ち退かせる作戦は、全般的に組織立って行われ、労働農民の大多数の積極的な支持を得て、深刻な過剰行為もなく実行された」。しかし、「ベラストーク地方ヴァルコヴィースク郡ベースキ郷のコリャージチ村では、旧ポーランド人のヴィソツキー・レオン・ヨシフォヴィチが作戦部隊に武装抵抗を行い、銃撃戦の最中にヴィソツキーは殺害された」。

11. 逮捕され捕虜収容所に収容されている人々の立ち退きを命じられた家族の登録結果を、3月31日にソ連内務人民委員部に電報で通知する。

12. 作成した計画と立ち退き実行の手順をウクライナとベラルーシの共産党中央委員会に報告すること。

13. 作戦実行手段の詳細については、追加で送付される。

ソ連内務人民委員部 国家安全保障委員会委員 第1等級
ベリヤ

第33号 ソ連人民委員会議の決議第497-177ss号、「1940年3月2日のソ連人民委員会議決議第289-127ss号で指定された人物をウクライナ・ソビエト社会主義共和国およびベラルーシ・ソビエト社会主義共和国の西部地域から追放することに関する指示」の承認に関する決議

モスクワ市

1940年4月10日⁴

最高機密

ソ連人民委員会議は次のように決定する。

1. ウクライナ・ソビエト社会主義共和国およびベラルーシ・ソビエト社会主義共和国の西部地域からの以下の者たちの立ち退きに関するソ連内務人民委員部の指示を承認する。

a) 捕虜収容所や刑務所に収容されていた元ポーランド軍将校、警察官、看守、憲兵、諜報員、元地主、工場主、旧ポーランド国家機関の職員、反革命反乱組織のメンバーの家族。

b) ドイツに割譲された旧ポーランドの領土からの難民で、ソ連を離れて現在ドイツが占領している領土へ移住したいという希望を表明したが、ドイツ政府に受け入れられなかった者。

c) 旧ポーランド警察に登録されており、現在も売春行為を続けている売春婦。

2. カザフ・ソビエト社会主義共和国人民委員会に、第1項a)に列举する家族2万2千～2万5千世帯のカザフ・ソビエト社会主義共和国北部地域における配属、日用品、雇用のために必要な措置を講じるよう指示する。

3. ソ連内務人民委員部が要請した期限内に、ウクライナ・ソビエト社会主義共和国とベラルーシ・ソビエト社会主義共和国の西部地域の鉄道駅に、55両編成の列車81本を供給するために、鉄道人民委員部に立ち退き対象者の輸送を義務付ける。

4. ソ連人民保健委員会（ミティレフ同志）は、ソ連内務人民委員部の要請に応じて、移住者の輸送部隊に道中の医療関係者、必要な医薬品、機器を提供する。

5. ソ連人民商務委員会に対し、ソ連内務人民委員部が定めた地点で、立ち退き者のために食事の提供を手配することを義務付ける。

6. ソ連林業人民委員会（アンツェロヴィチ同志）と非鉄冶金人民委員会（サモフヴァロフ同志）に対し、ソ連林業人民委員会と非鉄冶金人民委員会の企業で働くために送られた、第1項b)に規定する立ち退きを命じられた難民家族の受け入れ、宿泊、世帯の手配、労働力の使用について、入念に準備することを義務付ける。

7. 難民が向かう場所の労働者代表ソヴィエトの執行委員会に対し、ソ連内務人民委員部、ソ連林業人民委員部、非鉄金属人民委員部に対し、移住する難民家族の輸送と宿泊に必要な援助を提供することを義務付ける。

⁴ ウクライナとベラルーシの西部地域からの立ち退きは、1939年の秋から計画されていた。これに関連して、すでに10月にカザフ・ソビエト社会主義共和国人民委員会とカザフスタン共産党（ポリシェビキ）中央委員会によって、「ウクライナ西部から到着した移民8000世帯のカザフ・ソビエト社会主義共和国への再定住について」という共同決議案が作成された。

8. ソ連人民財務委員会（ズヴェレフ同志）は、ソ連内務人民委員部の 1940 年の見積りに基づき、本決議第 1 項に規定する人々の移住費用として 3025 万ルーブルの追加予算を配分する。

ソ連人民委員会議議長
モロトフ
ソ連人民委員会議事務局長
フロモフ

第 36 号 パヴロダル州内務人民委員部長マルセルスキーおよび内務人民委員部経済部第 1 部長モスクヴィチン、カザフ・ソビエト社会主義共和国内務人民委員部副人民委員ボグダノフ⁵の特殊覚書第 19255 号「1940 年 9 月 1 日現在のマイカインゾロト工場における強制移住者・旧ポーランド人に対する公共サービス状況について」

パヴロダル市

1940 年 9 月 10 日以前

1940 年 8 月 23 日付補足第 19126 号。

今年 9 月 1 日現在、『マイカインゾロト』には 1104 人の強制移住者がいる。

このうち、618 人が生産活動に従事しており、348 人は 16 歳未満の子ども、138 人は高齢者と子供の多い母親である。

生産部門で働く旧ポーランド人強制移住者は、鋳夫、シャベル工、運搬人、機械工などの職業を占めている。

その結果、金採掘の生産計画の達成は、これらの労働者の労働生産性の向上に大きく依存している。

これまで、マイカインゾロト工場の指導部は、旧ポーランド人強制移住者の日常の公共サービスを改善することに対して、実際的なことは何もしてこなかった。工場長のルニャコフ氏は、強制移住者の経済発展に関する協定にまだ署名していない。当初、同氏は、協定は現地の状況に合わせて変更する必要があるとして拒否の理由としたが、具体的な条件は示さなかった。今年 8 月 21 日に内務人民委員部で同氏と交渉した後、ルニャコフ氏は協定への署名に同意すると表明したが、さまざまな根拠のない口実で署名が遅れている。

工場長ルニャコフの側が旧ポーランド人強制移住者のための正常な生活環境の整備に無責任な態度を取ったため、強制移住者は極めて困難な生活環境に置かれている。具体的には、旧ポーランド人強制移住者は依然として 1 人当たり 1.8 平方メートルの面積の半分が居住に適さない建物に住んでおり、137 人が黄麻布で覆われた仮設テントで生活している。

最近、旧ポーランド人死亡率と罹患率が上昇している。今年上半期には 43 人が死亡し、猩紅熱による老人と子供の死亡が相次いだ。

患者数は著しく増加しており、その主な原因は壊血病、栄養失調、胃腸疾患であり、公式に登録された患者は 30 名を超え、仮小屋を巡回した際に確認された患者は 50 名を超えている。

腸チフスの症例もあった。

強制移住者に対する医療は極めて不十分である。医療従事者の不足により、患者は適時的な医療を受けることができず、毎日 10～20 人以上の患者が医療を受けずに外来診療所を後にしている。健康上の理由で外来診療所に通えない患者が相当数おり、医療従事者の不足により外来診療所は患者の在宅診療を拒否し、そのような患者は医療を受けられないまま放置されている。

⁵ ソ連人民委員会経済本部長副部長ナセドキン氏とソ連人民委員会強制労働収容所本部長労働居住局長コンラドフ氏に宛てた。

これらの施設の過密状態と不衛生な環境での旧ポーランド人の暮らしから、伝染病の蔓延の恐れが深刻で、これに対する予防策はない。

マイカインゾロトの労働者を含む強制移住者に対しては、職務怠慢で経験の浅い若い医師が2人勤務している。1人目のドクムバエフは1940年に医学部を卒業したばかりで、ポーランド人強制移住者コトリャルは医学教育が修了していない。彼らの勤務態度と経験不足のため、地域および地区の保健局はこれらの医師の勤務を管理しておらず、地元の党組織を含む施設の経営陣もこれらの問題にまったく関心がない。

このように、入植者を含む労働者に対する文化・生活上の公共サービスの最も重要な部分は、「マイカインゾロト」に任せきりになっている。

マイカインゾロト工場の指導部は、ノルマを達成した強制移住者に対して、犯罪的に無責任な態度を示している。生産指数が高い強制移住者は、まれな例外を除き、生産指数はあっても強制移住者であるという理由で奨励の対象とならない。こうした考えは、工場の指導者によるものだ。特に、マイカインゾロト工場の食品供給責任者であるミンドリン氏は、スタハーノフ商店の登録者のうち、強制移住者を含む、誤って登録された人々を排除すると発表した。その理由は、同氏の言によれば、現地の労働者から「ポーランド人の後ろに並ばなければならない」という苦情が寄せられているからである。（これは、スタハーノフの店に登録されたスタハーノフ労働者である強制移住者を指している。）

カザフスタン共産党員であるマラマイカイン鉱山のアニストラト鉱山長は、鉱山には強制移住者でスタハーノフ労働者となる者がおり、インセンティブとしてより良い生活条件を提供しても良い機会が時々あるが、この場合にどう行動していいかわからないため、そうしていないと述べた。この状況は、マイカインゾロトの他の作業場でも同様である。

冬季に入り、強制移住者をまともな住宅に収容する問題が深刻化している。ルニャコフ工場長は、新たに建設した400人収容の学校を強制移住者のための宿泊施設と決めたが、この学校は家族との宿泊には適応していない。また、完成しつつある日干し煉瓦造りの家2棟は200人用で、残りの504人を冬に住ませる準備はできていない。

ルニャコフに対し、強制移住者の残りのために快適な住居エリアを準備するための緊急措置を講じるよう我々が働きかけたところ、ルニャコフは、日干しレンガの仮小屋をさらに2棟準備すると約束したが、これはまだ建設が開始されていない。また新築の木材仕上げ工場を住宅用に改修することを約束したが、これも家族が住むには適さない。さらに、ルニャコフは強制移住者のための住宅準備の義務を保証しておらず、これらの措置はすべて口頭約束という束縛のないもので、上位機関からの適切な影響がなければ、ルニャコフは強制移住者のための冬期の居住スペースを適時に準備しないことが予測され、強制移住者のための文化的小さい生活環境の創出が困難になる可能性がある。

対策は以下の通りである；

1. 壊血病などの疾病を撲滅し、強制移住者への医療を効率化するため、今年8月31日に地域保健局との合意により、医師2名と消毒係1名がマイカインゾロトに派遣された。同時に、地域執行委員会は、マイカインゾロトに医療従事者を配属し、経験豊富で資格のある医師を配属するという問題を提起した。

2. 壊血病と闘うために、マイカインへの野菜の配達について工場長に対し問題が提起された。

3. カザフスタン共産党（ボリシェビキ）の地域委員会は、強制移住者のために通常の文化的小さい生活条件を創出するためにルニャコフに働きかけることについて、2度目の通知を受けた。

4. 同時に、私たちはルニャコフ工場長に対し、冬季に強制移住者とその家族が通常的生活環境を保てるよう住宅を準備するための実際的な措置を講じること、強制移住者に暖かい衣服や冬季の燃料を提供してその生活を改善するための追加措置を講じること、彼らの労働生産性の向上を促す条件を整えることについて、直接かつ二度目の断固たる要求を行った。

5. 多世帯の強制移住者に個人で家建ててもらうための対策がとられた。15世帯が、自分たちのために日干し煉瓦造りの家を建てたいと希望した。この目的のために、工場は4万ルーブルを割り当てた。この措

置は非常に必要であり、マイカインゾロトの住宅危機をいくらか緩和するものである。これらの家族は、今年 8 月の終わりから家を建て始めた。

6.9 月初旬、内務人民委員部経済部第 1 課の 1 人がマイカインゾロトに派遣され、工場長ルニャコフによる義務の履行状況を確認した。その義務とは、特別移住者のために通常の文化的・生活的条件を整えるための最速の措置を講じ、これらの活動のために工場に实际的な支援を提供することである。

バヴロダル州人民内務委員会事務局長、国家安全保障大尉
マルセイユ
人民内務委員会事務局経済部第 1 部長、国家安全保障中尉
モスクヴィティン

第 39 号 1940 年 10 月 15 日現在、ウクライナとベラルーシの西部地域からの強制移住者の配属、雇用、諜報作戦活動の状況に関する、カザフ・ソビエト社会主義共和国内務人民委員部の指導部からソ連内務人民委員部ベリヤ人民委員への覚書より

アルマ・アタ市

1940 年 10 月 22 日
最高機密

あなたの命令に従い、1940 年 9 月 23 日から 10 月 17 日まで、カザフ・ソビエト社会主義共和国の内務人民委員副委員長ハリトーノフ同志は、ソ連内務人民委員部経済本部第 6 部副部長ベズルコフ同志とともに、ウクライナ西部およびベラルーシからの強制移住者に関する諜報作戦活動の進展を調査し状況を確認するために、指定された派遣団が配置されていたカザフスタン北部のすべての地域を訪問した。

I. 強制移住者の量的構成とその配属

1940 年 4 月から 5 月にかけて、ソ連人民委員会議の 1940 年 4 月 10 日付決議第 497-177ss 号⁶に基づき、内務人民委員部機関はウクライナおよびベラルーシの西部地域から 61,092 人の強制移住者をカザフスタンへ強制移住させた。その多くは、内務人民委員部によって抑圧された元住民や売春婦の家族や親族であった。これらの強制移住者は、カザフスタン北部の 6 つの地域に居住している。

カザフスタンにおける強制移住者の配属表：

州名	強制移住者数	強制移住者がいる地区	量的構成（人）				
			家族	大人	60 歳以上	16 歳未満	売春婦
北カザフスタン	20,064	13/15	情報なし	8,820	情報なし	情報なし	342
パヴロダール	11,411	12/12	3,587	5,250	706	5403	-
クスタナイ	8,705	14/17	2,554	3,886	613	3524	-
アクトベ	7,092	10/14	情報なし	3,535	713	2919	12
セミパラチンスク	7,644	8/13	情報なし	5,553	819	1988	-
アクモリンスク	6,176	15/17	1,894	2,170	689	2754	-
合計	61,092	72/88	-	29,214	3,540	16,588	354

II. 強制移住者の労働配属

上記の強制移住者部隊は、ソフホーズ、コルホーズ、地方の工業企業に配属された：

⁶ 本付録第 33 号のこと

ソフホーズ、コルホーズ、工業企業への移住者の配属表：

州名	強制移住者数	量的構成（人）			
		ソフホーズ	コルホーズ	工業企業	公的機関
北カザフスタン	20,064	4,000	16,040	情報がない	情報がない
パプロダール	11,411	5,081	4,763	1,567	39
クスタナイ	8,705	2,935	5,737	15	30
アクトベ	7,092	750	3,017	54	106
セミパラチンスク	7,644	4,376	1,412	1,570	286
アクモリンスク	6,176	758	4,559	493	271
合計	61,092	17,900	35,528	3,699	732

こうして、強制移住者の大部分は主にコルホーズとソフホーズに配属され、工業企業と国家機関にはごく一部しか配属されなかった。

強制移住者の労働条件を調査した結果、彼らの大多数は依然として完全に失業しており、その結果、彼らの大多数は生計を立てる手段を持っていないことが判明した。

技術者、医師、農学者、機械工、技術者など、強制移住者の中にいる専門家は、その専門性が非常に必要とされているにもかかわらず、専門性に応じて利用されていない。例えば、クスタナイ地区には、123 人の専門家がいるが、そのうち専門分野で雇用されているのは、旋盤工 1 名と電気機械工 2 名の 3 名だけである。彼らは機械トラクター・ステーションでよく働いている。

ソフホーズや機械・トラクター・ステーションの労働者の中には、強制移住者のために専門分野を斡旋しようとする者もいたが、クスタナイ地区評議会議長であるダフノは、「我々には十分な専門家がいる」と、断固としてそれを禁じた。

ブラーエバ地区の多くの経済施設や機械・トラクター・ステーションでは、当初、強制移住者の専門家が雇用されていたが、1940 年 8 月以降、北カザフスタン地域の共産党地域委員会（ボリシェヴィキ）側から、専門分野を問わず、すべての強制移住者を直ちに解雇するよう指示が与えられた⁷。

ジャナ・セメイ地区には、6 人の医師、2 人の農学者、約 40 人の仕立屋、機械工、技術者、組立工が数人、15 人の人形技師、2 人の庭師がいるが、自分の専門分野で雇用されているのは組立工 1 人で、他の全員が自分の専門分野で働くことを禁じられている。

この問題に関して、地方の党やソビエト組織も、地区の組織も明確なガイドラインを持っておらず、各自の判断で適切と思われる対応を取っている。

地域や地区の労働者の中には、たとえその専門分野の労働者が大幅に不足していたとしても、強制移住者の使用を断固として禁じる指示を出す者も少なくない。

党とソビエトの機関は、強制移住者の開発と雇用に関しては、それが自分たちの仕事ではないと考え、実際に何の仕事も行っていない。これらの人々はすべて敵であり、したがってすぐに逮捕されると思っている。強制移住者は内務人民委員部が連れてきたのだから、内務人民委員部が好きなように配属すればいいと思っている⁸。

ソフホーズ「カラコル」（セミパラチンスク州）のイスマイロフ副所長は、強制移住者に仕事を与えるどころか、次のように述べている：「内務人民委員部が彼らを連れてきたのだから、彼らに食料を供給し、仕事を与え、家を建ててあげればいい」と述べた。

⁷ 余白に鉛筆で「専門分野に応じて使用」という書き込みがある。

⁸ 余白に鉛筆で「内務人民委員部を関与させる」という書き込みがある。

強制移住者に対するこのような態度の結果、パブロダール州に配置された 11,411 人のうち、雇用されたのは最大でも 45% (5,235 人⁹) に過ぎなかった。

この地域のコルホーズに配属された強制移住者は、夏の間ほとんど働いておらず、仕事もしていない。3～4 ヶ月働いても労働の対価は支払われず、その結果、栄養失調によるむくみが発生するケースもある。

ツリュピンスコエ地区では、694 人中 93 人しか雇用されていなかった。9 月 29 日、仕事も生活手段もない 20 人の女性強制移住者が子供を連れて、仕事とパンを求めてプリルティシユスコエ地区の穀物ソフホーズにやってきた。

クスタナイ地区のコルホーズ「レーニン」では、夏の間、強制移住者は畑仕事にはまったく使われず、最後まで働きとおした人たちは、働いても何ももらえなかった。その結果、最近になって強制移住者たちは完全に仕事をしなくなり、「なぜ、なぜ、私たちは働かなければならないのか？その労働に対して報酬が支払われないのに。」と叫んだ。

ブラーエバ地区では、コルホーズにいる 1,381 人がまったく雇用されていない。

ソフホーズ「ミンブラク」のサティバルディン所長は、強制移住者の 50% に仕事を提供しておらず、仕事がないと説明している一方で、ソフホーズは、労働力不足のため、すべての農業キャンペーンにおいて、夏の間、休業状態であった。

ケレロフカ地区では、夏季にコルホーズに雇用されたのは、就労可能者 810 人のうち、30% 以下しかいなかった。現在、畑仕事がないため、その 30% 以下の人々も失業している。

北カザフスタン州のアイルタウ地区とカクシェターウ地区には、300 人以上の売春婦がいる。彼女らは完全に失業しており、アパートもなく、浴場、家畜小屋、納屋、草原の干し草置き場など、どこにでも住んでいる。彼女たちは着るものも履くものもなく歩き回っており、生活の手段を有していない¹⁰。

アクトベ州イルギス地区には 12 人の売春婦がいるが、彼らは完全に失業している。彼女らはコルホーズで提供された労働を拒否し（2 人を除く）、売春を続け、15～17 歳の未成年者には 3 ルーブル、成人には 5 ルーブルの料金で売春を続けた。彼女たちにアパートを提供する者はおらず、彼女たちはどこでも暮らし、干し草の山に寝たり、下着も靴も衣服もまったく身につけず、ほとんど裸の状態で歩き回ったりすることもある。

この地域に強制移住させられた 12 人の売春婦は全員逃亡を図ったが、うち 10 人は逮捕され、もといた場所へ連れ戻されたが、ロシア・ソビエト連邦社会主義共和国刑法第 82 条の規定により起訴されることはなかった。

労働日数の計算方法や強制移住者の労働に対する支払い方法について正確な指示がないため、地域のさまざまな地区のコルホーズは自分たちの好きなようにやっている。あるコルホーズでは、労働日数に基づいて他のコルホーズ員と同等にパンを支給するところがあれば、50% 以下しか支給しないところも、この問題が明確になるまで一切の支給を控えているところもある¹¹。

ノヴォロシースク地区のコルホーズ「コミュニンの道」では、5 月中、例外なくすべての強制移住者に与えられた労働日は 1 日だけであったが、彼らの多くは 10～15 日、あるいはそれ以上の労働日分は働いていた。

ノーバヤ・シュリーバ地区のソフホーズ「レーニン」では、イワノフ園芸作業班長は、強制移住者のドレイホフスカヤ・ヤニナが灌漑用に 540 ヴェドロー(単位)の水を汲み上げているのに対し、ノルマは 300 ヴェドローであるにもかかわらず、1 労働日のみを記録し、標準を超えて汲み上げた分は考慮されなかった。

セミパラチンスク第 1 レンガ工場では、13 歳から 16 歳の青年の労働時間は大人と同じである。さらに、

⁹ 手書きで書き加えられている

¹⁰ この段落は鉛筆で 2 回線が引かれており、隣の余白には「売春婦について」という書き込みがある。

¹¹ この段落は鉛筆で 2 回線が引かれており、隣の余白には「支払い」という書き込みがある。

重い肉体労働も行っている¹²。

カザフ共産党（ボリシェヴィキ）中央委員会のドスムカンベトフ委員とノヴォロシースキー地区党委員会のコヴァレンコ書記は、コルホーズの議長に、すべての強制移住者は、どのような仕事をどれだけ行ったとしても、半日以上労働日を記録してはならないという指示を与えた¹³。

カザフ共産党（ボリシェヴィキ）フョードロフカ地区委員会のアントノフ書記は、コルホーズと村の執行委員会の委員長会議で、次のような指示を出した。「ポーランド人への労働報酬としての食料品の販売と支給をすべて停止し、ポーランド人に最も困難な労働を与え、そのノルマを集団農民よりも2倍遵守するよう要求し、このように記録された労働に対する支払いはコルホーズ員の半分とすること¹⁴」。この取り決めの結果、コルホーズは強制移住者への製品の供給をほぼ完全に停止し、彼らに最もつらい仕事を割り当て、これらの問題に関するいかなる請求も（法的なものでさえ）無視された。

パブロダール州のソフホーズでは、強制移住者のヴォジンスキー一家（3人）が2ヶ月で77ルーブル分働いたが、その賃金は3カ月間支給されなかった。強制移住者は、このソフホーズでの労働に対して、過小評価された基準で給料が支払われている。

ジャルミンスキー地区では、強制移住者の月収は10ルーブルから50ルーブルである。例えば、スクヴォリチンスカヤは5月に12ルーブル47コペイカを稼ぎ、6月に39ルーブル20コペイカを稼いだ。マリア・コヴァツカヤは5月に8ルーブル59コペイカを稼ぎ、6月に33ルーブル18コペイカを、8月に22ルーブルを稼いだ。コクペクティ地区のソフホーズ「コミンテルン」で、強制移住者の女性エプラーは、6月に16ルーブルを稼いだ¹⁵。

ソフホーズ、コルホーズ、工業企業の責任者らからの評価によると、強制移住者の大半の労働態度は良好であった。例えば、アクトベ州の多くのコルホーズでは、強制移住者は半年で500労働日以上働いている。コルホーズ員の平均労働日数は300～350労働日であるが、強制移住者の大部分は、コルホーズでの労働が無給であるため、最近、仕事を放棄し、組織化されていない反ソ運動を行っている¹⁶。

セミパラチンスク近郊の泥炭採掘場では、強制移住者ドルダスは2倍以上のノルマを達成し、月に500から600ルーブルの収入を得ている。クスタナイ地区に強制移住させられたスタンケビッチは、「なぜコルホーズで働かないのか」という質問に対して、「私には自分の頭があるから、あなたの方のために働くことはできない。お金はたくさんあるし、足りなければ送られてくる」と答えたという話もある。

多くの地区から、コルホーズと産業協同組合への強制移住者の受け入れの可能性や、これらの組織で専門家として登用する可能性について問い合わせが来ている。その際彼らが問題にしているのが、各組合は臨時雇いの労働者を15%以上雇用することはできないという産業別協同組合の規約である。だが、この問題に関して何の指示も地区に対して出されていない。誰も皆黙って通り過ぎるのを待っているのだ¹⁷。

強制移住者の問題は、どの政党やソ連の例でも直ちに議論されることはなく、この問題について、いかなる決定も下されることはなかった。

III. 強制移住者の生活設備

強制移住者を収容するための特別な施設は建設されなかった。そのため、地域・地区組織は、ソフホーズとコルホーズの既存の建物に彼らを収容する任務を与えられた。

強制移住者の住居を検査したところ、追放者の住居環境は、正常な生活を維持するための最低条件を満た

¹² この段落は鉛筆で丸く囲まれており、隣の余白には「組み入れる」という書き込みがある。

¹³ 余白に「労働日」と書き込まれている。

¹⁴ 余白に鉛筆で「賃金」と書き込まれている。

¹⁵ 余白に鉛筆で「賃金」と書き込まれている。

¹⁶ この段落は鉛筆で囲まれ、その上に「加筆」と注記あり。余白には鉛筆で注記：「含める、働いた、が問題を解決すること」

¹⁷ 余白に鉛筆で「協同組合とコルホーズのメンバーとしての受け入れについて」と書き込まれている。

していなかったことが判明した。彼らのほとんどは、窓もドアもペチカさえもない非居住施設（牛舎、納屋、風呂小屋など）に収容されていた。例えば、カラバリク地区のクスタナイ穀物農場の中央集落では、120 人の追放ポーランド人が、浴場など住居に適さない非居住施設に収容されている。ある指定された浴場には約 50 人が住んでおり、過密状態のため、伝染病が発生し、7 人が死亡した。

マイカインゾロトでは 700 人の移住者¹⁸が働いているが、アパートをまったく与えられない者もある。鉦山の責任者は、「この人たちは私には必要ない」と反抗的に宣言している。同鉦山では、入植者が契約に基づいて働いており、その待遇は強制移住者よりもはるかに良い。

クリュチボーエ地区の「プロレタリア」ソフホーズの「タクミンサイ」農場では、12 世帯が一棟の納屋に住み、8 世帯がドアも天井もペチカもない未完成の建物に住んでいる。

ヴィシュニャコフスキーのソフホーズでは、強制移住者用のアパートとなったのは古い畜産農場に仕切りをつけたものである。これらの部屋には 5～10 世帯が住んでおり、強制移住者用の食事を作るための調理台にはコンロが 1 つしかないため、調理台の前には行列ができる。さらにコンロは始終炊かれていなければならないが、入植者には燃料の備蓄がまったくない。

ノーバヤ・シューリバ地区にあるソフホーズ「レーニン」では、23 家族が平屋の小さな家に住んでいる。16 平方メートルの一部屋に 5 世帯、25 平方メートルの別の部屋に 11 世帯が住んでいる。このような密集した宿泊施設の結果、強制移住者のベッドには、トコジラミ、ノミなどの虫が大量にはびこった。不衛生な環境にいるため、強制移住者はしばしば病気にかかるが、医療は提供されていない。

コルホーズ「ゴロシチェキン」では、13 人の幼い子供たちがいるアンナ・モチルの家族は路上で暮らしている。誰も彼女をアパートには入れてくれない。子供たちも彼女自身も、服や靴を持っていない。子供たちに食べさせるものは何もない。モチル自身は働けない。彼女は病気で乳飲み子がおおり、子供たちは物乞いをしている。

アクモラ州のチュシュカリンスキー食肉ソフホーズ及び東食肉ソフホーズでは、アパートが不足しているため、強制移住者がソフホーズの労働者と一緒に宿泊している。小さな部屋に 8～12 人の家族が 3～4 組、順番に床に寝るところもある。

イルティシュ州では、今年 9 月 8 日、ポーランド移民の女性パニユク・ヴァルヴァラが、小さな子供達を連れて内務人民委員部地方事務所を訪れ、3 歳から 10 歳までの 4 人の息子と 2 人の娘を内務人民委員部地方事務所に残し、「子どもたちを引き取ってください。子どもたちは飢えています。私は食事を与えることができません。引き取ってくれないなら私は溺死するしかありません」と言い残して行方不明になった。パニユクは子どもたちを内務人民委員部地方事務所に残し、乳幼児だけを連れて姿を消した（遺体は発見されていない）¹⁹。

パブロダール地区では、移住者の女性マリア・ガルブズが内務人民委員部の地区事務所を訪れ、「このような生活を送るくらいなら、自殺した方がましです。ただソ連当局に私の子供たちを見捨てさせないでください」と言った。

セミパラチンスク州チャルスク地区では、10 人の強制移住者が、冬に子どもたちに食事を与えることができないので、子どもたちを引き取ってほしいという要請を内務人民委員部地方事務所に申請した。これらの強制移住者の扶養家族には 6 人から 9 人の未成年の子供がいる。50 人以上の高齢者と障害者が内務人民委員部の同じ地区事務所に援助を要請した。

ラザボーエ地区では、強制移住者が「パンをよこせ！」と書かれたビラを撒く事件があった。北カザフスタン地域のチストフスキー穀物国営農場では、現在、強制移住者の 12 家族が空になった古い穀物倉庫に住んでおり、22 家族が自分たちで穴を掘った土小屋に住んでいる。

¹⁸ これは、1940 年 4 月に行政的に追放された抑圧者の家族を指す。

¹⁹ 余白に鉛筆で「彼らは子供たちを置いていった」と書き込まれている。

ブラーエバ地区の Колхозы「イスクラ」では、8 人の幼い子供たちを扶養している強制移住者女性ジュダン・アネリアは、まったく生活の糧がない。子供たちは物乞いをして、施しを乞うている²⁰。そんな一家には誰もアパートに入れてくれなかった。夏には森で暮らし、冬には掘った土小屋で暮らしている。アウルの Колхозыのアパートに収容された強制移住者も、決して良い環境ではない。 Колхозы員が、家賃や食料と引き換えに、移住者に畑仕事や自分達の家畜の世話を強要するケースもある²¹。

彼らは、強制移住者にアパートの一部を提供するために、月 50 ルーブルから 100 ルーブルという法外な料金を請求し、衣服や贅沢品、消費財などの現物での支払いを要求する。そして家主たちは、強制移住者たちがアパートの支払いに使っていたものがなくなったと見るや否や、地元当局の助けを借りて、移住者たちを路上に放り出すのである²²。ケレロフカ地区レオニドフカ村では、ヤドヴィガ・ルコフスカが家主のシュレスから理由もなくアパートを追い出された。アクトベ州の Колхозы「世界革命」では、アパートの所有者の一人が、二人の子供を連れた強制移住者を路上に放り出した。これは、強制移住者がアパートの現物支払いができなくなったためである。今年 7 月 28 日、ツリュピンスコエ地区では、地区事務所長が、強制移住者が居住する全 Колхозы員世帯に課税するよう金融係に命令した。

カザフスタン共産党（ボリシェヴィキ）オルジョニキーゼ地区委員会のモロゾフ書記長は、今年 5 月 23 日、地区労働者代議員会の会議で、 Колхозы長らに対し、残っているポーランド人を Колхозыのアパートから追い出し、彼らにいかなる援助も与えないよう指示した。

これらの指示に従って、 Колхозы「ディミトロフ」長のボイコは Колхозыに戻り、強制移住者のマイロワを呼び出して、すぐにアパートから出るように求めたが、彼女の反対に対して彼はこう答えた。「お前たちがどこに住むかなんて、私にはまったく興味がない」。その後、マイロワは 3 人の子供を残して首を吊って自殺した。

8 月末、セミパラチンスク州ソビエトの強制移住部門の責任者であるブルナシェフは、それまで空き家になっていた Колхозы員の家屋に入居していた強制移住者のアパートからの立ち退きを命じ、 Колхозы長のクリツキーの抗議にこう答えた。「彼らに同情でもしているのかね？彼らがどこに住もうがいいじゃないか。」

マルトゥク地区では、強制移住者が Колхозыで精力的に働いているにもかかわらず、多くの Колхозы長が食料品の値段をつり上げている。例えば、ポーランド人は、分離機を通した牛乳に対して、 Колхозы員よりも 1 リットル当たり 2～3 倍高い料金を請求されている。ヴィシニャコフスキー地区の Колхозыでは、強制移住者には 1 労働日につき 4 ルーブルが支払われるが、肉 1 キロが 18 ルーブルで販売されている。この肉は Колхозы員には 1 キロあたり 6～8 ルーブルで販売されている。ノヴォロシースキー地区執行委員会の委員長は、 Колхозы員に対して、「ポーランド人はみんな大金持ちなのだから、アパート代や食費のために彼らからはもっと取ればいい」と言った。

強制移住者のいる多くの地区から、彼らを農村消費組合の組合員として受け入れてよいかという問い合わせが来ている。そうしなければ、不足している商品を彼らに渡すことができず、日用品を彼らに補充する計画が実現されないからである²³。

多くの地区で、強制移住者の物質的・生活的状況が困難であったため、地元住民がくすねることが増え、強制移住者たちは様々なものをほとんど無価値で売らざるを得なくなった。例えば、セミパラチンスクでは、ある女性強制移住者はジャガイモ 3 プード²⁴と金の時計を交換し、別の女性は 60 ルーブルで金の時計を売

²⁰ 余白に鉛筆で「物乞い」と書き込まれている。

²¹ 余白に鉛筆で「新たな利用の形態か？」と書き込まれている。

²² 余白に鉛筆で「家賃」と書き込まれている。

²³ 余白に鉛筆で「農村消費組合の組合員について」と書き込まれている。

²⁴ ロシアで使われていた重量の単位、1 プード 16.38 kg なので、3 プードは 49.14 kg。

った。ノーバヤ・シューリバ地区では、ソフホーズ「レーニン」の機械・トラクター作業場の責任者が、強制移住者の女性ベルナルドスカヤから小麦粉 2 プードとウールのズボンを交換した。ジャルミンスキー地区では、強制移住者は道路という道路にあふれ、バザーに行くコルホーズ員をつかまえては各自の品物を食料品に交換している。

強制移住者の困難な生活状況を利用して、一部の労働者が女性を同居に誘うという事実もある。例えば、第 1 農場の管理者であるケリバエフは、強制移住者の女性たちに、より良い生活環境を約束して、自分と親密な関係を持つように強要した。強制移住者のナジェージダ・ペルコスは、「この流刑状態から解放されないなら、勝手に立ち去らざるを得ません。ここにいるより刑務所にいるほうがましです。小さな子供を抱えて働くことはできませんし、売るものももうありません」と述べている。

多くの場所で、強制移住者が自分たちのために小屋を買ったり建てたりしたいと思っているが、地元のソビエトはそれを許さない²⁵。強制移住者はそのような苦情を勤労者代表地区ソビエトに訴えるが、勤労者代表地区ソビエトは許可してよいものかどうか知らない。強制移住者の学齢期の子供たちは教育を受けていない。

コルホーズ「第 3 インターナショナル」では、義務教育の対象となる特別入植者の子どもたちは、地区国民教育部側がこの問題について明確な立場を示さないために、勉強することを許可されていない²⁶。クスタナイ地区では、100 人以上の学齢児童のうち、初等教育が受けられるのは 30 人以下である。カリーニンスキー地区では、就学年齢の子ども 109 人のうち 37 人しか勉強していない。レビャジスキー地区では、169 人の学齢児童のうち 51 人が教育を受けている。ツリュビンスコエ地区では、強制移住者の学齢児童 220 人のうち、就学しているのはわずか 70 人、ウルリュチュープ地区では、児童 101 人のうち、就学しているのは 30 人、等々。

同時に、アクモラ州のように、強制移住者の子どもが中等教育を受けるために中等学校のある場所に移されるケースもある。また、強制移住者の親が、子どもをソ連の学校では教育しないと反抗的に宣言するケースもある。例えば、ラザボーエ地区のドミトリエフカ村に移住したアブラムチクは、「ロシア人が私の子どもをいじめるのを許さない」と語った。

ほとんどどこでも、仕事を与えられなかった結果、強制移住者たちが大挙して地元の党、ソ連組織、内務人民委員部に、またモスクワのスターリン同志、モロトフ同志、ソ連社会主義共和国内務人民委員部に宛てて集団声明を書き、自分たちに対する非人道的な扱いを指摘し、仕事とパンの提供を求める事例がある。

特別移住者がコルホーズ員やソ連機構の労働者、さらにはカザフスタン共産党（ボリシェビキ）のメンバーやコムソモールのメンバーと結婚するケースもあり、これに関連して、党機関や内務人民委員部は、個々の労働者や党员から、そのようなケースをどう扱うべきか、そのような結婚は許可されるかどうかなどについて問い合わせを受けている²⁷。

IV. 強制移住者の育成に対する地元の党、ソビエト、経済組織の態度

州に配置された強制移住者の状況に関する州当局の不明確さに鑑み、州経済当局、さらには党やソビエトの機関は、彼らを「客人」と見なし、すぐに他の場所に移動するか、内務人民委員部に全員逮捕されるかのどちらかであると考えた。このことが、州当局の強制移住者に対する態度を決定づけた。

強制移住者に対する地区指導者の態度は、彼らを内務人民委員部に属する者とみなしているため、すべての問題に関して、強制移住者を地区事務所に送っている。セミパラチンスク州ジャナ・セメイ地区では、「ノーヴィイ・ミール」、「ケデイ・ベリク」、「クララ・ツェトキン」などの地区内の 23 のコルホーズのうち 14

²⁵ 余白に鉛筆で「小屋の建設」と書き込まれている。

²⁶ 余白に鉛筆で「子供たちは学校に受け入れられていない」と書き込まれている。

²⁷ 余白に鉛筆で「結婚について」と書き込まれている。

のホルホーズが、強制移住者を内務人民委員部が引き取るよう要請する特別文書を送付した²⁸。

クスタナイ地区の地区組織は、同地区に住むすべての強制移住者に一家族あたり 72 キロの食肉供出を課したが、現在に至るまで、強制移住者が払えるはずがないにもかかわらずこの課税をしたことが正しかったのかどうか、この地域で判断できる者はない²⁹。

北カザフスタン州のいくつかの地区では、ホルホーズ員が家賃や食料品の値上げをまさにゆすりのように行っている事実がある。強制移住者は、既存の市場価格より 2 倍、時には 3 倍も高く請求されている。多くの地区で、1~2kg のパン 1 斤に 15~20 ルーブル、卵 1 ダースに 12~15 ルーブルなどが請求されている。

ノーバヤ・シュールバ地区の「第 2 次 5 カ年計画」養豚ソフホーズの現場で、ホルホーズ員のペロヴァは強制移住者にパンを配給した際に、勘定をごまかした。同じソフホーズでは、強制移住者から小麦粉を買うためのお金を集めたが、小麦粉が与えられず、お金も返されなかった人もいた。50 ルーブルを支払った強制移住者の女性ブチンスカヤは小麦粉を受け取れず、お金も返されなかった。

クラスノアルメイスク地区のホルホーズ「インダストリヤ」では、強制移住者からの労働時間分の支払い要求に対して、ホルホーズの代表は次のように述べた。「我々は年末にあなたたちに支払います。凶作の結果、ホルホーズ員も労働日に対して何も受け取れず、あなたたちにも支払うものが何もないのです。」

ホルホーズ「10 月 14 日」では、ホルホーズ員のココシェンコが、自分のアパートに住む強制移住者から 3 つの腕時計（金 1 つ、銀 2 つ）を購入し、投機的な価格で市場に転売した。ホルホーズやソフホーズの指導者層の中には、無礼で脅迫的な態度をとり、時には強制移住者を殴る者もいた。例えば、強制移住者のベレズニークは、内務人民委員部への請願で次のように報告している。「バラタイ村に住んでいる私や他の人たちは、集団農場で強制的に働かされています。何らかの理由で仕事に行けない人は殴られます。暴行は第 1 作業班長のセリクによって行われています。2 週間前、レオニダ・ティシュケヴィッチは病気だったのに、セリクは彼女に仕事に行くよう強制しました。病気であることを証明するために彼女は医師の診断書を受け取りましたが、セリクは彼女に仕事に行くよう要求し、棒で彼女の脇腹を殴りました。ティシュケヴィッチはベッドに倒れ、さらに数回殴られました。このような暴行を受けた後、ティシュケヴィッチは 7 日間働くことが出来ませんでした。

強制移住者アンナ・ジグマンは、セリクに対し、ホルホーズ長のところへ行って食料を要求する許可を求めましたが、セリクはそれを許可せず、彼女を無理やり働かせようとしてしました。そしてジグマンは空腹のまま働くことはできないと言いました。するとセリクは彼女を棒で 2 回殴り、彼女はあざが数日間消えませんでした。」（資料が確認され、事件は検察に移送された。）

マムルートカ地区執行委員会のオルロフ議長とマシュコフ地区党委員会書記は、村議会の議長たちに、強制移住者を道路建設に無給で働かせるよう指示した。その結果、多くの強制移住者が無給で他の仕事に使われることになった³⁰。

マムルートカ地区とプレスノフカ地区では、多くのアパート所有者が強制移住者に、家賃と引き換えにホルホーズや自分の家や菜園で働くことを強制している。ジャガイモ掘り、燃料の準備、牛の乳搾りなどをするのだ。一方でホルホーズ員の主婦は、家でゴロゴロしていることが多く、家事もせず、ホルホーズの仕事にさえ出ない³¹。

シュチエでは、ホルホーズの製粉所を持っていた村ソビエト長ナズムトディノフとホルホーズ長カルバトフが、強制移住者が持ってきた穀物を挽くことを拒否し、強制移住者に条件を提示した。ホルホーズの製粉所で穀物を挽いて欲しければ、牧草地に行ってホルホーズのためにただで干し草を積み上げろ。そうすれば

²⁸ 余白に鉛筆で「強制移住者を連れてくること」と書き込まれている。

²⁹ 余白に鉛筆で「食肉供出税」と書き込まれている。

³⁰ 余白に鉛筆で「無給で働かされている」と書き込まれている。

³¹ 余白に鉛筆で「新しい労働力の利用方法か？」と書き込まれている。

コルホーズは強制移住者のために国定価格でパンを挽く、というのだ。同様のことがケレロフカ地区のコルホーズでも起こっている。

この問題に関する強制移住者の申告はいかなる当局においても一切考慮されていない。最近、強制移住者たちは数十人単位で申請や陳情を手に入務人民委員部の地区事務所を訪れ、他の地区への移送を求めている。

コルホーズ「クラスノエ・ウトロ」では、強制移住者の女性が小麦のふり分けに従事し、1日3～4ノルマを達成していた。強制移住者のそのような仕事ぶりを見て、コルホーズ員は抗議し、自分たちにもっと良い仕事をさせろと委員長を非難した。するとコルホーズ長は、ポーランド人を水路の掃除に、コルホーズ員を小麦のふり分けに従事させた。その結果、水路掃除においても、ポーランド人はコルホーズ員の2倍のノルマをこなしたが、コルホーズ員は小麦のふり分けの仕事においてノルマを1つも達成できなかった³²。

プレスノフスキー・ソフホーズのラリン所長は、強制移住者による集団申告で、強制移住者たちが実際よりも前の日付で署名された命令で労働に登録され、その目的が移住者たちを欠勤を理由に裁判にかけるとの指令の対象とすることだったと申し立てた際にこう表明した。「その通りだ。集団農場で最悪なものは何でもポーランド人に与えるし、何であれ彼らに与えるのは一番最後だ。彼らは敵であり、どこにでも行ってしまえばいい。私にそのように上の機関が指示しているのだ。」

V. 強制移住者の活動における諜報作戦の状況

強制移住者の活動における諜報作戦の状況を調査したところ、以下の表が明確に示すように、多くの州部門でこの業務に真剣な注意が払われていないことがわかった：

州名	州内の強制移住者数	強制移住者のうち情報提供者の数	州内の逮捕された強制移住者数	合計逃亡者数	拘留中	逃亡中	強制移住者に対する諜報活動件数	提出された事件記録数
北カザフスタン	20,064	70	104	100	68	32	3	42
パヴロダール	11,411	176	44	17	13	4	6	215
クスタナイ	8,705	65	13	8	8	-	1	4
アクトベ	7,092	134	19	41	32	9	2	20
セミパラチンスク	7,644	68	30	15	12	3	3	27
アクモリンスク	6,176	66	8	1	1	-	2	30
合計	61,092	579	218	182	134	48	17	338

情報提供者の募集はエージェント方式³³で行われる。強制移住者が居住する一部の地域では、内務人民委員部の州支部は、彼らに対する諜報活動や作戦活動をほとんど行っていない。例えば、イエシルスキー地区では、強制移住者 318 人に対して、内務人民委員部の地方事務所には 1 人の情報提供者しかいない。セミパラチンスク地域のジャナ・セメイ地区の強制移住者 829 人に対して、低級情報提供者が 3 人しかおらず、それさえも地区中心のレンガ工場にいる。

³² 余白に鉛筆で「興味深い事実だ」と書き込まれている。

³³ エージェント方式とは、法執行機関や諜報機関の秘密職員（エージェント）や実務職員が、情報の所有者との信頼関係を確立または発展させることで、作戦上重要な情報を探し出し、違法行為を記録するという B 手法。出典：

https://studref.com/632922/pravo/agenturnyy_metod_osnova_operativno_rozysknoy_deyatelnosti

アクモラ州のヴィシュニョーフカ地区では、強制移住者 700 人に対して情報提供者が 16 人いるが、同州の他の地区では低級情報提供者は 2〜3 人しかいない。

今年 7 月、バリトフ鉱山では、労働者に 3 日間パンが与えられなかった後、19 人のポーランド人移民が仕事に行かず、パンを要請する「代表団」を所長に送ったが、内務人民委員部の地方部がこの事件を知ったのは、私たちが地区部長と一緒に鉱山に行った時のことだった。なぜなら鉱山で働いていた強制移住者 50 人の中にはエージェントはいなかったからだ。

強制移住者の大部分は現在、あらゆる場所で反ソビエト活動を活発に行っており、あらゆる種類の挑発的な噂を広め、反ソビエト地下組織を結成しようとしている。そのため、調査中の強制移住者ヴィトコフスキーは、情報源「ボレスラフ」との会話の中で、「ソビエト政権に対抗する準備が必要です。ソビエト連邦が戦争を起こした場合に対抗できるよう、組織を作り、活動する必要があります。そのためには、すべてのポーランド人のリストが必要です」と述べた。

強制移住者である元警察官のフーバは強制移住者の間で運動している。「我々がよく働けば、ソ連は強くなる。これは我々の利益にならない。ここの人々は不満を抱いており、ソ連の権力に反対している。人々は何も持っていないし、何も見ていない。ソ連政府は人々を騙している。」フーバ自身はほとんど働いていない。見せかけのために 1 日に 20〜30 コペイカ稼ぐだけだ。なぜそんなに働かないのかと聞かれると、フーバはこう答える。「もううんざりだ。いずれにせよ、ここに長く住む必要はないし、将来は健康が必要になる。」

今年 8 月 5 日、強制移住者がラザボーエ地区タヴォルジャン村で反ソビエトのビラを撒いた。

最近、内務人民委員部によって調査中の反ソ連分子と強制移住者とのつながりが明らかになった。すなわち、内務人民委員部によって調査され、トロツキストとして追放されたフメリニツキーは、ポーランド人たちが到着した最初の日から彼らと日常的に連絡を取り、反ソ連感情を表明し、「ポーランド人の追放は野蛮だ。何百もの家族が破産し、すべてを奪われた。わがロシアはかつて野蛮な国であったように、今も野蛮でありつづける」と宣言した。

ソフホーズ「マガジャノフスキー」の運送業者カルミンキンはポーランド人の宿舎を訪れ、「仕事とアパートを見つけるお手伝いをしたいのですが、私の役職の都合でそれができないのが残念です。ここのみんなの生活は厳しいです」と言った。次にカルミンキンは強制移住者たちを自分のアパートに招き、親しく語り合った。

カザフスタン共産党（ポリシェビキ）のテミルスク地区委員会の指導者であるセレジエチキンは、地区党委員会からコルホーズ「レーニンの道」での農業キャンペーン実施の代表者であったが、到着した最初の日から、強制移住者のポーランド人女性レスコビッチと接触し、頻繁に彼女に付き添って彼女の家を訪問した。レスコビッチは、セレジエチキンとコルホーズ員たちの前で、党と政府の指導者の信用を失墜させたが、セレジエチキンはこれに注意を払わず、彼女との接触を続けた。

「アクトベ・プラウダ」の正式な編集長としてロドニコフスキー地区 центр: Родниковский に到着したハフィゾフは、コルホーズ員の家に滞在し、そこに住む強制移住者と出会った。彼女は元大資本家の娘で、内務人民委員部に逮捕された元憲兵ディスコの妻だったが、ハフィゾフは彼女と親しくなった。彼女の反ソビエト的な発言に対して彼はこう答えた。「あなたは自分の感じていることをあまり人と話さないようにしなさい。何年か経てば、あなたは完全に平等なソビエト連邦の国民になるだろう。私はあなたのような妻を持つことはやぶさかでもないが、今は待たなければならない。党员としてそうするのは不都合だからだ。1 年後には状況は完全に変わっているだろう。」

カラバリク地区に住んでいた強制移住者のパブロワは、会計士で元クラークのスタシュークのアパートに住みつき、彼と「良好な」関係を築き、彼のアパートでコルホーズ員がいるところで反ソビエト煽動を行い、強制移住者の例をあげてソ連が「意図的に人々を絶滅させている」と証明し、「ポーランドは敗北したが、まだ死んではない！」と主張した。強制移住者の中には、ソ連政権に対して和解不可能なほど敵意を抱いており、明らかにテロリストの感情を表明している者もある。例えば、強制移住者のザヴォツカヤは、「機会が

あれば、私たちポーランド人のために、自分の手で数人のポリシェビキを殺していただろう」と宣言している。強制移住者のクルチャク・ヴァレリアは、「ポーランドに戻ることができたら、まず、夫を逮捕した男を殺す。彼のことはよく覚えている」と語っている。強制移住者のピョートル・ミゴルスキーはこう宣言する。「私はまだこのままここを去るつもりはなく、ロシア人を一人殺すつもりだ。最近ドイツでドイツのファシストたちがやったのと同じことをするだろう。」強制移住者のタティルジャ・アンナはこう宣言する。「共産主義者は全員絞首刑にされるべきだ。そうすれば、世界で暮らすのはもっと良く、もっと平和になるだろう。彼らは私たちを完全に破壊し、私たちの富をすべて奪った。」

強制移住者たちの強い敵意はコルホーズに対しても示されている。例えば、ロドニコフスキー地区のエンベクシ・コルホーズのコルホーズ員の中で、内務人民委員部に逮捕された元ポーランド人地主の妻、ブレドヴァヤ・マリアはこう語った。「コルホーズはなぜ存在するのか、誰が発明したのか？ 今や私たちやあなたたちコルホーズ員はコルホーズで働かなければならず、収入はすべて国家が取り上げている。あなたたちも私も飢えたままだ。」と。

強制移住者で水車所有者のクラーク、リュベツキーは言う。「個人で働くほうが確実にいいし、儲かる。自分のために働くのだから。だがここでは、生きている人間全員が動物のように一か所に集められている。これは人生ではなく、拷問だ...なぜ集団農場で働くのか？」。コルホーズ「エンベクシ」の強制移住者であるウルバンスカヤは「ソビエト政府は我々の敵だ。我々はそれを助けるべきではない。集団農場で働くことは拒否しなければならない。」と言った。

こうした煽動の結果、9月26日には、コルホーズ「第3インターナショナル」で働いた人は全労働人口の半数以下に減少し、9月27日にはわずか4人しか働かなくなった。

9月25日、コルホーズ「クララ・ツェトキン」において、強制移住者が非常に遅く出勤したため、コルホーズ長は、一人当たり300gの代わりに200gのパンを与えるよう命じた。これを理由に、7人の強制移住者が反抗的に職場を去った。

強制移住者による次のような敵対活動もある。妻が旧ポーランド警察の工作員として内務人民委員部に逮捕されたレフチンスキーは、徴兵前の兵士たちの間で反ソ煽動を行い、彼らが赤軍に合流したらドイツ国境への派遣を願い出るよう、そしてそこからドイツ領に逃れるよう説得していた。

今年8月20日、強制移住者のコマロフスキー・ドミトリーは、反ソ連的な内容の匿名のビラを内務人民委員部のイルティシ地方部に送ったが、そこにはこう書かれていた。「やい、お前ら！お前たちは人間ではなく、獣のようだ！今より100倍悪くてもソヴィエト政権下よりはましだろうよ。自分たちを食べ物にし、人を生かさなないのは、悪党であるお前たちだ」。

ウリツキ地区に住む亡命者のヴォズニアクとイエドルシェフスカヤは、コルホーズ員に公然と宣言した：「ロシアでは人を犬のように扱うが、それももうすぐ終わる」。元ポーランド人将校の妻でカラバリク地域に住んでいた強制移住者であるポーランド人女性ベンディク・ユゼファは、パスポートが発行された時、パスポートの受け取りを断固として拒否し、こう言った。「あなたのパスポートがなくても私は生きていける。ここでは、あなた方の国民全員が飢えている。ソ連ではパン一切れさえなく、生きる糧もない。私をイギリスかドイツに送ってくれた方がましだ。そっちのほうが暮らしやすいのに」。帰宅して、ベンディクは強制移住者の中で言った：「ソ連では、私をポリシェヴィキにしようとしているが、そんなことは絶対にあり得ない」。

ほとんどすべての場所で、強制移住者たちは外国やソ連内のさまざまな大使館と連絡を取っている。例えばクスタナイ地区にいる強制移住者のうち、13人がモスクワのドイツ大使館と、4人がイギリス大使館と、2人がアメリカ大使館と連絡を取っている。強制移住者が出したり受け取ったりしている書簡の調査の結果、強制移住者のかなりの部分で、ソ連当局に対する和解しがたい敵意が確立されている。

最近大量に発覚しているのが、ベラルーシ・ソビエト社会主義共和国やウクライナ・ソビエト社会主義共和国の西部に住む親類や知人にあてた、あるいはそこから来た手紙において、ソビエト連邦に対する露骨な反ソ的・挑発的捏造を書く行為である。例えば、強制移住者のクシシュチャコワ（元警察官の妻）は、ノヴ

オグルーツク在住のポーランド人司祭ブゼルスキから手紙を受け取った。「あなたはそこで使者として、宣教師として行動し、ポーランドを支持するよう人々を誘導しなければならない、ポーランドはきっと何らかの形で回復されるだろう」。

アクトベ在住の強制移住者オグネフスカ・マリアは、ドブリニンスカヤ州のスホドニツァ・ホズから手紙を受け取った。手紙には「忍耐強く、早い終焉を期待しててください」と書かれていた。

強制移住者のマリア・マフニクは、ドイツの叔父に宛てた手紙にこう書いている：「叔父さん、私たちがここでどうやって昼食をとっているか知っている？ 私たちは草原で野生の動物を捕まえたときだけ昼食に肉が食べられるんです。ここでは、帽子に星をつけている人だけがいい暮らしをしているのです」。ルーツクから届いたヴォズニアク・ハリナ宛ての文書に、ヴァレンティナという人物がこう書いている：「気を引き締めて、いじめに遭わないでください。すべては私たちの考え通りになります。あなたと一緒に住んでいるすべてのポーランド人に挨拶してください。ポーランドはまだ消滅していないと伝えてください」と。スラドコフスカ宛ての文書の中で、ダウィデュークはこう書いている：「私たちのポーリャは無気力な眠りについており、目覚める気配はない。フランク医師も病気だが、アンティクは彼女を救うと言っており、私たちは彼に希望を託している」。

ルーツクからココシンスカに宛てた文書の中で、ブロシンスカはこう書いている：「私はあなたの手紙を神聖なものとして隠している。後でポーランドの行政当局に提出して、捕虜状態から解放してもらうためだ。あなたたちをどうやって迎えに行くかヤヌシュクと話してみる。レシェクはポーランド軍のリーダーになるはずだ。イングランド国王がポーランド国王になるそうだ。私たちは彼がもうすぐ来ることを期待している。心配しないで。希望はある」。

強制移住者のバイグリナは、ルーツク州のトロフィモヴァに手紙を書いている。「働け、働け、働け、と皆が叫ぶ。でも、食べるものは何もくれない。あるポーランド人は、2、3日パンを食べられず気が狂った。あるポーランド人女性は鞭で殴られ、もう一人は警官に殴られた。また別のニュースでは、ポーランド人女性が入水し、3人の子供も一緒に溺死させた。

何かニュースがある？ それともすべて変わりはない？ もしかしたら、我々の破壊者たちはもう死んでしまったのだろうか？ 私は彼らが異国の地でパンも食べられずに苦しむ様を見届けるまで生きてやる。奴らに復讐してやる。親族の流された血は決して忘れない！ 大丈夫、奴らは我々の同胞よりひどい死に方をするだろう。」

ルーツク市のヘトマンチュクへ、強制移住者クロボツカヤはこう書いている：「私たちの幸福は消えませんでした。火で焼かれたり、拷問されたりしたわけではないから。希望が高まっているのが聞こえます。私たちはただその日を待っているだけです。敵は私たちを隔てましたが、長くは続かなかったのです。私たちは楽しみ、彼らは私たちの魂のために地中で腐っていくでしょう。幸福は私たち若者に微笑みかけ、敵は野原の露のように消えていくでしょう。」

VI

カザフ共産党（ポリシェヴィキ）中央委員会の書記、スクボルツォフ氏との合意により、強制移住者が配属された地域に滞在している間、我々は、教育学と責任ある仕事を除いて、強制移住者を専門別に雇用するように指示した。州委員会の書記らを訪問した際、彼らから強制移住者の活用の問題を事務局の会議で討議するよう助言され、この問題に関する州委員会の局の決定はすでに下されている。

現在、私たちは強制移住者に関するすべての資料をカザフ共産党（ポリシェビキ）中央委員会に提出しており、同委員会は事務局の会議でこの問題を議論し、州の党とソビエト機関に強制移住者の育成に真剣に取り組むよう義務付け、何ができて何ができないかを判断する適切な決定を下すべきである。

我々を通じて、内務人民委員部の地方部局は、強制移住者のための諜報作戦活動を強化し強制移住者による反ソ活動の兆候が芽のうちに摘み取られるよう指示を受けている。

カザフ・ソビエト社会主義共和国内務人民委員、国家安全保障担当少佐
バブキン
カザフ・ソビエト社会主義共和国内務人民委員副委員、国家安全保障担当中尉
ハリトーノフ

第 45 号 ポーランドからの強制移住者オストシェグがソ連最高会議のスクヴォルツォフ議員に助けを求める請願

アルマ・アタ市

1941 年 1 月 14 日

スクヴォルツォフ同志、ワルシャワから妻と 3 人の子供とともに移住者³⁴としてきたことをお伝えします。ポーランドで働いていましたが、常にソ連に行きたいと思っていましたが、それは叶いませんでした。しかし、戦争中に出発しました。ソ連への旅の間、私と子供たちは国境で 14 日間過ごしました。多くの苦勞をしましたが、それでもソ連にたどり着けて嬉しいです。旅の後、ベラルーシに到着したとき、私は 1 年間マグニトゴルスクに徴用されました。そして誠実に立派に働き、もっと働けたのですが、子供たちがずっと病気で、医者は気候が良くないと認め、この街を去るよう命じました。その後アルマトイに行きましたが、20 日間路上生活をしており、アパートを見つけることができません。もはや自分たちを養う手段がなく、死ぬしかありません。だからこの件で助けていただきたいのです。子供たちは学期を逃しています。私はどんな仕事でもします。ただ、子供たちと落ち着けるように、何か居場所を与えてもらえればと思います。

できれば、できるだけ早くお願いします。私は子供たちと一緒に路上にいるので、あと 2 日も 3 日も路上にいないければならないのなら、おそらく入院しなければならないでしょう。

スクヴォルツォフ同志、どうか助けてください。さもないと 5 人が死ぬことになります。

請願者：オストシェグ

第 46 号 ポーランドからの強制移住者クペルベルグがソ連最高会議のスクヴォルツォフ議員に対し窮状について述べた請願

アルマ・アタ市

1941 年 1 月 14 日

スクヴォルツォフ同志、私がワルシャワからの難民で妻と一緒にいることをお伝えします。ポーランドで働いていましたが、ソ連に行きたいと思っていたものの行けず、戦争中にソ連への旅の途中で到着しました。その後、ソ連のベラルーシへの旅の後、国境で 14 日間過ごしました。その後、マグニトゴルスクで 1 年間徴用され、誠実に働き、感謝して市民パスポートと労働手帳を受け取りました。そして仕事を辞め、アルマトイに行きました。人々が仕事とアパートを見つけられると褒めていたからです。しかし、ここに到着してみると、アパートの状況が悪いことがわかりました。妻と 20 日間路上生活をし、飢えています。すでにすべてを売り払い、スクヴォルツォフ同志に助けを求めています。

³⁴ 3 番目のカテゴリーのポーランド国民は、1940 年 6 月 29 日に特別難民移住者として追放された。1939 年 9 月にドイツから東ポーランドに逃げたポーランド国民が捕らえられたため、彼らは「抑留移民」とみなされた。彼らの 85% はユダヤ人だった。ソ連のポーランド愛国者連合の地域委員会の議長、ギルフの情報によると、1944 年 6 月 15 日の時点で、アルマアタには 1,408 人の元ポーランド国民が住んでおり、ポーランド人 320 人 (22.7%)、ユダヤ人 933 人 (66.5%)、ウクライナ人 151 人 (10.7%)、ベラルーシ人 4 人 (0.3%) が含まれていた。さらに、内務人民委員部は、第三波の間に、小商人、医師、エンジニア、弁護士、ジャーナリスト、芸術家、大学教授、教師、その他のポーランド知識人を追放した。約 7 万 7 千人が、伐採作業のためにソ連北部の特別居住地へ送られた。申請者エストジェクの家族には仕事が与えられた。

妻と私はどんな仕事でも受け入れる覚悟です。できるだけ早く居場所を与えてください。
その場で返事をいただきたいです。なぜなら私には住所がないからです。

請願者：クペルベルグ

第 47 号 ポーランドからの強制移住者からソ連最高会議のスクヴォルツォフ議員への窮状に関する手紙

1941 年 1 月 15 日³⁵

リッターから来た 6 人が、あなたに助けを求めています。私たちの生活について説明させてください。1939 年にポーランドに住んでいましたが、ドイツが私たちの住む都市を占領しました。ユダヤ人はさらに迫害され、ウクライナ人とベラルーシ人の兄弟たちが勇敢な赤軍によって解放されたことを知りました。私たちはドイツからソ連に逃げることを決意しました。撃たれる可能性を知りながらも、それを実行することにしました。逃亡中に多くの仲間が殺されました。ソビエト政府は、生まれて初めてリッター市で仕事を得る機会を与えてくれました。私たちは貴族支配のポーランドでは一度も投票したことがありませんでした。選挙の際には、横断幕を持って真っ先に来ようとしてしました。人生でこれ以上の喜びを味わったことはありません。スクヴォルツォフ同志に投票することで、私たちは不滅のスターリン主義者と共産主義者の陣営に投票しました。私たちは、あなたがあなたを選んだ人間を助けてくれたら、できれば私達のためにしてほしいと思います。私たちは到着しましたが、アパートがありません。小さな子供がいて、一人の女性は妊娠しています。私たちは路上におり、リッターに戻る手段もありません、私たちの専門分野で働くためにここに来たのに、私たち一人一人があなたに助けを求めています。私たちは返事をいただきに 1941 年 1 月 4 日に出頭します。私たちの要請を拒否しないでください³⁶。

ハリム・ペトルーシュカ
ハイエバ・ペトルーシュカ
ヴォルントメン
ヴァルントメン
リン
ヴィーケルマン

第 55 号 カザフ・ソビエト社会主義共和国内務人民委員部からカザフ・ソビエト社会主義共和国軍事委員部への、同共和国に駐留するポーランド国民の総数に関する情報

アルマ・アタ市

1942 年 1 月 28 日

南カザフスタン州：25,998 人
ジャンブール州：22,051 人
北カザフスタン州：12,362 人
クスタナイ州：5,317 人

³⁵ 受信番号によって日程を推定

³⁶ カザフスタン共産党中央委員会第一書記スクヴォルツォフの指示により、すべての申請者はカザフ産業協力評議会に雇用され、住宅を提供された。その後、1942 年 2 月 5 日、カザフソビエト社会主義共和国人民委員会議の決議「カザフソビエト社会主義共和国におけるポーランド国民の労働と生活の取り決めについて」が採択され、それに従って、地域執行委員会と地区執行委員会は、1941 年 12 月 1 日のカザフスタン共産党中央委員会人民委員会議の決議「カザフソビエト社会主義共和国における疎開住民の労働取り決めと消費者サービスについて」に従って、彼らに住宅と雇用を提供するよう勧告された。

パブロダル州：9,233 人
セミパラチンスク州：9,000 人
アクチュビンスク州：5,646 人
東カザフスタン州：454 人
アルマ・アタ州：184 人
クジル・オルダ州：1,000 人
カラガンダ州：373 人
グリエフ州：187 人
西カザフスタン州：187 人
アクモリンスク州：7793 人
アクモリンスク～カルタル間の鉄道建設に従事³⁷：4000 人
合計：103,757 人

カザフ・ソビエト社会主義共和国内務人民委員部第 4 部管理監査部副部長
国家安全保障中尉
シニツィン

第 58 号 新聞記事「ポーランドの子どものための学校」

1944 年 5 月 31 日

ジャンブールにポーランドの子供たちのための中等学校が開校した³⁸。500 人の子供たちが教育を受ける。歴史、地理、文学を含むすべての科目が母国語で教えらる。ロシア語の学習も導入されている。

この地区にはすでに 2 つの独立したポーランド学校と、数多くの小中学校にポーランド人クラスがあり、1,000 人以上の子供たちがそこで学んでいる。

ジャンブールの第 1 鉄道学校はソ連における最初のポーランド人クラスであり、90 人の児童が学んでいる。工業資格の取得に必要な主要科目に加え、生徒は母国語、ポーランドの歴史と地理を学ぶ。また、40 人の児童が工場訓練学校で学んでいる。

チュイ地区のポーランドの孤児たちのために孤児院・寄宿学校が設立され、85 人の子供たちが教育を受けている。

ポーランド愛国者連合の州委員会は、地元組織の支援を受けて、ジャンブールにポーランドの図書館と小劇場を開設するための準備作業を行っている。

第 59 号 バルハシ市執行委員会の決定「バルハシにおけるポーランド学校の開校について」

バルハシ市

1944 年 8 月 7 日

³⁷ アクモリンスク～カルタル鉄道、または一般にスターリン～マグニトゴルスク鉄道と呼ばれていた鉄道の工事は、1939 年に開始された。カザフ・ソビエト社会主義共和国の内務人民委員部によると、1942 年 1 月には 4,000 人のポーランド人が作業に従事しました。1943 年末には 2,000 人が従事しており、そのうち 730 人（36.5%）はカザフスタンに移送されたポーランド人で、376 人（18.8%）は国内西部から避難した人々、894 人（44.7%）は地元住民であった。1944 年には、1,500 人のチェチェン人とイングーシ人が、建設中のアクモリンスク-カルタル鉄道のインフラ整備に参加した。労働軍に動員された人々も作業に参加した。

³⁸ 1944/1945 年度には、共和国内にポーランド人の子供達のための学校 50 校が開校された。/ Казахстан в период Великой Отечественной войны Советского Союза. – Т.2 – Алма-Ата, 1967. – С.21. url: <https://docs.historyrussia.org/ru/nodes/267909-kazakhstan-v-period-velikoy-otechestvennoy-voyny-sovetskogo-soyuza-1941-1945-v-2-t-t-2-1944-1945-gg#mode/inspect/page/25/zoom/4> (参照 2024-07-06)

執行委員会は以下のように決定した：バルハシ市に居住するポーランド市民からの、バルハシ市におけるポーランド学校開設に関する請願を認め、市教育局の責任者であるシュヴァイキナ同志に対し、本年9月1日から学校が業務を開始できるよう計算した上で、ポーランド学校の組織化に向けた準備を始めることを義務付ける。

バルハシ市労働者代表ソビエト執行委員長
ピリビン
バルハシ市労働者代表ソビエト書記
コルマコワ

第 60 号 クジルオルダ州執行委員会の決定「ポーランドの子どもたちのための幼稚園開設について」

クジルオルダ市

1944 年 9 月 6 日

1944 年 3 月 29 日のカザフ・ソビエト社会主義共和国人民委員会議第 160 号決議「幼稚園網の拡大と活動の改善について」に基づき、州労働者代表ソビエトの執行委員会は次のように決定した。

1. 1944 年 10 月 12 日までに、クジルオルダ市に 60 人のポーランド児童を収容する幼稚園 1 か所を開設する。
2. クジルオルダ市労働者代表ソビエト執行委員長ホダコフ同志に対し、幼稚園のための適切な施設を準備し、必要な家庭用設備や用具を提供するよう義務付ける。
3. 市議会議長のニガイ同志に対し、今年 9 月 6 日までに幼稚園に管理者と教師を配置するよう義務付ける。
4. 州財務局長クサイノフ同志に対し、見積りに従って予算配分から幼稚園に資金を提供するよう義務付ける。
5. 州商業局長ジャイマガンベトフ同志に対し、60 人のポーランド児童を収容する幼稚園を供給計画に含め、1944 年 10 月 12 日から食料供給を確保するよう義務付ける。
6. この決定の実施に関する管理を、州労働者代表ソビエト執行委員会副委員長、オツタヴノヴァ同志に委ねる。

州労働者代表ソビエト執行委員会委員長
トゥレブベルゲノフ
州労働者代表ソビエト執行委員会書記
アリベコフ

第 61 号 ポーランド国民のために受け取った慈善品の違法使用に関するカザフ・ソビエト社会主義共和国人民委員会の決議

アルマ・アタ市

1944 年 10 月 6 日

人民委員会議は、アルマ・アタ州執行委員会副委員長のハセノフ同志とアルマ・アタ州消費者協会連合元委員長のサリノフ同志が、1943 年にポーランド国民のために慈善目的で受け取った工業製品と食品の不正使用を許可したことを指摘している。その金額は 745,039 ルーブル 41 コペイカである。

これらの人物は、違法に使用された慈善品を返済するようという人民委員会議の指示に適時に従わなかった。

人民委員会議は以下を決定する。

1. ポーランド国民に供給することを目的とした慈善品の違法使用、およびその補償に関する人民委員会の指示に従わなかったため、アルマ・アタ州消費者協会連合の副委員長、サリノフ同志は嚴重戒告を受ける。

2. 以下の団体は自身の財源から、合計 745,039 ルーブル 41 コペイカの違法に使用された慈善寄付金を返金すること。

- a) カザフ特別貿易機関 – 63,791 ルーブル 35 コペイカ
- б) アルマ・アタ州消費者協会連合 – 314,609 ルーブル 26 コペイカ
- в) カザフ障害者協同組合供給販売部 – 182,759 ルーブル 40 コペイカ
- г) 協同組合「赤い波」 – 183,879 ルーブル 40 コペイカ

3. アルマアタ地域執行委員会は、カザフ障害者協同組合供給販売部と協同組合「赤い波」からの指定された金額の食料品と工業製品の徴収を委託される。カザフ特別貿易機関とアルマ・アタ州消費者協会連合からの回収は、人民商務委員会が 1944 年第 4 四半期の工業製品と食料品に関する両者の資金を削減することによって行うべきである。

4. アルマアタおよび南カザフスタン州執行委員会に、州の社会保障局が受け取った物品および製品が正しく使用されているか確認するよう指示する。アルマアタでは 58,113 ルーブル 10 コペイカ、南カザフスタンでは 432,635 ルーブル 52 コペイカである。

慈善品が他の目的に使用された場合には、不法に消費された物品や製品を直ちに補償し、責任者を裁判にかける。

カザフ・ソビエト社会主義共和国人民委員会議副議長

D. クナエフ

カザフ・ソビエト社会主義共和国人民委員会議事務局長

D. シルツォフ

ドイツ人・フィン人特別入植者に関する資料

第 63 号 ソ連内務人民委員部人民委員命令第 001175 号「レニングラード郊外のドイツ人とフィンランド人をカザフ共和国に移住させる作戦を実行するための措置について」

モスクワ市

1941 年 8 月 30 日

最高機密

レニングラード郊外のドイツ人とフィンランド人をカザフ共和国に移住させることに関するソ連国家防衛委員会の決議に従い、以下の措置を実施する。

1. 作戦は 1941 年 8 月 31 日に開始され、9 月 7 日に終了するものとする。

2. この作戦は、ソ連内務人民委員副委員長メルクロフ同志とレニングラード州内務人民委員部局長クバトキン同志に委託される。

3. 移住する 96,000 人を鉄道で輸送し、そのうち 36,000 人は水路でレニングラードからチェレポヴェツへ輸送する。

4. チェレポヴェツ市での水上輸送から鉄道輸送への移住者の移動を確実にするため、ヴォログダ州内務人民委員部のガルキン同志部長は、内務人民委員部の副部長で国家保安部大尉のスヴィリドフ同志を隊長とする作戦グループをチェレポヴェツ市に派遣する。

5. ソ連内務人民委員部運輸局第3部長のペロフ同志をチェレポヴェツ市に派遣し、鉄道による移住者の積み込みと派遣の組織化の作業を監督させる。

6. メルクロフ同志とクバトキン同志は、人民内務委員会付護送部隊の指揮官の中から輸送部隊の指揮官を任命し、各輸送部隊に必要な数の赤軍兵士を任命する。また、移送中の移住者の迅速な監視業務のため、各輸送部隊に作戦要員を1名ずつ割り当てること。

7. メルクロフ同志は 作戦遂行計画と輸送部隊指揮官への指示を現場で作成し、承認しなければならない。

8. カザフ共和国内務人民委員バブキン同志は、カラガンダ、クジル・オルダ、南カザフスタン、ジャンプール州において、カザフ共和国人民委員会議によって決定された場所での移住者の受け入れと定住を確実に組織すること。

9. ソ連邦内務人民委員代理チェルヌイシェフ同志、防諜管理局長フェドトフ同志、運輸管理局長シネグボフ同志に、移住者の搬出のための列車の適時配備、移動中の輸送、およびカザフ共和国での定住の監視を確実に行う責任を負わせる。

ソ連内務人民委員
ソ連国家保安委員長ペリヤ

第65号 カザフスタン共産党（ボリシェビキ）のクスタナイ州執行委員会と州委員会の決議「ドイツ人移住者の経済的取り決めについて」³⁹

クスタナイ市

1941年9月5日

特別ファイル

1941年9月1日付のカザフ共和国人民委員会議およびカザフスタン共産党（ボリシェビキ）の決議⁴⁰に従い、ドイツ人移住者の生産部門上の配置をより適切に行うために、州ソビエトの執行委員会およびカザフスタン共産党（ボリシェビキ）州委員会の事務局は、次の法令を発布する。

1. 2万人（約5,000世帯）の移住者配置の最終計画を承認する。（世帯別の計画は添付資料を参照）

2. 当該州のソフホーズに最大1,000世帯、または4,000人までの移住者を受け入れることを検討する。

ソフホーズ・トラスト長であるヴラセンコ同志とソフホーズ長たちに、移住者を受け入れるための施設を準備するよう義務付ける。

3. カザフスタン共産党（ボリシェビキ）地区執行委員会と地区委員会に対し、移住者の定住を、移住者のコルホーズ員全員をそのまま既存のコルホーズで受け入れる方法、および移住者のコルホーズを新しい場所に作成する方法で実施することを義務付ける。

4. カザフスタン共産党（ボリシェビキ）の地区評議会および地区委員会の執行委員会が、1941年に建設され、完成段階にある住宅、移住管理局の住宅、および移住管理局によってローンで調達された住宅、合計1,258戸を移住者の宿泊施設として使用することを許可する。残りの世帯は、新しい住宅の建設、農村部の空き家の活用、詰め込み方式、といった方法で住居を割り当てる。新しい住宅の建設は、移住者によって行われる予定である。

³⁹ 1941年9月5日、カザフスタン共産党（ボリシェビキ）州委員会事務局の会議で承認された（議事録第125号、1ページ）

⁴⁰ これは、カザフ共和国人民委員会議とカザフスタン共産党（ボリシェビキ）中央委員会の決議「今年8月26日のソ連人民委員会議と全ソ共産党（ボリシェビキ）中央委員会の決議『サラトフ州、スターリングラード州およびヴォルガ・ドイツ共和国からのドイツ人移住者の受け入れについて』を実施するための措置について」を指している。この共和国の決議に最初に反応したのはバヴロダール州の指導者たちで、1941年9月2日に「ドイツ人入植者の受け入れ、宿泊、経済的措置の提供に関する措置について」という決議を発表した。

5. 移住部門のすべての建築資材は、州評議会の執行委員会の命令によってのみ支出の対象となると定める。
各コルホーズの幹部は、移住局の命令によって配達された建築資材を、コルホーズ長の個人的責任において他の目的に使用してはならない。

6. カザフスタン共産党（ポリシェビキ）の地区評議会、地区委員会の執行委員長に、レンガ、日干しレンガ、葦を圧縮し板状に加工したマット、荒石などの必要な現地の建築資材の生産活動を組織することを義務付ける。

7. 州計画委員会と第 22 回共産党大会記念レニングラード金属工場管理部（チチェンコフ同志）に対し、地区からの申請と移住部門の木材在庫を考慮に入れ、1941 年秋の未使用林を建設用伐採のために割り当てること、また不足の場合は 1942 年分の年間伐採量から割り当てることを許可する。

8. 移住管理局（ゼムリャンスキー同志）は、穀物、家畜、野菜、じゃがいもの交換証書を所持して到着する移住者の正確な記録と登録の確実な管理を義務付ける。

9. 州食糧調達人民委員部（チギシェフ同志）とソフホーズ・トラスト（ヴラセンコ同志）に対し、移住者が以前の居住地で引き渡した分の代わりに、家畜、穀物、飼料、野菜、じゃがいものを移住者に支給するための準備を直ちに開始することを義務付ける。

10. カザフスタン共産党（ポリシェビキ）の地区評議会および地区委員会の執行委員会に次の義務を課す。

a) 2 日以内に、移住者が移住するコルホーズを決定し、新たな定住地を決定すること。そして、移住者の定住計画を 1941 年 9 月 10 日までに州ソビエト執行委員会に提出すること。

b) 移住者が移住させられている各コルホーズにおいて、移住者のための居住施設の利用可能性を確認する。

c) 移住者の受入れ、荷降ろし、目的地への輸送を担当する労働者たちを選び出すこと。

d) 移住者の受け入れが計画されているコルホーズにおいてコルホーズ員に対する大規模な説明活動を実施する。

e) 移住者の輸送は、移住が行われるコルホーズの輸送手段を用いて行うこと。この目的のために、地区ソビエト執行委員会とカザフスタン共産党（ポリシェビキ）地区委員会に対し、現地組織とコルホーズから必要な量の輸送手段を動員する権限を与える。

f) 古い家屋の修繕や新しい家屋の建設に必要な建築資材の輸送のために、各コルホーズから輸送手段を徴発する。

11. 地区ソビエト執行委員会と移住部門に対し、荷降ろし駅において、本年 9 月 15 日までに、移住者が定住地に送られるまでの一時的な宿泊施設を準備することを義務付ける。

12. 州商業部（ボイコ同志）、州商業（メルニコワ同志）、州消費者協会連合（シロ同志）に、荷降ろし駅で移住者のための食糧を手配するよう義務付ける。

13. 移住の管理は内務人民委員部の州執行部に委ねられ、州執行部には、移住部、州土地部、ソフホーズ・トラストおよびそれらの地方機関を移住作業に参加させる権利が与えられる。

14. 到着するドイツ人移住者の配置と経済的手配の責任は、カザフスタン共産党（ポリシェビキ）の地区ソビエトの執行委員会の議長と地区委員会の第一書記が負うものとする。

15. コルホーズへの移住者の出迎え、受け入れ、目的地への派遣、配置を組織するにあたり、担当の労働者を地区および荷降ろし駅に派遣すること（リストを添付）⁴¹。

16. この決議の実施に関する管理は、カザフスタン共産党（ポリシェビキ）州委員会の農業部門の責任者であるバイシュリン同志に委ねられるものとする。

州ソビエト執行委員会副委員長

⁴¹ リストは非公開

第 68 号 カザフスタンにおけるドイツ人移住者の情報

アルマ・アタ市

1941 年 9 月 9 日
最高機密
親展⁴³

全ソ共産党（ボリシェビキ）中央委員会、ソ連人民委員会、国家防衛委員会の決定⁴⁴によれば、以下の人々がカザフスタンに移住することが計画されている。

ヴォルガ・ドイツ共和国から 125,000 人のドイツ人。そのうち：

西カザフスタン州：17,000 人
セミパラチンスク州：18,000 人
パヴロダール州：20,000 人
北カザフスタン州：25,000 人
アクモリンスク州：25,000 人
クスタナイ州：20,000 人

レニングラード州から 89,000 人のフィンランド人と、7,000 人のドイツ人。そのうち：

フィンランド人
クジル・オルダ州：29,000 人
ジャンブール州：30,000 人
南カザフスタン州：30,000 人

ドイツ人
カラガンダ州：7,000 人

モスクワ市及びモスクワ州から 8,617 人のドイツ人。ロストフ州から 21,400 人のドイツ人。そのうち：

⁴² 署名はない

⁴³ カザフスタン人民委員会副委員長コイシグロフ宛

⁴⁴ これは、ソ連人民委員会と全ソ共産党（ボリシェビキ）中央委員会の「ヴォルガ・ドイツ共和国、サラトフ州、スターリングラード州からのドイツ人の移住について」という決議であり、これは全ソ共産党（ボリシェビキ）中央委員会政治局の「特別ファイル」に保管されていた。1941 年 9 月 6 日のソ連国家防衛委員会の法令第 636ss 号「モスクワ市、モスクワ州、ロストフ州からのドイツ人の移住について」によれば、9 月 10 日から 15 日にかけて、カラガンダ州に 4,000 人、ジャンブール州に 8,000 人、クジル・オルダ州に 8,000 人、南カザフスタン州に 10,017 人を含む、30,017 人をカザフ共和国に移住させる計画であった。受け入れ、移民、経済的取り決めの組織は、カザフ共和国人民委員会議長長のウンダシノフとカザフスタン共産党（ボリシェビキ）書記長のスクヴォルツォフに委託された。ソ連人民委員会議会の予備基金から、ソ連内務人民委員部への移住費用として 400 万ルーブルが、カザフ共和国人民委員会には 200 万ルーブルが割り当てられた。さらに、クリミア自治共和国からオルジョニキーゼ州（5 万人）とロストフ州（3,000 人）に移住した 53,000 人のドイツ人がカザフ共和国に到着した。

クジル・オルダ州：8,000 人
ジャンプール州：8,000 人
南カザフスタン州：10,017 人
カラガンダ州：4,000 人

クジル・オルダ州における定住の困難さに関連して、全ソ共産党（ボリシェビキ）中央委員会のスターリン同志宛てに電報を送付した。その内容は、クジル・オルダに向かう予定の 29,000 人のフィンランド人のうち 10,000 人をアクチュビンスク州の遠隔地区へ、そしてモスクワ州から予定されているクジル・オルダ州向けの 8,000 人のドイツ人を、強い要請のあるアクモリンスク州へ移送する許可を求めるものである。回答はまだ届いていない。

カザフ共和国内務副人民委員長
ボグダノフ

第 75 号 ソ連人民委員会内務特別移住部部长イワノフによるソ連人民委員会農業部⁴⁵へのドイツ人移住者の就労に関する訴え

チカロフ市

1941 年 10 月 21 日

我々の持つデータによれば、ドイツ人移住者の受入地域の土地機関（地区土地部、州土地部、地方土地部）は、当該集団の経済的・労働的な配置に十分な注意を払っていないことが判明しています。特に、引き渡された家畜、穀物飼料などの受領証の正確な記録が現在までなく、また現地の調達機関を通じたコルホーズ員への家畜と飼料の支給も開始されていません。

移住の際に、ドイツ人コルホーズ員が引き渡した家畜、飼料などの受領証を受け取っていない事例が多数あります。

例えば、クリミア自治共和国からカザフ共和国ジャンプール州に到着した 2,000 人以上のドイツ人は、元の居住地に残した家畜、穀物などに関する必要な文書を持っていません⁴⁶。しかし、移住元地区と移住先地区の双方の土地機関は、この問題の早急な解決のために必要な措置を講じていません。

⁴⁵ また、オムスク市にあるソ連カザフスタン・ウラル地方人民委員会農業総局にも宛てられている。

⁴⁶ 特別移住者の家族に家畜を提供し、肉・乳製品産業および農業人民委員会を通じて経済発展のための融資を割り当てるというソ連政府およびカザフ共和国人民委員会の指示を完全に実施することは不可能であることが判明した。大多数の特別移住者が居住地に到着すると、残してきた財産に関する書類の質の悪さという問題が発生した。そのため、カザフスタン共産党（ボリシェビキ）の南カザフスタン州委員会の書記は、カザフスタン共産党（ボリシェビキ）中央委員会に、発生した状況について報告し、1941 年 11 月に次のように書いている。「ドイツ人移住者の状況は極めて困難です。なぜなら、彼らの圧倒的多数が、生産手段と食糧の両方を国家に引き渡すための適切な書類を持たずに到着したからです。住宅、家畜、バン、荷車など、すべてが記録された譲渡証書があり、地区評議会の代表者または地区の公認代表者が署名していますが、これらの証書は非常に不注意に作成されているため、ほとんどの場合、印鑑が押印されていません。調達機関（人民調達委員会の公認代表者、「カザフ共和国家畜調達総局事務所」など）からの領収書はほとんどありません。したがって、調達機関は、指定された文書に基づいて何も発行できません。」1945 年 9 月 27 日、バヴロダル人民委員会事務局から同州の党およびソ連指導者に送られた特別メッセージには、次のように記されている。「ドイツ人の移住から 4 年以上が経過し、この間ずっと、特別移住者はコルホーズや地区組織に、彼らに支払われるべき家畜の支給を請願してきた。しかし、それにもかかわらず、特別移住者の大多数は今日まで家畜を受け取っておらず、その結果、多くの家族が非常に困難な財政および生活状況に陥っている。彼らから家畜を受け取った領収書は受け入れられている。サラトフ州ヴァゾフスキー地区のドイツ人はイルティシュ地区に移住したが、家畜の配達の領収書をその場で受け取らなかったため、領収書はイルティシュ地区評議会に送られた。」

土地機関に明確な指示を緊急に出し、この件に関する責任を彼らに要求し、ドイツ人コルホーズ員の経済的・労働的な配置に関するすべての不備を直ちに是正するよう要請します。

講じられた措置について、私に報告していただくよう要請します。

ソ連内務人民委員部特別移住部部長
国家保安委員会少佐イワノフ

第 77 号 カザフスタン共産党（ポリシェビキ）ウバガンスキー地区委員会書記長ベルリンからカザフスタン共産党（ポリシェビキ）中央委員会書記長スクヴォルツォフ宛て、この地域の状況に関する書簡

ウバガンスキー地区
クスタナイ州

1941 年 10 月 26 日
最高機密
親展

1941 年 10 月 4 日付のあなたの手紙 No. 1190/s ⁴⁷に対する返信です。

カザフスタン共産党（ポリシェビキ）地区委員会事務局の全メンバーがあなたからの同番号の手紙を読みました。

ウバガンスキー地区の住民は主にウクライナ人とカザフ人、そして最近ヴォルガ・ドイツ共和国から移住してきたドイツ人で構成されています。

内戦中、ウバガンスキー地区の領土はコルチャークの白軍によって占領されました。

住民は一般にコルチャークを支持しておらず、貧しい人々や多くの中流階級の人々はパルチザン部隊に加わり、白軍に対して武装抵抗を行いました。

1920 年の復興期の初めに、クラークは食糧税に不満を抱き、ソビエト政府に反乱を起こし、中農と貧困農民をこの集団に引き入れました。

200 人からなるこの武装集団は、「緑の軍の革命部隊」を自称し、「打倒共産主義者、ソビエト政権万歳」というスローガンの下、食糧部隊を襲撃し、ソビエトから金品を奪い、その活動で地区内の 10 村を制圧しました。

同年、武装集団は壊滅し、13 人が射殺され、数人は有罪判決を受け、残りは逃亡しました。

集団化と、この地域のクラーク階級の解体の期間中、300 世帯のクラークが抑圧され、そのうちのいくつかは、この地域から追放された後、戻ってコルホーズに定住しました。

赤軍部隊が一時的に領土の一部を放棄したために、これら全ての反革命分子たちが蜂起しようとしており、地域内では既にこれらの敵対的な反革命分子による活動の存在を示す個別の事例が見られます。例えば：

1. 先日、地区新聞社の馬丁のチュールが、コルホーズ「10 月革命」の女性組合員（氏名は調査中）のところへタマネギ⁴⁸を買いに行きました。この女性は彼にタマネギを売ることを拒否し、「タマネギは売りません。

⁴⁷ カザフスタン共産党中央委員会（ポリシェビキ）が共和国の党機関に送った指示書には、大祖国戦争の状況下でのヴォルガ・ドイツ人の移住に関する 1941 年 8 月 28 日の法令が簡潔にまとめられている。この指示書では、反ソビエト感情の復活、敗北主義的な煽動、さらには「反革命的ファシスト破壊工作グループの組織化」が指摘されている。カザフスタン共産党中央委員会（ポリシェビキ）は、特にドイツ人移住者が定住した場所で労働者の間で政治活動を強化し、彼らの考えを調査し、警戒を強化し、社会主義的財産を保護し、国家および軍事機密を保持するために「いくつかの追加の具体的な」措置を講じることを要求した。

⁴⁸ 原文ママ

もうすぐドイツ軍が来るので、ソビエトのお金は必要なくなります」と答えました。

2. 市民のチェチリは、彼の家に下宿しているコムソモール党員のレシェトニコワに、誰かが彼に話した（誰が話したかも調査中）内容として「ドイツ軍は一般市民には危害を加えず、共産党員とコムソモール党員だけを逮捕する」と語りました。

3. リーキンという人物は、彼の下宿人に「ドイツ軍がモスクワを占領したら、ここでカザフ人の反乱が起きるだろう。なぜならカザフ人は革命前は良い暮らしをしていたが、今は悪い暮らしをしているからだ」と話しました。

4. ボイコという人物は、あたかも彼がドイツ軍の捕虜だった人物を見たかのように話をし、ドイツ軍の兵士たちが白パン、ソーセージ、ラードなどでその捕虜をもてなして、クスタナイにも来ることを約束したなどと語りました。

関係当局により必要な措置が講じられています。

これに伴い、カザフスタン共産党（ボリシェビキ）の地区委員会は、この地区での扇動や宣伝、大衆政治活動を強化するために、数多くのイベントを企画・実施しています。

各コルホーズには、収穫に関連してカザフスタン共産党（ボリシェビキ）地区委員会の代表者がおり、さらに、家畜の越冬準備に関連して代表者がおり、さらに、カザフスタン共和国事務局および地区ソビエトの執行委員会のメンバーが各ソビエトに派遣されています。

カザフスタン共産党（ボリシェビキ）中央委員会第5回総会「クスタナイ州のコルホーズ、機械・トラクターステーション、ソフホーズにおける大衆扇動活動の現状と課題について」での決議の履行のため、カザフスタン共産党（ボリシェビキ）ウバガンスキー地区委員会は以下の活動を行いました。

地区党委員会で、地区党活動家 21 人からなる扇動者グループが結成されました。党組織のないコルホーズでは、地区組織の責任者である党員が承認した 18 人からなる扇動集団が結成されました。地区党委員会で、農業専門家から 7 人からなる講演者グループが結成されました。コルホーズ、企業、施設の扇動者の構成が見直され、その結果、この仕事を遂行できないとして 26 人が職務停止となりました。

地区の扇動員たちと、戦時中における扇動・大衆活動の任務について、地域別会議が開催されました。党地区委員会では、地区の文化教育活動家たちと文化教育機関の任務に関する会議が開かれ、また壁新聞の編集者たちや労働者・農民通信員たちと戦時中における彼らの任務についての会議が行われ、この会議では壁新聞の展示会も開催されました。また、出版物の配布について通信部門の職員との会議も開催されました。

党組織がないカザフのコルホーズでは、地区党活動家から選ばれた 9 人のカザフの責任ある労働者が集団農場の農民の間で扇動活動を行うよう任命されています。

ナチスドイツとの戦争が始まって以来、コルホーズ、企業、機関で 289 回の集会や集会在開催され、6 月 22 日のモロトフ同志のラジオ演説、1941 年 7 月 3 日のスターリン同志の演説、コルホーズ主の農業アルテリ「赤い山の鷲」の呼びかけ、モスクワの女性反ファシスト集会の呼びかけ「ソ連のすべての女性、世界のすべての女性へ」、アカデミー会員ルイセンコの論文「完熟を待たずに穀物の収穫を始めよう」などが議論されました。

地区の扇動員は 1,114 回の集会と朗読会を開催し、地区党委員会の扇動員は「ドイツ・ファシズムに対するソビエト人民の大祖国戦争」と国際情勢をテーマに 49 回の報告を行いました。地区党委員会の専任および非常勤の宣伝員は「ドイツ・ファシズムに対するソビエト人民の大祖国戦争」、現代戦争の戦線と後方、1812 年の祖国戦争」などのテーマで 51 回の講演を行いました。各コルホーズ、各班、各施設で 153 の壁新聞が発行されました。

党政治活動の実施と引き受けた義務の履行に基づき、農業アルテリ「赤い山の鷲」のコルホーズ員の呼びかけの議論中に、いくつかのコルホーズ、コルホーズ員のトラクター運転手、コンバインオペレーターが良好な生産指標を達成しました。

コルホーズ「戦闘」は、この地域の模範的なコルホーズの 1 つです。コルホーズの政治および経済活動全

体は、2 人の党员と 2 人の党员候補からなる党グループによって管理されています。コルホーズの党組織者および議長は、同志ヴィニコフです。

党员とコムソモール党员の適切な配置の結果、このコルホーズは穀物の刈り取りを最も早く終了した集団農場の一つとなり、全種類の穀物供出計画を 113%達成し、4974 トンの穀物を国家に供出しました。また、肉、牛乳、羊毛の供出義務を超過達成し、所得税も全額納付しました。このコルホーズの組合員たちは、国債の購入代金を全額支払い、4,000 ルーブル以上を国家に貸し付けています。また、全コルホーズ員が肉、バター、羊毛の供出義務を完全に履行しました。

コルホーズは祖国防衛基金に 250 トンの穀物、3 トンの肉、2 トンの牛乳を拠出しました。

コルホーズとそのコルホーズ員は、赤軍のための暖かい衣服を集める活動に積極的に参加しています。羊毛 92 kg、羊皮 20 枚、アストラハンの毛皮 30 枚、羊毛の手袋 6 組、羊毛の靴下 5 組、その他が寄付されました。

共産主義者たちは自らの模範によって仕事の手本を示し、コルホーズ員たちを自分たちの道に引き入れました。党员 A.ボヴァルと党员候補 A.デュヴネは日中に割り当てられた仕事をこなし、夜は畑に行って穀物の刈り取り、積み上げ、洗浄に取り組み、生産基準を満たし、それを上回りました。

共産党员の例に多くのコルホーズ員が倣い、時間を惜しまず働きました。

上級トラクター運転手のアントン・ブラガは昼夜を問わず働き、生産基準を超過達成し、国家への穀物供出計画の適時遂行を保障しました。フォードル・ズヴァリは麦束積み上げ作業で基準を超過達成し、ノルマの荷車 12 台分に対して 16 台分を運びこみました。穀物収穫作業では、女性たちも男性に遅れを取らず、時間を惜しまず働いています。マリア・ショフマンとマリア・アレクセエワは、昼間は麦束の積み上げ作業を行い、夜間は穀物の選別作業を行っています。

収穫開始前に機械・トラクターステーションでコンバイン運転手の会議が開かれ、運転手たちは具体的な責務を引き受けました。

ノヴォ・アレクセエフスキー機械・トラクターステーションのコンバイン運転手セモン・ホフロフ同志は、自身の責務遂行のため奮闘し、2 台のスターリネッツ型コンバインで 875 ヘクタールを刈り取りました。

シランチェフスキー機械・トラクターステーションのコンバイン運転手ワシリー・ヴェンジクは、スターリネッツ型コンバインで 456 ヘクタールを刈り取りました。

コルホーズ「オクチャブリ」のトラクター運転手マルファ・チェルニャフスカヤ同志は、初年度にもかかわらず、U-2 トラクターで冬作物の播種においてノルマの 14 ヘクタールに対して 20 ヘクタールを達成しました。

コルホーズの共同家畜用飼料増産措置に関するソ連人民委員会議の決定を実行し、地区の複数のコルホーズが、1941/1942 年冬期の家畜頭数に対する飼料の完全確保を達成しました。コルホーズ「プロネヴィク」（議長はカザフスタン共産党（ボリシェビキ）候補党员のタラン同志）、「カザフスタン」（議長はウマロフ同志）、「クズル・アガシュ」（議長はジョルマガムベトフ同志）などです。

1941 年の畜産発展計画の遂行のため奮闘し、地区の複数のコルホーズが、畜産農場の補充のための家畜購入と契約において良好な成果を上げました。コルホーズ「ソビエト共産主義者」は計画の 129 頭に対して 144 頭的大型家畜を購入し、コルホーズ「クズル・ショク」は 55 頭的大型家畜と 30 頭の羊を購入しました。

コルホーズ員の追加的労働報酬に関するソ連人民委員会議とソ連共産党中央委員会の決定を実行し、いくつかのコルホーズでは畜産部門で働くコルホーズ員たちが、畜産性の向上を達成しました。

コルホーズ「力」では 10 月 1 日時点で、乳牛 1 頭あたり 1,150 リットルの搾乳を達成しました。

このコルホーズの搾乳工 T.ゾヴィナ同志は、担当する牛群からの搾乳計画超過達成により、追加報酬の前

払いとして 160 キログラム⁴⁹の牛乳を受け取りました。

コルホーズ「ボリバ」では、9 ヶ月間の飼料用牛 1 頭あたりの平均搾乳量が 1,120 リットルとなりました。

搾乳工マトリョーナ・ズヴァレワは搾乳計画超過達成により追加報酬の前払いとして 52 リットルの牛乳を、エフロシニヤ・ズヴァレワは 71 リットルを受け取りました。

コルホーズ「赤色パルチザン」と「クラスナヤ・プレスニャ」では、雌牛 100 頭あたり 90 頭の子牛を育成・保存しました。コルホーズ「自由労働」では 13 頭の雌馬から 13 頭の子馬を育成・保存しました。馬丁のマクシム・シュヴァリコフは 3 年間にわたって雌馬の生んだ仔馬達を完全に保存しました。コルホーズ「新生活」では、養豚工マリア・チェメリソワ同志が雌豚 1 頭あたり 10 頭の子豚を得て保存しました。

多くのコルホーズ員と畜産に従事する者たちは、献身的な労働の結果、他の多くのコルホーズや農場でも家畜の仔の獲得と若い家畜の保存において顕著な生産指標を達成しました。

コルホーズ「赤色パルチザン」の馬丁イヴァン・ラザレヴィチ・ゴルバネフ同志は 14 頭の雌馬から 14 頭の子馬を得て保存しました。コルホーズ「ボリバ」の馬丁グリゴリー・イヴァノヴィチ・コロフスキーは 18 頭の雌馬から 18 頭の子馬を得て保存し、赤軍地区委員会基金の馬に対する彼の献身的な世話により、18 頭の乗用馬は平均以上の肥育状態で、わずかな外傷もなく引き渡されました。

地区の資金動員年間計画は 85.2%達成されました。コルホーズ「共産主義者ソビエト」、スヴェルドロフ名称コルホーズ、「プロネヴィク」、「自由労働」が、全ての種類の国家支払いを完済しました。

多くのコルホーズ員も全ての種類の金銭支払いを期限前に完済しています。例えば、コルホーズ「クラスナヤ・プレスニャ」のフョードル・シェフツォフ、「赤色東方」のリトゥノフ、スヴェルドロフ名称コルホーズのアレクサンドル・シェフチェンコ同志などです。共産党員でありコルホーズ員であるガリフ・シャリポフ同志とアルセンチー・ジューク同志は、全ての種類の金銭支払いで国家との決済を最初に完了しました。

赤軍による敵撃滅を全面的に支援せよというスターリン同志の指示を実行し、地区のコルホーズ員、労働者、職員は防衛基金に 108,060 プード（約 1,770 トン）の穀物、1,158 プード（約 19 トン）の肉、180 プード（約 2.9 トン）の牛乳を拠出しました。国家買付の形で 45,500 ツェントネル（約 4550 トン）の穀物を国家に売却することを決定し、現金で 23,861 ルーブルを納付し、62,000 ルーブル分の国債証券を提供しました。

赤軍用防寒用品の収集として、地区の勤労者は 23 着の毛皮半外套、384 足のフェルトブーツ、289 組の手袋、148 足の靴下、50 組の下着、176 個の帽子、52 着の綿入りジャケット、30 着の綿入りズボン、28 枚の毛布、431 枚の羊皮、71 枚のカラクリ羊皮、約 10,000 ルーブルの現金、その他の物品を提供しました。

コルホーズ「共産主義者ソビエト」とその組合員は、防衛基金に 30,000 プードの穀物、300 プードの肉を拠出し、赤軍地区委員会に引き渡した 2 台の自動車、14 頭の馬、6 台の荷車、12 組の馬具に対する支払金、124kg の羊毛、121 枚の羊皮、31 枚のカラクリ羊皮およびその他の物品を提供しました。

地区の多くのコルホーズ員も赤軍への防寒用品の提供において素晴らしい模範を示しました。例えば、コルホーズ「共産主義者ソビエト」の組合員では：ニコラエンコ同志が 3kg の羊毛と 1 枚の羊皮を、ジャルキンノフ同志が 1 足のフェルトブーツ、1 組の手袋、1 頭の羊を提供しました。カリーニン名称コルホーズの組合員で、スヴェルドロフ村ソビエト代議員のヴィガニャクは 2.5kg の羊毛と 4 枚の加工済み羊皮を提供しました。

共産党員サモイレノコ同志は 1 着の毛皮半外套、1 足のフェルトブーツ、1 着のジャケット、1 着のズボン、1 個の帽子、2 足の靴下を提供しました。カザフスタン共産党（ボリシェビキ）党員で、ボリショイ・チュラコフスキー村ソビエト議長の元パルチザンのセムイキン同志は毛皮半外套を提供しました。

現在、全てのコルホーズ、企業、機関で、10 月革命記念日前の社会主義競争の組織に関するカガノヴィチ名称第一国営ボールベアリング工場集団の呼びかけが議論されています。コルホーズ員、労働者、職員はカ

⁴⁹ 原文ママ

ガノヴィチ名称工場集団の呼びかけを熱烈に支持し、10月革命記念日前の競争に参加しています。コルホーズ「ブローネヴィク」は10月革命24周年までに全ての秋季農作業を完了し、国家への供出と支払いを完済し、家畜の越冬準備を模範的に整えることを約束しました。

コルホーズ「クラスナヤ・プレスニャ」の組合員は10月25日までに麦束積み上げと国家への穀物供出を完了し、10月30日までに脱穀、秋耕、冬播き、国家への供出を終え、11月6日までに家畜の越冬準備を完全に終えることを約束しました。

カリーニン名称コルホーズの青年集会では：麦束積み上げ作業のベルマシュ・オシポフ同志が毎日10台以上の荷車分を運ぶことを約束し、国家への穀物積み出し作業のプレスチャン・マエル同志は基準の3回に対して4回の運搬を行うことを約束し、同コルホーズでは麦束からのコンバイン脱穀のための青年作業班が組織されました。

これと並んで、地区では党政治活動の実施、経済政治キャンペーンの実施においてまだ多くの不備があります。

麦束積み上げと脱穀、秋耕、冬播きが完了しておらず、穀物供出計画は85%の達成にとどまり、畜産発展計画も未達成などの問題があります。

カザフスタン共産党（ボリシェビキ）地区委員会は、これらの課題も定められた期間内に成功裏に解決されるよう、あらゆる措置を講じています。

カザフスタン共産党（ボリシェビキ）ウラガンスキー地区委員会書記長
ベルリン

第78号 「ヴォルガ・ドイツ人共和国からの移住者の子供たちのための既存の初等学校、中等学校、高等学校における追加学級の編成について」のクジル・オルダ州執行委員会決定

クジル・オルダ市

1941年11月12日

州ソビエト執行委員会は以下のように決定した：

1. カザリンスク地区勤労者代議員ソビエト執行委員会の以下の決定を承認する：

- a) 総数264人の生徒を収容する20学級編成の46の初等学級の開設について
- b) 3つの5年生学級と1つの6年生学級の開設について、具体的には：

ボスクリ中等学校に、コルホーズ「マイダנקリ」の移住者の生徒17人を収容する5年生1学級の開設。
「ゴーリキー」中等学校に、「フルンゼ」、「エクペンディ」、「ジダノフ」、「社会主義」各コルホーズの生徒15人を収容する5年生1学級の開設。ジャナタル中等学校に、コルホーズ「マイダנקリ」、「ボズクリ」、「アルガ」、「ヴォロシロフ」の移住者の子供たち29人を収容する6年生1学級の開設。「共産主義」高等学校に11人の生徒を収容する5年生1学級の開設。

7年生の生徒数が少ないため、地区教育部長ジャマノフ同志に対し、全ての7年生を市立ロシア語初等学校に移籍させ、そこに両親の負担による寄宿舎を設置することを提案する。

2. カザリンスク地区勤労者代議員ソビエト執行委員会に対し、追加学級が設置された学校への生徒の輸送をコルホーズごとに組織することを提案する。

3. 新たに開設される学級への財政支出の総額を22,300ルーブルと定める。

4. 上記措置の財源を以下のように定める：

- a) カザリンスク地区の小規模学級の削減による13,500ルーブルの経費節減分
- b) 教育費（非識字者・低識字者の解消およびその他の措置）の削減による8,800ルーブル

5. 州教育部に対し、追加学級に教員、教科書、教室、設備を確保し、全ての子供たちを就学させることを義務付ける。

労働者代表ソヴィエト執行委員会議長
エディルバエフ
書記長
パプルーガ

第 79 号 ドイツ人移住者と疎開者へのパン供給の困難についての、セミパラチンスク州の党・ソビエト指導部からカザフスタン共産党（ボリシェビキ）中央委員会書記スクヴォルツォフとカザフ共和国人民委員会議長ウンダスィノフへの書簡

セミパラチンスク市

1941 年 11 月 15 日

11 月 10 日現在、セミパラチンスク州には 34,141 人のドイツ人移住者が到着し定住しており、その内訳は労働者・職員が 16,000 人、さらに疎開者が 16,738 人です。ドイツ人移住者は、国境地域のマカンチンスキー区とアクサツキー区、および遠隔のカザフ地域であるアブラリンスキー区を除き、州内のほぼすべての地区に定住しました。全員が住居に収容されています。

移住者の食糧供給について、極めて深刻な状況が発生しています。特にベリアガチンスキー、チャルスキー、ジャルミンスキー、ジャナ・セメイスキー、アバエフスキーなどの地区では、今年の不作の影響で、今年はほとんどのコルホーズが全く穀物を持っておらず、種子もなく、労働日当としてほとんど何も支給できず、多くは国家への義務さえ果たせない状況です。

このような状況下では、これらのコルホーズは移住者に 1kg の穀物も提供できないことは明らかです。

一部の移住世帯は国家に穀物を引き渡した際の受領証を持っていますが、カザフ穀物調達機関の指示により、現在その支給は禁止されています。多くの者は穀物調達機関からの受領証を持っておらず、代わりにコルホーズや村ソビエト、その他の組織からの各種証明書を持っており、これらについての取り扱いは全く不明確です。

労働者・職員として移住した人々については、大多数が何も持っていません。調査により、これらの地区の多くのコルホーズでは、すでに到着したドイツ系移住者の一部が文字通り飢えており、物乞いをし、パンを求めてコルホーズの管理部や地区組織の敷居を叩き減らしていることが確認されています。⁵⁰我々は穀物が比較的豊富なコルホーズへの移住者の移動などの対策を実施していますが、これほど多くの人々を穀物が確保できている地区やコルホーズだけに定住させることはできません。

これに関連して、カザフ共産党中央委員会と人民委員会に以下を要請します：

1. 受領証に基づく穀物支給の問題が解決するまでの間、彼らが国家に引き渡した穀物の少なくとも 50%

⁵⁰ このような困難は他の地域でも特徴的だった。南カザフスタン州キエロフ地区フルンゼン村ソビエトでは 1941 年 11 月 11 日までに 84 人が死亡し、特に子供たちの間で高い死亡率が確認された。特別移住者への食糧供給問題を解決するため、南カザフスタン州共産党委員会は、1942 年の収穫まで最低限の食糧を確保するための、最小限の食糧ローンの提供及び、施設整備と生産手段取得のための融資の提供及び、第 3 トゥガイ支線における土木工事を国家予算で実施し、特別移住者 300-400 人をゴルステップストロイ（国家草原建設の意）に「最低限家族を養える」給与で雇用することを国家に対して要請した。バヴロダル州バヤン・アウル地区の内務人民委員部長官も 1941 年 12 月 7 日の特別報告で以下のように指摘している。「...栄養不足で腫れ上がっている人々の存在は、まず第一に食料供給における実践的な支援が必要であることを示しています。もし今後 2-3 日以内にこれが実施されなければ、全く穀物を持たず、すでに半飢餓状態で病気の状態にある家族は、死に至る状態に陥るでしょう」1945 年時点で、セミパラチンスク州に残っていた 28,000 人のドイツ人のうち 82%が困窮状態にあり、クスタナイ州の 35,000 人のドイツ人のうちほぼ 90%が困窮状態にあるなど、この状況はいたるところで見られた。

までを前払いとして支給することを許可すること。

2. 穀物を国家に引き渡したが調達機関の受領証を持たず、他の組織からの証明書や受領証を持っている移住者への穀物支給問題を緊急に解決すること。

3. 22,000 人以上いる労働者、職員である移住者および避難民向けの穀物割当を発行すること。

州内の食糧事情が極めて深刻であることを考慮し、当州へのこれ以上の移住者の受け入れを控えることが適切だと考えます。

カザフスタン共産党（ボリシェビキ）州委員会書記
ボゴリュボフ
州ソビエト執行委員会議長
ジュスロフ

第 83 号 スヴェルドロフスク地区執行委員会議長イスマイロフからジャンブル州執行委員会議長ジャンサカロフ⁵¹への通知「地区におけるドイツ人移住者の配置と経済的取り決めについて」

スヴェルドロフスク地区

1941 年 12 月 13 日

部外秘

カザフスタンの州労働者代表評議会の執行委員会と共産党（ボリシェビキ）の州委員会事務局の決定により、3,500 人のドイツ人移住者を私たちの地域のコルホーズに配置する計画が策定された。

最初の移住者のグループは 1941 年 10 月 8 日にこの地域に到着し、2 番目のグループは 1941 年 10 月 20 日に到着した。我々は個人名簿に基づいて、合計 2,879 人 780 世帯の移住を受け入れた。

I. 配置

ドイツ人移住者は以下のコルホーズに定住した。

II. 経済支援について

1. ドイツ系移住者たちは、主にコルホーズ（集団農場）において、コルホーズ農民所有の住宅に、詰め込み方式⁵²で収容されており、一部では建設未完了のコルホーズの建物や、居住に適さない（空き）家屋などに入居している。

2. 1942 年に彼らの経済的な定住を実現するために、避難部門が推奨する計画に基づいて新しい住宅建設を進める必要がある。付属建物を含む個別住宅の概算費用は、3,466 ルーブル⁵²となる。この住宅 1 軒あたりの費用は、1940 年の移住者向け住宅建設に関する農業融資基準から算出した。

以下のコルホーズにおいて、1942 年に移住者向け住宅建設を予定している：

3. 1942 年の新築住宅完成までの間、1941 年に移住者が入居した住宅の一時的な改修のため、当地区のコルホーズは大規模修繕および経常修繕を行うための資金と建設資材を必要としている。

III. コルホーズによる食料供給について

⁵¹ 写し：ジャンブル州執行委員会避難管理局長宛

⁵² イタリック体で強調された部分は色鉛筆で下線が引かれている。

ドイツ人移住者を受け入れた複数のコルホーズ（ケネス第 1、コク・バスタウ、ジャナトゥルムス、クラマ、クズル・クム、インティマク、ミルゾタイ、サッコ名称、ヴァンツェッティ名称、ウリグリ）は、数年にわたり義務的供出と機械・トラクターステーションへの現物支払いを完済できていなかった。1941 年になってようやく、国家への義務を完全に履行し、1941 年の現物支払いと過年度の未納分を清算した。

さらに、これらのコルホーズは冬穀物の種子を確保し、1942 年春播き用の種子も蓄えており、実際の収穫高に基づく穀物収支において若干の余剰があった。

ドイツ人移住者の受け入れに関連して、10 月と 11 月の間（つまり 2 ヶ月間）に、各コルホーズはコルホーズの穀物から約 2 トンから 11 トンを消費・供給しており、これが上記の経済基盤の弱いコルホーズの経済に影響を及ぼし、次の収穫までの移住者への穀物製品供給に困難な状況を生み出した。

特に現在、サッコ、ミルゾタイ、ヴァンツェッティ、コク・バスタウ、クズル・クムの各コルホーズでは、1942 年播種用の蓄えられた種子しか残っていない状況で困難が生じている。

分析のため、以下に 1941 年穀物収穫のコルホーズ穀物収支を示す。

上記のコルホーズの穀物資源に基づき、次の収穫までの移住者への食料貸付の必要量は 3,885.3 トンとなり、これは 1 世帯あたり平均 0.5 トンで計算され、1942 年春播き用の種子の備蓄を維持することを考慮している。

ドイツ系移住者の受け入れ状況とコルホーズでの今後の経済的整備措置に関する情報を提出するにあたり、スヴェルドロフスク地区労働者代議員ソビエト執行委員会は、ジャンプール州労働者代議員ソビエト執行委員会に以下を要請する：

a) 1942 年の指定建設計画に 780 戸の新規住宅建設を含め、技術指導者（現場監督、十人長）の人員配置を考慮すること。

b) 1941 年の仮設住宅の改修のため、92,250 ルーブルの必要資金と建設資材を大規模修繕および経常修繕用として支給すること。

c) 3,885.3 トンの食料貸付を支給すること（1942 年 8 月 15 日までに 1942 年収穫分から返済する条件）。

地区ソビエト執行委員会議長
イスマイロフ

第 85 号 カザフスタン共産党（ボリシェビキ）セミパラチンスク州委員会書記ボゴリューボフからカザフスタン共産党（ボリシェビキ）中央委員会書記スクヴォルツォフへの書簡「ドイツ人移住者への食料供給の深刻な状況について」

セミパラチンスク市

1941 年 12 月 18 日
最高機密

ドイツ人移住者の状況について、以下の通り報告いたします。本年 12 月 10 日現在、州内のコルホーズに 41,920 人のドイツ人移住者を受け入れ、定住させています。

ドイツ人移住者を受け入れている 11 地区のうち、わずか 3 地区（ウルジャル、コクペクティ、アクスアト）のコルホーズのみが、労働日数に応じた前払いとして穀物を支給できる状況にあります。残りの 8 地区（29,616 人が定住）では、今年の収穫が少なかったため、コルホーズには支払いが不可能です。

これらの地区では、ドイツ人移住者への食料、特にパンの供給が極めて深刻な状況となっています。栄養失調により、多くのコルホーズで人々の浮腫が発生しています。

今すぐに食料援助を行わず、現状のままにしておけば、大規模な飢餓が発生し、居住地の過密状態により、

伝染病の発生の可能性も排除できません（すでにノヴォ・シュリバ地区で発疹チフスが 3 件発生）⁵³。ドイツ人移住者への前居住地で引き渡した穀物の代わりにパン支給についての食料人民委員部からの度重なる問い合わせに対し、本年 12 月 15 日付の回答では、移住元の地区事務所はまず穀物を引き渡した集団農場員のリストを作成し、彼らがそれを照合のためにこちらに送付した後でなければ穀物の支給を開始できないとのことでした。しかし、この作業にはさらに多くの時間を要し、ドイツ人移住者の出身地の多くの地区では、地域が占領されているため、そもそもこの作業を行うことが不可能です。

これに関連して、以下の点について改めて要請いたします：

1. 受け取り所から発行された正式な受領書の提示により、ドイツ人移住者が引き渡した穀物の 30-50%を前払いとして支給する件について、承認をお願いします。
2. アクスアト、コクペクティ、マカンチ、ウルジャルなど余剰がある地区において、消費者協同組合を通じて 1,500 トンの穀物を買付け、ドイツ人移住者への供給に充てることについて、承認をお願いします。

カザフスタン共産党（ボリシェビキ）セミパラチンスク州委員会書記
ボゴリユーボフ

決議：サーリン同志へ、移住元でドイツ人が引き渡した穀物の支給を直ちに承認する必要がある。穀物購入の件については、ミコヤン同志に問い合わせ、我々が資料の照合なしで受領書による穀物支給を承認したことを通知する必要がある。リソルノフ、1941 年 12 月 24 日⁵⁴

リャホフ同志へ。セミパラチンスク強化に関する問い合わせをモスクワに送付済み。⁵⁵ 12 月 25 日

第 89 号 カザフスタン共産党（ボリシェビキ）ルザエフカ地区委員会のドイツ共産主義者の反ソビエトおよび反党感情に関する調書からの抜粋

ルゼエフカ、アクモリンスク州

1942 年 1 月 28 日
特別フォルダ

調査内容：内務人民委員部地区部長チェトヴェルゴフ同志⁵⁶による、カザフスタン共産党（ボリシェビキ）

⁵³ カザフスタンの疫学的状況は、強制移住者、避難民、難民など多くの人々が共和国に流入したことにより、困難な状況にあった。1941 年 12 月、バヴロダル州カガノヴィチ地区では状況が悪化し、「レーニン村ソビエトのホルホーズの各家屋には 20～30 人以上もの人々が密集しており、この地区では麻疹と猩紅熱が蔓延している。その結果、毎日 5～6 人が死亡している」状態だった。1942 年 1 月、ソ連内務人民委員部特別移住部長イヴァノフは、北カザフスタン州内務人民委員部長シャハンスキーに対し、伝染病の危険性について警告を発している：「ボルデン地区のホルホーズにドイツ人移住者が定住して以来、ホルホーズ員とドイツ人住民の間で小児麻疹やチフスなどの病気が蔓延し、死亡率が高くなっている。[...] ドイツ人移住者がこれらの病気を地区に持ち込み、現地のホルホーズ員と同居しているため、住民の間で大規模な感染症の発生と蔓延の危険がある [...]」。しかし、「カザフスタンの科学医療機関の歴史より 1941-1945」編集者の見解では、1945 年 2 月 8 日付の共和国保健人民委員部と人民委員会議の報告書に記されているように、1941-1945 年のソ連医療は敬意に値する成果を上げたとしている：「取られた措置により、共和国内では大規模な感染症の流行は防がれた。個別の発生は直ちに制圧された」。

⁵⁴ 翌 12 月 25 日、カザフスタン共産党（ボリシェビキ）中央委員会書記サーリンは、セミパラチンスク州委員会書記ボゴリユーボフに以下の電報を送信した：「ドイツ系移住者への受領書提示による穀物支給の件について、12 月 18 日付文書番号 11380 で『穀物調達機関』向けに指示済み。移住元のリストとの照合なしで、カザフ共和国食料人民委員部全権代表の指示に従い、定められた量の支給を直ちに開始するよう『穀物調達機関』に指示せよ」。

⁵⁵ 署名判読不能

⁵⁶ デイル・アンドレイ・アレクセーエヴィチ、1903 年生まれ、ドイツ系、ヴォルガ・ドイツ人共和国バルツェル地区モール村出身。初等教育修了。逮捕前は北カザフスタン州ツェリンヌイ地区ガルシノ村に居住、ホルホーズ農民。1942 年 1 月 17 日、ルザエフカ NKVD 地区

党员 ヴンデル・ヤコブ・ゲインリホヴィチの反党的行為に関する報告について。

ヴンデル（1894 年生まれ、ヴォルガ・ドイツ人自治ソビエト社会主義共和国ヴァリツァル地区モール村出身）は、1941 年に移住措置によりルザエフカ地区に到着。1940 年 7 月に入党、党员証番号 3267766、ヴォルガ・ドイツ人自治共和国バリツェル郡党委員会にて入党承認。教育歴は小学校 2 年。「社会主義者」コルホーズの一般農場員。

調査により、ヴンデルは反ソビエト的傾向を持つドイツ人のシェルフとディールと親密な関係を持ち、彼らが住民の間で組織的な反ソビエト的、反革命的活動を行っていたことを、党员でありながら知っていたにもかかわらず、適時に通報せず、実質的に内務人民委員部に逮捕された上記の者たちの反ソビエト的行為を隠蔽していたことが判明。

ヴンデルは地区党委員会幹部会に出頭。

決定：反ソビエト的、反革命的活動を行った者たちの隠蔽行為により、ヴンデル・ヤコブ・ゲインリホヴィチを党から除名する。アクモリンスク州党委員会に承認を要請する。

調査内容：内務人民委員部地区部長チェトヴェルゴフ同志による、カザフスタン共産党（ボリシェビキ）党员エングラフ・イヴァン・ペトロヴィチの反ソビエト的行為に関する報告について。

エングラフ（1882 年生まれ、民族はドイツ人、教育程度は低い）は、1940 年 4 月入党、党员証番号 8733198、カザフスタン共産党（ボリシェビキ）ルザエフカ地区委員会にて入党承認。「社会主義者」コルホーズの一般農場員。党の処分歴なし。

ヴォルガ・ドイツ人自治共和国からの移住ドイツ人のコルホーズ到着後、エングラフは反ソビエト的傾向を持つ一部の者たちと共に、住民の間で反ソビエト的扇動を行い、虚偽の挑発的な噂を流布し、敗北主義的な考えを表明し、ファシスト軍の力と戦闘能力を賞賛し、ソビエト政府の信用を失墜させようとした。

エングラフは地区党委員会幹部会に出頭。

決定：反ソビエト的扇動、住民間での虚偽の挑発的な敗北主義的噂の流布により、エングラフ・イヴァン・ペトロヴィチをカザフスタン共産党（ボリシェビキ）から除名する。アクモリンスク州党委員会に承認を要請する。

エングラフが内務人民委員部により拘束されたことに関連し、党员証番号 8733198 を無効化のため回収する。

カザフスタン共産党（ボリシェビキ）ルザエフカ地区委員会書記
レイン

部によって逮捕。1942 年 11 月 21 日、ソ連最高裁判所によってロシア共和国刑法第 58-10 条、第 58-11 条により矯正労働収容所で 10 年の自由剥奪刑を宣告。1990 年 2 月 16 日、カザフ・ソビエト社会主義共和国最高裁判所により、犯罪構成要件の欠如により名誉回復。

シェルフ・イワン・フョードロヴィチ、1890 年生まれ、ドイツ系、ヴォルガ・ドイツ人共和国バリツェル地区モール村出身。初等教育修了。逮捕前は北カザフスタン州ツェリンヌイ地区ガルシノ村に居住、コルホーズ農民。1941 年 12 月 18 日、ルザエフカ NKVD 地区部によって逮捕、1942 年 11 月 21 日、ソ連最高裁判所によってロシア共和国刑法第 58-11 条、第 58-10 条により矯正労働収容所で 10 年の自由剥奪刑を宣告。1990 年 2 月 16 日、カザフ・ソビエト社会主義共和国最高裁判所により、犯罪構成要件の欠如により名誉回復。

エングラフ・イワン・ペトロヴィチ、1882 年生まれ、ドイツ系、サラトフ州カムイシェンスキー地区ルゴヴォエ村出身。初等教育修了。逮捕前は北カザフスタン州ツェリンヌイ地区ガルシノ村に居住、コルホーズ農民。1942 年 1 月 17 日、ルザエフカ NKVD 地区部によって逮捕、1942 年 11 月 21 日、ソ連最高裁判所によってロシア共和国刑法第 58-10 条、第 58-11 条により矯正労働収容所で 10 年の自由剥奪刑を宣告。1990 年 2 月 16 日、カザフ・ソビエト社会主義共和国最高裁判所により、犯罪構成要件の欠如により名誉回復。

ヴンデル・Y.G.に関する情報は発見できなかった。カザフスタン共和国内務省メモリアルデータベース №89。

第 91 号 南カザフスタン州内務人民委員部管理局からパフタ・アラル地区内務人民委員部部長スズド
コフ⁵⁷宛「ドイツ人移住者ツィメルマンの家族との再会許可に関する指令」

シムケント市

1942 年 5 月 21 日

最高機密

貴地区に居住するドイツ人移住者ツィメルマンの申請書を送付いたします。同人のアルタイ地方在住の母親との再会のための地区外への移動を許可し、それに伴う適切な移動許可証を発給してください。

出発日については内務人民委員部管理局に報告されたし。

添付書類：本文記載の通り。

南カザフスタン州人民内務委員会部長
国家安全保障上級中尉
ヴォロディン
人民内務委員会管理監査部長
国家安全保障中尉
オリフィレンコ

指令： マトヴェエフへ。 5 月 22 日 ネチャエフ

添付資料：ツィメルマンによるカザフスタン共産党（ボリシェビキ）南カザフスタン州委員会書記ネチャ
エフへの申請書

クンラード No.2、パフタ・アラル地区

1942 年 4 月 29 日

1 月末に、共産党中央委員会宛ての（そして中央委員会から貴殿へ送られた）私の申請書に対して、州委員会人事部から回答がありました。パフタアラル地区委員会書記に対して、私の専門性に応じた仕事を提供するよう指示が出されました（1942 年 2 月 4 日付、カナトフ同志署名の書簡番号 2/159）。

しかし、私には仕事は与えられず、母への思慕と日々の苦悩により深刻な神経衰弱に陥っています。妻も病気になるしました。私には仕事がありません。私はいつも一緒に暮らしていた母を見つけました。母はアルタイ地方に、私は南カザフスタンに移住させられましたが、これは明らかな間違いです。アルタイ地方には多くの鉱物資源があり、鉱山や炭鉱が多くあります。私は地質学者なので、そこで知識を活かすことができます。

母のもとへの移動許可を得られるよう、ご支援をお願いします。地質技師として、私は誠実に、懸命に、力を惜しまず働くことができます。神経衰弱の影響で深刻な多眠りが始め、ここでは嘲笑の的になってしまいました。この病は治療可能ですが、安静と十分な栄養が必要です。これらは母のもとで得られます。

別々の場所に移住させられた家族を再会させる政府の命令があるはずです。切なる願いは、アルタイ地方シプノボ地区のシプノボ村、コルホーズ「ウリツキー」に住む母のもとへの移動を許可していただきたいということです。必要であればコルホーズで働きますが、私を思い焦がれている母と一緒にいられます。

私は農業労働者、一般労働者、警官として人生を始め、その後車掌、路面電車運転手、機械工、会計士、教師となり、最後に技師になりました。これはソビエト政権下で歩んだ道です。2 つの学校を卒業しました。

⁵⁷ カザフスタン共産党（ボリシェビキ）南カザフスタン州委員会のネチャエフ書記長にも宛てた。

労働者予備校入学前は、生産現場で2回表彰されました。労働者予備校では図書館から表彰され、生産部門から大学へ送られました。大学では成績優秀で最高額の奨学金を得ていました。

ここでは苦悩に満ち、知識を活かす場所ありません。1937年に一つ目の大学を、1938年に二つ目の大学を卒業しました。

どうか助けてください！

技師ツイメルマン

住所：シルダリヤ駅、クングラード郵便局第2支局、パフタ・アラル地区、コルホーズ「テゲスティク」、ツイメルマン宛

母が住んでいるコルホーズ「ウリツキー」は、私の到着を受け入れることに反対しておらず、仕事を提供し、食料と菜園を与えることを約束してくれています。返答を心待ちにしています！

確認済み⁵⁸

決議：1. ボロディン同志へ。パフタ・アラル地区へ追放されたこの人物の移動について、問題の解決を求める。5月18日、ネチャエフ

第92号 カザフ共和国国際革命闘士援助組織中央委員会の政治亡命問題担当責任指導員ヴァイスから、カザフスタン共産党中央委員会宣伝扇動担当書記アブディカリコフへの報告書「ソフホーズ『パフタ・アラル』の政治亡命者の生活物質状況調査の結果、および政治亡命者とその家族の状況改善のためにパフタ・アラル現地とアルマ・アタ市で講じられた措置について59」

アルマ・アタ市

1942年11月30日

機密

1942年9月16日、私はパフタ・アラルに向かいました。シムケント市で南カザフスタン州党委員会宣伝扇動部副部長サルセンバエフ同志、および州労働者代表ソビエト執行委員会副議長ザキロワ同志と協議を行いました。州ソビエト執行委員会が1942年8月21日付のカザフ・ソビエト社会主義共和国人民委員会議指令第752号を履行していないことが判明しました。ザキロワ同志はこれらの指示について私から初めて知り、党州委員会は1942年9月20日付の党中央委員会書簡に従って、つい最近になってようやくキーロフ地区党委員会に指示を出したところでした。

パフタ・アラルの政治亡命者⁶⁰の深刻な状況を考慮し、私は党州委員会に対して、状況調査と必要な措置の

⁵⁸ 署名判読不能

⁵⁹ この報告書の写しは、以下の人物にも送付された：ソ連国際革命闘士援助組織中央委員会議長シャロノフ、ソ連国際革命闘士援助組織中央委員会副議長代行チリス、コミンテルン執行委員会人事部長代行ベロフ、南カザフスタン州共産党中央委員会宣伝扇動担当書記ブリキン

⁶⁰ 政治的動機による亡命者は、多くの場合党機能主義者だった。ソ連では、その地位は赤十字・赤新月社、国家保安委員会、外務省、全ソ労働組合中央ソビエトの代表者で構成される、ソ連最高会議幹部会によって設立された特別委員会によって認定された。1930年代前半、政治亡命者はソビエト社会のエリート層に属していた。国が経済的困難に直面していたにもかかわらず、彼らは多くの物質的特権を受けていた：社会への統合を確保するため、優先的に住居や仕事を提供された。1936年7月1日時点で、ソ連には約6,000人のドイツ国籍者が居住しており、そのうち811人が政治亡命者の地位を持っていた。

1930年代半ばから、上からのスパイ恐怖症により、このカテゴリーに属する人々に対する関係機関の態度が変化した。例えば、1941年に南カザフスタン州のソフホーズ「パフタ・アラル」に、1935年にファシストに殺害されたドイツ共産党員ブレッドの家族が避難した。彼の

効果的な実施のため、責任者一名を私と共にパフタ・アラルへ派遣するよう要請しました。しかし、党州委員会書記ネチャエフ同志はこれを拒否しました。キーロフ地区党委員会書記とソフホーズ政治部長宛ての党州委員会の書簡を持って、私は単独でパフタ・アラルへ向かいました。

政治亡命者の精神的・政治的、また生活・物質的状况

1942年9月22日、私はパフタ・アラルに到着しました。

まず最初に、同志たちの全般的な状況を把握し、キーロフ地区に居住する政治亡命者の記録データを確認し、政治亡命者とその家族の新しい完全なリストを作成しました。添付のリストの通り、現在キーロフ地区には25家族があり、そのうちパフタ・アラル自体に20家族、コルホーズに5家族、合計53人が居住しています（1941年にはそこに派遣された政治亡命者の数は約72-73人でしたが、そのうち今年6月にカザフ共和国国際革命闘士援助組織中央委員会によって8人の同志が他の地域に移転され、2人の同志が今年夏に召還され、9人が1942年に死亡しました）。⁶¹

同志たちとの会話で、彼らは全員が内務人民委員部によって追放され、キーロフ地区でのみ居住を許可されていることが判明し、このことは同志たちのパスポートにも記載されています。内務人民委員部も、地区党委員会も、政治部も、ソフホーズ指導部もコルホーズ管理部も、彼らをヴォルガ・ドイツ人と同様に信頼できない分子として扱っていました。

1941年9月11日、同志たちは居住地（主にモスクワ州）から内務人民委員部に召喚され、クジル・オルダ州に追放されると通告されました。1941年9月12日、列車で出発しました。列車内での他の追放者との会話から、追放者の中には反ソビエト的な、さらにはヒトラーに共感する分子が多くいることが分かりました。我々の同志たる共産主義者たちは、これらの人々の反ソビエト的発言に何度も反論し、そのため明らかな反ソビエト分子から敵対的な態度を取られました。我々の同志たちがこのような反ソビエト的な環境に置かれたという事実は、彼らに政治的・精神的な打撃を与えました。

クジル・オルダで同志たちはキーロフ地区に向かうと告げられました。1941年9月27日、彼らは別々のコルホーズに配置されました。コルホーズ議長たちやソフホーズの代表者たちとの会話から、彼ら政治亡命者も追放されたヴォルガ・ドイツ人として見なされており、同志たちへの態度もまさにそのようなものでした。

熱帯的な気候条件に慣れていなかった同志たちは、最初の数日で病気になりました。同志シャルネツキー（1921年からのドイツ共産党員）は、同志たちのさらなる発病を防ぐため、地区党委員会に支援を求めました。地区党委員会書記は内務人民委員部代表者と共に現地を訪れました。書記が、政治亡命者は本当にヴォルガ・ドイツ人と同様に追放者として扱われているのかと質問した際（その際、シャルネツキーは自身が政治亡命者であることを証明する書類を提示しました）、内務人民委員部代表者は、それは自分には関係がないと答えました。「もし政府の命令があなたがたに適用されるべきでないと考えたら、あなたがたの組織に申し出なさい」と彼は言いました。

コルホーズでは、同志たちは住居スペースが非常に劣悪で、自分たちで土壁の住居を建てなければなりませんでした。

コルホーズ議長の召集に応じて、同志たちは綿花の収穫に向かいました。同志たちの大部分は、気候条件と健康状態が許す限り、綿花の収穫に懸命に取り組みました。

妻と娘は1936年にソビエト市民権を取得し、1939年に娘マルガリータは共産青年同盟に加入した。カザフスタンに到着後、障害を持つブレッドの妻は作業班への水運びを命じられ、病気になった。マルガリータ・フリードリホヴナは馬車引きの仕事に就いたが、おそらくソビエトの現実に失望し、登録せず、会費も支払わず、自動的に共産青年同盟から脱退し、仕事や社会生活において消極的だと評価された。

⁶¹ 1943年6月時点の情報によると、カラガンダ州の6つの地区には44人の政治亡命者が住んでおり、そのうち83人は家族とともに暮らしていた。このリストは、1943年5月27日付のカザフ共和国人民委員会議の指示に従って、政治亡命者とその家族を1日2食の屋内食堂に割り当て、乾いた食料を配給するために作成された。

作業班長たちの彼らへの態度は非常に粗暴で、同志たちをまさに追放者として扱いました。労働日の記録では騙され、地区から彼らのために配給されたはずの食料、パンや小麦粉、塩さえも完全には受け取れませんでした。労働日に対して金銭も食料も受け取れなかったため、何とか食べていくために自分たちの持ち物を売らざるを得ませんでした。男性の一部が労働軍に強制動員された後、残された女性と子どもたちの状況は完全に壊滅的となりました。なぜなら、地区からのパンの供給が停止し、コルホーズ管理部は彼らが働いた労働日に対して金銭も食料もずっと支給しなかったからです。多くの同志たちはもはやバザールで売るものを持っておらず、食料を部分的にでも確保することができず、多くの者が栄養失調と衰弱のため深刻な病気になるしました。何人もの同志が亡くなりました。1942年4月から10月の間に9人が死亡し、そのうち5人が大人で4人が子供でした。具体的には：シュライダー同志の妻、シュタウディンガー同志、シコラの妻と2人の子供、グンド、ルプレヒトの母と息子、リンケの子供（私がパフタ・アラルに滞在中のちょうどその時に亡くなりました）です。

同志たちの苦情を受けて、コルホーズの管理部は後に働いている人々に1941年の労働日の前払いとして毎日200-400グラムの小麦を支給しましたが、もちろんこれは生活維持には全く不十分でした。

同志たちはコミンテルンのドイツ部門と国際革命闘士援助組織中央委員会に物質的支援を求めました。国際革命闘士援助組織中央委員会から同志たちに支給された手当は、彼らの物質的・生活状況を改善しました。

1942年春、地域のパン供給が極めて不十分だったため、同志たちが危機的状況に陥った時のことです。エリエンベルグ同志（1918年からのドイツ共産党員）は、最初に自分の専門である旋盤工としてソフホーズの中央修理工場で仕事を見つけることができた人でしたが、彼は、自分が既にソフホーズに関わっていた同志たちを移住させることに決めました。移住は困難を極めました。というのも、一部の同志たちは、ヴォルガ・ドイツ人と同様に扱われ、非常に厳しい条件下で生活し、予定された仕事で期待されたような成果を上げられないことから、パニック状態に陥っていたためです。このことが、同志たちをコルホーズやソフホーズから移住させる計画の実施を困難にし、またエリエンベルグ同志⁶²が党組織とソフホーズの指導部に提示した施策の実施も難しくしました。同志たちのソフホーズでの就労を困難にしたもう一つの要因は、綿花の収穫後、地域の多くの労働者がソフホーズでの仕事に移されたことでした。新たな避難民や追放者たちがパフタ・アラルに流入したため、住宅事情も厳しくなりました。

1942年6月にカザフ共和国国際革命闘士援助組織中央委員会の代表者ポドブツキー同志がパフタ・アラルに到着した後、同志たちのパフタ・アラルへの移住は少し容易になりました。エリエンベルグ同志は1942年夏に、ソフホーズの建物の一つ（一部屋約20平方メートル）に数家族のための共同宿舎を設置することに成功しました。ポドブツキー同志の提案で設置された同志たちの健康状態を確認するための医療委員会は、その業務を部分的にしか実施しませんでした。

地域組織から同志たちに食料品や工業製品が供給されなかったため、彼らは市場で極めて必要な食料品を購入せざるを得ず、そのために物品の販売を続けました。現在、雨季と冬の天候の到来により、同志たちは編み上げ靴、オーバーシューズ、防寒具を切実に必要としています。

最も大きな困難の時期に、全ての同志が病気になり、その大半がチフスや赤痢にかかりました。上述の通り、一部は死亡しました。多くの同志が栄養不足で腫れ上がり、新しい収穫と仕事だけが救いでした⁶³。1942年10月には、多くの同志が深刻な病気にかかっているか、あるいは病気の直後でした。例えば、エリエンベルグ同志は2回、フランケル、リンケ・エルザは1回チフスに、リンケ・マルティンらは赤痢にかかりました。シャルネツキー同志は両手の（神経性の）湿疹で苦しみ、働けません。現在もブィシュ、ルブリャフト、カスパル、ヴレーデ、ライチュランダー、ライヴィンド、フリシュの各家族など多くの同志が病欠中です。シュライダー、ゼーゴフ、ブロードニク、エッケルト、エルラーの同志たちは障害のため働けません。

⁶² 文章に矛盾がある。

⁶³ 原文ママ

同志たちは自分の専門分野での仕事に部分的にしか就けておらず、一部は新しい職業を習得中です。彼らは皆、気候条件と基本的に必要な食料品の不足に大変苦しんでいます。食堂は質の非常に悪い食事を提供し、それも働いている人々にだけです。

しかし、同志たちが最も苦しんでいるのは、ヴォルガ・ドイツ人と同様に追放者として扱われるという精神的な状況からです。

カザフ共和国国際革命闘士援助組織中央委員会の代表者が今年 6 月にソフホーズの党組織と指導部に対し、政治亡命者についての問題だと説明したにもかかわらず、党組織とソフホーズの指導部、そして内務人民委員部は、同志たちへの不適切で容認できない態度を改めず、ヴォルガ・ドイツ人と同様に扱い続けました。特徴的なのは、ソフホーズ所長のネチャエフ同志の意見で、1942 年 10 月 22 日の会話で彼は「私はこれらのドイツ人が好きではない」と述べました。そして、私が彼にカザフ共和国人民委員会議の 8 月 21 日付の手紙と党中央委員会の 9 月 26 日付の手紙を読ませた後でさえ、政治亡命者に対する彼の意見は変わりませんでした。

このような不適切で、さらには排外主義的な態度のため、同志たちは当然ながら身体的にも多くの苦痛を受けました。例えば、エリエンベルグ同志は、ソフホーズ中央修理工場の最優秀のスタハーノフ運動員の一人（今年 7 月に生産基準の 307%を達成）でしたが、1942 年 9 月に腸チフスにかかり、仕事場で再び基準を超過達成できるよう健康を回復するために少量の食料が切実に必要でした。ソフホーズ所長のネチャエフ同志に申し出ましたが、拒否されました。その後、再びチフスにかかり入院しました。退院後、地区党委員会第一書記に申し出ましたが、そこにはちょうどソフホーズの所長と政治部長が同席していました。しかし、ソフホーズ所長は今回も、地区党委員会書記の提案にもかかわらず、エリエンベルグ同志への食料の提供を拒否しました。ソフホーズ所長のネチャエフ同志は、エリエンベルグ同志がドイツ人というだけの理由で、工場長が彼のスタハーノフ運動的な仕事に対して予定していた賞与の支給さえ許可しませんでした。ネチャエフ同志は、エリエンベルグ同志が政治亡命者であり、スタハーノフ運動員であることをよく知っていました。

もう一つの例として、ドイツ共産党の創設者の一人であるベレンド同志は、1942 年 6 月に労働戦線から病気のために解放されて戻ってきた際、エリエンベルグ同志によって中央修理工場の機械工として仕事を得ることができました。重い心臓病を患っていたにもかかわらず、ベレンド同志は仕事の最初の週から既に基準を超過達成しました。工場長のパヴロフ同志は、あらゆる方法で彼を仕事から排除しようとしていました⁶⁴。彼は仕事を失いました。彼がパヴロフ同志に、自分が政治亡命者である共産主義者であることを考慮するよう頼んだとき、パヴロフ同志は「政治亡命者であることを利用しないでください」と答えました。そして、別のベレンド同志がカラガンダへ政治工作のために派遣された際、工場長は彼に出張手当の支払いを拒否しました。党委員会も労働組合委員会も彼に資金援助をせず、政治亡命者たち自身が赴任地へ行くための資金を集めざるを得ませんでした。そうしなければ、彼は出発することができなかったでしょう。

当然のことながら、党および行政組織による政治亡命者たちへのこのような不適切な態度のもとでは、同志たちの間での政治大衆工作は全く行われませんでした。彼らは政治的出来事から完全に孤立していました。そして、1942 年夏にソ連国際革命闘士援助組織中央委員会からドイツ人政治亡命者向けに受け取ったドイツ語の会報が、南カザフスタン州国際革命闘士援助組織委員会を通じてカザフ共和国国際革命闘士援助組織中央委員会から送られてきた時、主に政治亡命者だけのために意図されていたこれらの資料は、内務人民委員部に渡し、内務人民委員部はそれをソフホーズの政治部長チュプリニン同志に渡しました。そして彼は、我々の同志たちに資料を渡す代わりに、それを地区の一般図書館に渡し、そこで誰でも利用できるようになりました。エリエンベルグ同志の要求にもかかわらず、チュプリニン同志はこれらの資料を我々の同志たちに渡しませんでした。

⁶⁴ 原文ママ

2. 組織との交渉と現地で私が取った措置について

このような状況において、私は最初に同志たちに対する組織の態度を変え、彼らの道徳的状況を改善することが必要不可欠だと考えました。1942 年 10 月 25 日、内務人民委員部地区管理局長との交渉で、私は彼に 8 月 21 日付けのカザフ共和国の人民委員会議の指令文書と、1942 年 9 月 26 日付けのカザフ共産党（ボリシェビキ）中央委員会の書簡を説明し、その結果、私が作成したリストに含まれる政治亡命者たちが真の政治亡命者として扱われることで合意しました。私は、同志たちのパスポートにある制限を解除するよう彼に提起しました。この件について、パフタ・アラルに到着した州の内務人民委員部管理局長と話し合うよう提案されました。

この間、地区軍委員部はパフタ・アラルに住むドイツ人を労働軍に強制的に動員し、男女を問わず政治亡命者の動員も開始していたため、私は直ちに内務人民委員部と地区軍委員部に政治亡命者の労働軍への強制動員の廃止について提起しました。私は、我々のリストに従って政治亡命者を労働軍への動員から解放し、すでにパフタ・アラルで動員されていた者は召集されないよう彼らに説得することに成功しました。私はまた、現在他の地域で労働軍にいる 5 人の同志、すなわちホランド、V、ホランド、R、メンツェル、フリッシュ、ティテルを、カザフ共和国革命戦士国際援助機構中央委員会の要請により労働軍から解放することに彼らと同意しました。

この間、地区軍委員部はパフタ・アラルに住むドイツ人を労働部隊に強制的に動員し、男女を問わず政治亡命者の動員も開始していたため、私は直ちに内務人民委員部と地区軍委員部に政治亡命者の労働部隊への強制動員の廃止について提起しました。私は、我々のリストに従って政治亡命者を労働部隊への動員から解放し、すでにパフタ・アラルで動員されていた者は召集されないよう彼らに説得することに成功しました。私はまた、現在他の地域で労働部隊にいる 5 人の同志、すなわちホランド、V、ホランド、R、メンツェル、フリッシュ、ティテルを、カザフ共和国革命戦士国際援助機構中央委員会の要請により労働部隊から解放することに彼らと同意しました。

1942 年 10 月 27 日、私は内務人民委員部州局長と交渉しました。同局長は、政治亡命者に関するカザフ共和国人民委員会議およびカザフスタン共産党（ボリシェビキ）中央委員会の決定についても報告を受けていました。同局長は、内務人民委員部地区局長とともに、政治亡命者に起こったことについて直接謝罪し、モスクワからの命令に従っただけだと述べました。制限解除の問題に関しては、同局長はそれが完全に可能かつ必要であると考え、アルマ・アタのカザフ共和国内務人民委員部に請願書を提出するよう提案しました。

内務人民委員部の地区および州行政機関長官とは、1942 年 11 月 1 日にキーロフ地区の政治亡命者の総会を招集することで合意しました。

人民内務人民委員部の地区および州行政機関、ならびに地区軍事委員部との交渉の結果は、われわれの同志たちの間で大きな喜びをもたらしました。彼らは、内務人民委員部と地区軍事委員部の諸機関の彼らに対する態度が実際に転換したことを知り、大いに安堵しました。すべての同志たちの間で道徳的復活が顕著でした。ここで私が言わなければならないのは、もしわれわれの中央組織が、同志に対する制限解除の問題をもっと早く提起し、私が今これらの問題を提起したように、政治亡命者に対する組織の態度を変えようと努めていたなら、党とソビエト組織の政治亡命者に対する態度において、望ましく必要な転換をもっと早く達成することは間違いなく可能であっただろうということです。

2 番目に重要な措置は、南カザフスタン州商業局のパフタ・アラル支部に政治亡命者とその家族への追加製品の支給をさせることだと私は考えました。州商業局長のツァレンコ同志との交渉（1942 年 10 月 27 日～30 日）の結果、私はソフホーズ「パフタ・アラル」で生活し、働いている政治亡命者 20 家族の支給を獲得しました。支給品は、お茶 2000 グラム、パーミセリ 40 キロ、植物油 8 キロ、小麦粉 60 キロ、マッチ 40 箱、タバコ 40 パック、10 月分の配給カードのキャンディー、子供用名が靴下 28 足、靴下 12 足でした。

製品は私が滞在中、主に 1942 年 11 月 2 日に配布され、更に続く数日間でも配布されました。コルホーズ

で暮らす 5 家族が含まれていなかったという事実を考慮して、コルホーズで暮らす家族も含めた 25 家族に製品全量を分配することで私は同志たちと合意しました。

政治亡命者へのさらなる食料品の配給については、人民商務委員会と南カザフスタン州商業局から受けた指示に基づき、毎月同志たちに追加の食料品を配給することで州商業局長と合意しました。

上記の食糧の放出は、政治亡命者とその家族にとって非常に重大な援助を意味しました。

ソフホーズ政治部長のチュプリン同志、地区党委員会第一書記のカスマンベトフ同志、地区党人事委員会書記、ソフホーズ副所長、ソフホーズ人事部長との交渉で、私は、この瞬間から私たちの同志を本当に政治亡命者とみなすことに成功しました。特に地区党委員会と政治部長は、私たちの同志に対する態度を根本的に変えることを約束しました。私たちは、同志が、健康状態を考慮した上で専門分野で可能な限り活用されること、より正常な生活条件を作り出すためにあらゆる支援が与えられることに同意しました。何人かの同志は、私の目の前で他の仕事に異動させられました。

同志たちの医療問題については、外来診療所の責任者と交渉し、同志たちの検査を医療委員会で完了させ、今後は真摯な配慮と効果的な医療を提供することを約束してもらいました。

今後の同志間の政治大衆活動については、地区党委員会第一書記とソフホーズ党組織書記との間で一連の講演会を開催することで合意し、私が提案した計画が基本として受け入れられました（計画は添付）⁶⁵。

同志たちの状況を調査した結果、私は、8 月 21 日付のカザフ共和国人民委員会議の書簡に従い、集団全体を気候条件の点でより適した地域に移転させることが極めて必要であると結論付けました。私は、政治亡命者全員に、その場所に留まることが可能かどうかを個人的に尋ねました。彼らは皆、移転を強く求め、パフタ・アラルに留まらなければならない場合、特に春から体調が間違いなく悪化すると述べました。私自身、同志たちの健康状態のさらなる悪化と死の再発を防ぐために、同志たちの移転は確かに絶対に必要であると確信しました。

3. アルマ・アタ市における措置について

1942 年 11 月 5 日、私はパフタ・アラルを出発し、シムケントに向かった。ここで私は、州党委員会宣伝扇動部副部長のサルセンバエフ同志に、同志たちの困難な状況と私が講じた措置について報告した。州執行委員会副議長のザキロワ同志とのすべての交渉で、私は同志たちに追加の食糧と暖かい衣服を支給し、彼らをカウチュクソフホーズ（南カザフスタン地方の北部）に移送するという問題を提起したが、ザキロワ同志はこれらの問題に対して完全に官僚主義的な態度で臨み、特に戦時中であることを理由に同志たちの移転に強く反対しました。

シムケントでは、彼は南カザフスタン州商業事務所長および州商業部門長と、同志たちへの追加製品および必要な工業製品の月次配布について交渉しました。彼らは、商業人民委員会からの具体的な指示を受け次第、政治亡命者のニーズを満たすことを約束した。

アルマ・アタに戻る途中、1942 年 11 月 24 日にカザフ共和国の商業人民委員会から、パフタ・アラルの政治亡命者に毎月乾燥食糧として次の製品を配給する旨の通達を受けました。動物性バター 15kg、お茶 5kg、バーミセリまたは穀物 37.5kg、小麦粉、砂糖またはキャンディー 75kg を配給カードに従って。さらに、肉製品 100kg を 1 回限り支給。

商業人民委員はまた、同志たちへのジャガイモ、石鹼、マッチ、タバコの配布を承認しました。これらの品物に関する指示も追加で与えられました。

移転問題については、私はカザフ共和国人民委員会議副議長のザゴヴェリエフ同志と会談し、国際革命闘士援助組織中央委員会を代表して、同志に、全集団を地域北部のカウチュクソフホーズに限定的に移送するよう要請しました。制限解除の問題については、カザフ共和国内務人民委員と交渉する予定です。

⁶⁵ 文書に添付されていない。

提案

1. 同志を穏やかな気候条件の他の地域に移転することが絶対に必要であることを考慮して、指定されたカウチュクソフホーズに同志を移送するためのカザフ共和国人民委員会議の命令を求める必要があります。
2. 移転前に、商業人民委員会の命令に従って、毎月の食料品の供給と、必要な暖かい衣類の供給を確保する必要があります。
3. 同志の健康状態を考慮しながら、雇用の真の改善を達成する必要があります。
4. 医療委員による診察を完了し、必要な医療を提供する必要があります。
5. 彼らの間で政治学習の計画が実行されるようにし、新聞を数冊提供する必要があります。
6. カザフ共和国内務人民委員部と連携して、制限の解除と、5人の同志の労働軍からの解放の必要があります。

パフタ・アラルの政治亡命者に対する党とソビエト組織の態度を本当に変えるために、また、同志たちの雇用と生活条件の抜本的改善のために私が合意した措置の効果的な実施を確実にするために、カザフスタン共産党（ボリシェビキ）中央委員会が党の南カザフスタン州委員会、ならびに地区委員会とソフホーズの政治部に厳しい指示を与え、与えられた指示の実施を検証することが必要です。

カザフ共和国国際革命闘士援助組織中央委員会政治亡命者問題担当指導員
ヴァイス

第 93 号 カザフスタン共産党（ボリシェビキ）中央委員会書記シャヤフメトフからカザフスタン共産党（ボリシェビキ）アクモラ州委員会書記クパエフへの飢餓に関する手紙

アルマ・アタ市

1944 年 3 月 2 日
最高機密

入手している情報によると、エンベクシルダー地区のホルホーズ「ジャンリク」で暮らす 34 の移住家族は 1943 年 9 月以来食糧を受け取っておらず、その結果 5 人が飢餓のために非常に深刻な状態に陥っているが、地区の指導者たちはこれらの家族を支援するための措置を講じていない。

ヴィシュネフスキー地区のニコラエフカ村では、7 人のドイツ人が疲労で死亡し、10 人が飢餓の危険にさらされている。

早急に現場へ出発してこれらの事実を確認し、確認された場合は適切な支援を提供するための措置を講じることを提起する。

講じた措置を直ちに報告すること。

カザフスタン共産党（ボリシェビキ）中央委員会書記
シャヤフメトフ

第 94 号 カザフスタン共産党（ボリシェビキ）中央委員会宛てのカザフ共和国人民委員会議によるドイツ人特別移住者への食糧供給に関する情報

アルマ・アタ市

1945 年 4 月 23 日

機密

カザフ共和国内務人民委員副委員カラシニコフ同志の書簡に関連して、4月20日にカザフ共和国人民委員会会議および内務人民委員部を代表して、ドイツ人特別移住者への小麦粉1,440トンの割り当てに関する暗号電報がベリヤ同志に送られた。指定された量は、今年の5月から6月にかけて8万人のドイツ人に1人当たり毎月200グラムの小麦粉という食糧援助を提供する必要性を根拠とするものである。

ザゴベリエフ

第95号 カザフ共和国人民委員会会議の決議「労働不能の高齢者、多くの子供を持つ母親、およびドイツ国籍の子供の特別移住者への食糧援助の支給について」

アルマ・アタ市

1945年5月8日

機密

1945年4月30日の国家防衛委員会決議第8367号に基づき、人民委員会会議は次のように布告する。

1. カザフ共和国人民調達委員（ベイセバエフ同志）とカザフスタン穀物調達事務所（ドヴィノフ同志）に、ドイツ国籍の特別移住者に5月、6月、7月に均等に900トンの食糧を支給することを義務付ける。
2. カザフ共和国の内務人民委員部（ボグダノフ同志）と州執行委員会に、付録⁶⁶に従って、州ごとに、一人当たり1日200グラムの穀物の割合で、深刻な困窮にあるドイツ国籍の特別移住者への食糧援助の配布を保証することを義務付ける。

カザフ共和国人民委員会議長

ウンダシノフ

カザフ共和国人民委員会会議事務局長

シルツォフ

労働軍に関する資料

第97号 国家防衛委員会決議第1123ss号「徴兵年齢17歳から50歳までのドイツ人移住者の利用手続きについて」

モスクワ市、クレムリン

1942年1月10日

17歳から50歳までのドイツ人男性移住者を合理的に活用するために、国家防衛委員会は次のように布告する。

1. ノヴォシビルスク、オムスク両州、クラスノヤルスク、アルタイ両州、及びカザフ共和国に移送された、

⁶⁶ 未発表

肉体労働に適した 17 歳から 50 歳までのドイツ人男性全員は、戦争中を通じて最大 12 万人⁶⁷が労働軍に動員され、その数は以下のとおりとなる。

a) ソ連内務人民委員部 - 森林伐採に 45,000 人、バカルおよびボゴスロフスク工場の建設に 35,000 人。

b) ソ連鉄道人民委員会 - スターリンスク・アバカン鉄道、スターリンスク・バルナウル鉄道、アクモリンスク・カルタリ鉄道、アクモリンスク・パブロダル鉄道、ソシヴァ・アラパエフスク鉄道、オルスク・カンダガチ鉄道、マグニトゴルスク・サラ鉄道の建設に 40,000 人。

1. 動員の実施は、内務人民委員部および鉄道人民委員部とともに、国防人民委員部（シチャデンコ同志）に委ねられる。

動員は直ちに開始され、1942 年 1 月 30 日までに完了されなければならない。

2. 動員されたすべてのドイツ人は、冬用の衣服を着用し、下着、寝具、マグカップ、スプーン、10 日分の食料を携えて国防人民委員会の集合同所に集合するよう義務付ける。

3. 鉄道人民委員会と防衛人民委員会軍事通信局に対し、1 月中に動員されたドイツ人の輸送を確実にし、2 月 10 日までに職場に届けるよう義務付ける。

4. ソ連内務人民委員部とソ連鉄道人民委員部に対し、動員されたドイツ人の労働軍と労働班に明確な秩序と規律を確立し、高い労働生産性と生産基準の達成を確保することを義務付ける。

5. ソ連内務人民委員部に対し、以下の者たちに関する事案を内務人民委員部作戦部門⁶⁸で審理し、最も悪質な者に対しては最高刑を適用することを委任する：動員に際して召集所または集合地点に出頭しなかったドイツ人、労働軍に所属しており規律違反や就労拒否をした者、動員に応じなかった者、労働軍から脱走した者。

5. ソ連内務人民委員部に対し、以下の者たちに関する事案を内務人民委員部作戦部門⁶⁹で審理し、最も悪質な者に対しては最高刑を適用することを委任する：動員に際して召集所または集合地点に出頭しなかったドイツ人、労働部隊に所属しており規律違反や就労拒否をした者、動員に応じなかった者、労働部隊から脱走した者。

6. 動員されたドイツ人に対する食料品および工業製品の供給基準は、ソ連内務人民委員部矯正労働収容所本部が定めた基準に従って設定する。

ソ連商業人民委員部に対し、ソ連内務人民委員部とソ連運輸人民委員部に、動員されたドイツ人の全員数に対して、これらの基準に従って食料品および工業製品の配給を完全に割り当てることを義務付ける。

⁶⁷ ソ連内務人民委員部の情報によると、1942 年 1 月 2 日時点でカザフスタンには 16 歳以上のドイツ人男性が 85,280 人おり、以下のよう
に各州に分布していた：アルマ・アタ州：2,380 人、アクモリンスク州：17,110 人、アクチュビンスク州：2,360 人、東カザフスタン州：
5,780 人、ジャンプール州：2,320 人、カラガンダ州：6,100 人、クジル・オルダ州：980 人、クスタナイ州：9,750 人、パブロダル州：10,000
人、北カザフスタン州：15,600 人、セミパラチンスク州：8,300 人、南カザフスタン州：4,500 人、西カザフスタン州：100 人。1942 年 3 月 1
日時点では 10,255 人になった。

⁶⁸ 行政機関による管理体制があったにもかかわらず、日常生活における対立を完全に避けることはできなかった。カザフスタン共産党中
央委員会は、それぞれの異常事態を特別に記録していた。例えば、ジャガイモを盗んだためコルホーズの農民に畑で捕まったチェチェン人の
ガブリエフが「拘束現場からコルホーズ管理部までの移送中に暴行を受けた」事件では、特別移住者に対する私刑を許可したとして、カザフ
スタン共産党中央委員会の命令により、「暴行時に居合わせた地元の党員とコルホーズ『我々の道』の議長」は党の処分を受けた。この事件
の直接の関与者たちは次のような判決を受けた：4 人が 10 年間の自由剪奪刑に加えて 10 年間の選挙権剥奪と財産没収、2 人が 5 年の刑、5
人が 3 年の刑。この刑事事件は、タルディ・クルガン州裁判所の公開法廷で模範裁判として審理された。党組織は、このような事件の再発を
防ぐため、特別移住者と地元住民の両方に対して教育活動を強化するよう義務付けた。

⁶⁹ 行政機関による管理体制があったにもかかわらず、日常生活における対立を完全に避けることはできなかった。カザフスタン共産党中
央委員会は、それぞれの異常事態を特別に記録していた。例えば、ジャガイモを盗んだためコルホーズの農民に畑で捕まったチェチェン人の
ガブリエフが「拘束現場からコルホーズ管理部までの移送中に暴行を受けた」事件では、特別移住者に対する私刑を許可したとして、カザフ
スタン共産党中央委員会の命令により、「暴行時に居合わせた地元の党員とコルホーズ『我々の道』の議長」は党の処分を受けた。この事件
の直接の関与者たちは次のような判決を受けた：4 人が 10 年間の自由剪奪刑に加えて 10 年間の選挙権剥奪と財産没収、2 人が 5 年の刑、5
人が 3 年の刑。この刑事事件は、タルディ・クルガン州裁判所の公開法廷で模範裁判として審理された。党組織は、このような事件の再発を
防ぐため、特別移住者と地元住民の両方に対して教育活動を強化するよう義務付けた。

7. ソ連農業人民委員部は、1月から2月にかけて、ソ連内務人民委員部の林業作業のために3,500頭の馬を割り当てること。

ソ連調達人民委員部は、3,500頭の馬のために追加の飼料を割り当てること。

8. ソ連財務人民委員部は、ソ連内務人民委員部と共同で、ソ連内務人民委員部の財務計画においてドイツ人の輸送費用およびその他の生活基盤確立のために必要な資金を計上すること。

国家防衛委員会委員長
スターリン

抜粋は以下の同志たちに送付済み：ベリヤ、カガノヴィチ、シチャデンコ、シャポシニコフ、フルリョフ同志には全て；コヴァレフ（軍事輸送部）には1,3、リュビモフには1,6、ベネディクトフ、スポーチンには7、ズヴェレフには8。

第102号 ソ連内務人民委員部キムペルサイ収容所・鉱山管理局副長官デューディンによる、1942年3月1日時点のソ連内務人民委員部キムペルサイ収容所に関する報告書。

キムペルサイ村

1942年3月

アクチュビンスク州ノヴォロシースク地区

I. 労働力の構成

収容所⁷⁰の労働力は主にウクライナからのドイツ人移住者の動員によって構成されている。内務人民委員代理チェルヌイシェフ同志の指示に従い、1941年10月に上記のドイツ人16歳から70歳までの2,398名が収容所に到着した。その中には50歳以上の高齢者が約300名、未成年が約100名含まれていた。長期の移動と道中の不十分な食事により、全ての収容者は非常に衰弱した状態で到着した。

5ヶ月間で到着した集団から747名が減少し、その内訳は：サボタージュと反革命的扇動で起訴され取り調べ中の者42名、障害や高齢により収容所から解放された者390名（さらに同様の理由で少なくとも100名が解放予定）、死亡者100名、逃亡者215名だった。

ドイツ人移住者の他に、収容所には166名の囚人がおり、この集団では高齢による死亡が2件あったのみで、逃亡者はいなかった。

ドイツ人移住者の逃亡は1941年11月15日以降に始まった。それまでは彼らは実質的に建設部隊員として護送されていたためである。1941年11月15日、収容所管理総局の指示に基づき、建設部隊は一般労働者の立場での労働軍に再編成され、警備を解かざるを得なくなった。この時点から、ドイツ人移住者は近隣のコルホーズやクスタナイ州に居住する自分たちの家族のもとへ逃亡し始めた。

今年2月15日に内務人民委員代理クルグロフ同志によって承認されたドイツ人移住者に関する規定を受け取ってから、彼らが収容所でどのような権利を持つべきかが明確になった。この規定に基づき、居住区域と生産区域は警備下に置かれ、今後警備が充実すれば逃亡の可能性は排除されることになる。

II. 生活環境

⁷⁰ 1941年9月のソ連人民委員会指令第3599号に従い、1941年9月9日の内務人民委員部命令第00407号により、「バタムシンスキーとキムペルサイのニッケル鉱床を基盤として」独立したキムペルサイ収容所・ソ連内務人民委員部鉱山管理局が組織され、直接ソ連内務人民委員部鉱山冶金企業収容所管理総局の管轄下に置かれた。収容所はアクチュビンスク州キムペルサイ集落（オレンブルク鉄道オルスク-カンダガチ線5番分岐駅）に配置された。

収容所の設置が遅れ、建設資材の入手が長引いたため、全ての労働力は夏用テント型の3つの居住地に配置された。居住地には恒久的な公共施設はない。厨房は簡素な形でテントと半地下小屋に設置された。第1・第2居住地（ドイツ人用）の浴場は二重の防水テントに、第3居住地（囚人用）は半地下小屋に設置された。居住用テントには通し板の寝台が設置され、第2居住地の新しく建設された3つの半地下バラックには列車型寝台が設置された。同じ居住地の4番目の半地下バラックは35-40床の入院設備に改造され、現在60床が設置されている。

1941年12月末に第1居住地に半地下小屋消毒室が設置され、1942年1月には同じ居住地のテントに生活用品工房が設置された。

ドイツ人移住者は夏季に出発地から派遣されたため、ほぼ完全に着の身着のままで収容所に到着した。彼らの到着時に冬用の制服が収容所になく輸送中だったため、彼らの活用は非常に困難だった。現在はこの問題は完全に解決し、全ての収容者に冬用制服が支給されている。台所用品と個人用食器の状況は悪いが、この問題もすぐに解決される予定で、食器はモルドヴァ自治共和国で購入済みで、まもなく収容所に到着する。さらに、現地で缶詰の空き缶を利用して、特に必要な人々に個人用食器を部分的に支給することができた。

基本的な食料品であるパン、穀物、肉、魚は3-4ヶ月分確保されている。野菜は秋に収容所で確保できなかったため状況が悪く、コショウ、ネギ、月桂樹の葉などの調味料も不足している。

1942年3月1日から、全収容者は生産ノルマの達成度に応じて、収容所管理総局が定めた基準による階層的食糧配給制に移行する。

給水の問題はまだ解決していない。敷地内に水源がなく、1.5km離れた場所に設置された井戸は、産業用（掘削機用）の大量の水使用のため、収容所住民の需要を完全には満たせていない。そのため、1942年3月中に産業用と生活用の両方の水問題を基本的に解決することを目標に、送水管の敷設と新しい井戸の掘削作業を急いでいる。

III. 衛生状態

1941年9月の収容所設立以来、合計102人が死亡し、その内訳はドイツ人移住者100人、囚人2人だった

。年齢別の死亡者内訳は：

20歳から30歳まで - 15人

30歳から45歳まで - 22人

45歳以上 - 65人

月別の死亡者数は：

10月 6人

11月 16人

12月 31人

1942年1月 23人

2月 26人

死因となった病気の内訳：

心臓病による死亡 25人

肺疾患による死亡 17人

胃潰瘍、カタル、下痢による死亡 24人

敗血症による死亡 7人

ペラグラによる死亡 8人

タンパク質欠乏性浮腫による死亡 7 人
骨の化膿性疾患による死亡 1 人
腎臓病による死亡 2 人
老衰による死亡 11 人

収容所内での感染症の発生はなかった。収容所周辺の居住地で感染症が発生していることを考慮し、収容所内での感染を防ぐためのあらゆる対策を講じている。浴場と消毒室は 24 時間稼働し、洗濯場も同様だ。石鹼は確保できているが、消毒剤（塩素石灰、カルボール酸、ベンゾール、クレオリンなど）は不足している。この件に関して大量の文書のやり取りや医療従事者の出張を行ったが、まだ実質的な成果は得られていない。

春に向けて、居住地の汚染と便所の不在が深刻な脅威となっている。居住地の区域からゴミ、排泄物、汚れを除去する対策を講じ、便所の建設に着手したが、収容所内の木材不足により遅れている。

IV. 収容所の警備

ノヴォロシースク地区軍事委員部とアクチュビンスク州軍事委員部により、武装警備隊から 141 人が赤軍に徴用された。その代わりにこちらへよこされたのは、徴用年齢直前の 20 人だけである。このため、収容所の警備状況は非常に厳しいものとなっている。カザフスタン共産党州委員会にこの件への介入を要請し、我々の警備隊を 60 人補充するため、州軍事委員部に高齢者の動員を義務付けるよう依頼している。

ソ連内務人民委員部キムペルサイ収容所・鉦山管理局副長官
国家保安上級中尉
デューディン

第 109 号 「セミパラチンスク州内に居住するドイツ人住民の労働軍への動員と派遣に関する」カザフスタン共産党セミパラチンスク州委員会決議

セミパラチンスク市

1942 年 10 月 9 日
特別ファイル
最高機密

国防国家委員会の 1942 年 10 月 7 日付極秘決議第 2383 号「ドイツ人住民の動員について」に基づき、カザフスタン共産党州委員会は以下を決議する：⁷¹

1. 肉体労働が可能な全てのドイツ人男性（15-16 歳以上 51-55 歳以下）と女性（16 歳以上 45 歳以下）を労働軍に動員し、石炭産業及び石油産業での労働に派遣する。

妊婦及び 3 歳未満の子供を持つ女性は動員を免除される。3 歳以上の子供は、残る家族に養育を委ねる。動員対象者以外の家族がいない場合、子供は近親者またはドイツ人コルホーズに養育を委ねる。

ドイツ人の動員は、ポリュードフ同志（州内務人民委員部長）とモシキン同志（州軍事委員）の個人的責任のもと、軍事委員部と地方内務人民委員部機関が担当する。

2. 以下のドイツ人居住地区を対象とする召集所の設置を定める：

ベリャガチ地区とノヴォシュリビン地区 - ボロドゥリハ村

ジャナ・セメイ地区、アブラリン地区、アバエフ地区 - ジャナ・セメイ市

⁷¹ 同様の法令は、ドイツ人が住んでいた州や地区の指導者によって準備された。たとえば、カザリンスキー地区などである。

コクペクティ地区とアクサト地区 - コクペクティ村

ジャルミン地区とチャル地区 - ゲオルギエフカ村

アヤグズ地区とチュバルタウ地区 - アヤグズ市

ウルジャル地区 - ウルジャル村

3. 以下の積込駅を指定する：

ベリャガチ地区とノヴォシュリビン地区：男性はベリャガチ駅、女性はベリャガチ駅、シェモナイハ駅、アウル駅

ジャナ・セメイ地区、アバエフ地区、アブラリン地区：ジャナセメイ駅

ジャルミン地区とチャル地区：男性はジャンギス・トベ駅、女性はジャンギス・トベ駅とチャルスカヤ駅

コクペクティ地区とアクサト地区：ジャンギス・トベ駅

アヤグズ地区、チュバルタウ地区、ウルジャル地区：アヤグズ駅

4. 召集・動員対象のドイツ人住民の調査のため、以下の同志たちを地区に派遣する：

ベリャガチ地区とノヴォシュリビン地区：ポリュードフ同志とジュリン同志

ジャルミン地区とチャル地区：カラバエフ同志とシロタ同志

コクペクティ地区とアクサト地区：クズミン同志とスタリコフ同志

アヤグズ地区とチュバルタウ地区：レーチキン同志とボゴモロフ同志

ウルジャル地区：レーチキン同志とクルガンスキー同志

これらの同志は 1942 年 10 月 10 日までに現地に到着すること。

5. ドイツ人住民の登録は直ちに開始し、男性は 10 月 15 日まで、女性は 10 月 20 日までに完了すること。

動員は男性については 10 月 20 日まで、女性については 11 月 5 日までに完了すること。

6. カザフスタン共産党地区委員会、労働者代表ソビエト地区執行委員会は、定められた期限内に召集対象者の登録（召集対象者の登録、保護が必要な子供の登録など）を行うため、必要な数の党・ソビエト・コムソモール活動家を動員すること。ただし、この登録の目的は公表しないこと。

7. カザフスタン共産党地区委員会と地区執行委員会は、登録完了後、親族のいない子供たちの収容と保護のための具体的な措置を策定すること。

8. 徴用対象者の肉体労働適性を判断するため、地区軍事委員会の下に徴用医療委員会を設置する：男性については徴用所(軍事委員会)に設置、女性についてはそれぞれの地区に委員会が出向き、必要に応じてドイツ人人口が集中する地点に設置する。

9. 肉体労働適性が判断された後、徴用者に対して、指定された期間内に集合地点に出頭する義務があることを通知する。その際、適切な防寒着、予備の下着、寝具類、マグカップ、スプーン、および最低 10 日分の携行食を持参すること。徴用者に対して、指定された期限までに集合地点に出頭しない場合や作業場所からの脱走については、1941 年 12 月 26 日付ソ連最高会議幹部会令「軍需産業企業の労働者および職員の無断退職に関する責任について」⁷²に基づき刑事責任を問われる旨を警告する。

10. 徴用により減少した農業労働力を補うため、ジュスポフ同志に対して、10 日以内に農作業完了に必要な都市部の労働可能な住民を動員し、また都市部からの避難民を当該コルホーズおよびソフホーズに永住させるための移住を実施することを義務付ける。

11. 州党委員会人事部のチョクパロフ同志および地区党委員会に対し、徴用対象となるコルホーズ、機械・トラクターステーション、ソフホーズの指導的職員および農業専門家の代替要員を直ちに選出することを委任する。

12. トリフォノフ同志、州教育部副部長エゴロフ同志、ソフホーズ管理局長コッケノフ同志に対し、10 日

⁷² 本令に基づき、軍需産業企業からの労働者および職員の無断退職は脱走とみなされた。無断退職（脱走）の罪を犯した者の事件は軍事裁判所で審理され、有罪者には 5 年から 8 年の懲役刑が科された。

以内に徴用された機械技術者の代替要員を地区、機械・トラクターステーション、ソフホーズ間で再配置し、その提案を州党委員会幹部会の承認に付すことを委任する。

13. 地区ソビエト執行委員会および地区党委員会に対し、徴用者の居住地から積載駅までの適時の移送を確実に実施することを義務付ける。

セミパラチンスク州党委員会書記
ボゴリュボフ

第 112 号 「戦時中のドイツ人の労働軍への動員について」に関する北カザフスタン州共産党（ボリシェヴィキ）委員会決議

ペトロパブロフスク市

1942 年 10 月 27 日

特別ファイル

1942 年 10 月 7 日付国家防衛委員会決定第 2383 号「肉体労働可能な 15 歳から 55 歳までの男性ドイツ人および 16 歳から 45 歳までの女性ドイツ人（妊婦および 3 歳未満の子供を持つドイツ人女性を除く）の戦時中における労働軍への動員について」の執行にあたり、

州党委員会幹部会は以下のように決定する：

1. 地区党委員会書記に対し、戦時中を通して労働軍へのドイツ人男女の動員を直接管理下に置き、地区軍事委員会と内務人民委員部による動員の実施に全面的な協力を行うことを義務付ける。

2. 地区党委員会書記に対し、ドイツ人コルホーズに共産党員と共産青年同盟員を全権委員として直ちに派遣し、後にコルホーズ議長およびその他の指導的職務に就かせることを提案する。⁷³

3. 地区党委員会と地区ソビエト執行委員会に対し、コルホーズ強化のため、ドイツ人コルホーズに非ドイツ系のコルホーズ員家族および避難民家族を必要数、永住させるよう推奨する。

4. 労働軍に動員された親を持つドイツ人の子供たちの処遇⁷⁴のため、より規模の大きい⁷⁵ドイツ人コルホーズに特別な児童養護施設または保育施設⁷⁶を開設する。

5. 地区党委員会書記、地区ソビエト執行委員会に対し、動員されるドイツ人が個人所有する家畜と食料の略奪を防止する措置を講じることを義務付ける。ドイツ人家族が完全に動員される場合、彼らが所有する家畜と食料は公共部門⁷⁷に移管する。

州党委員会書記
ニコラエフ

注記：州党委員会軍事部、地区党委員会、カザフスタン共産党中央委員会、州ソビエト

⁷³ タイプ打ちされた文章「コルホーズ議長およびその他の指導的職位に地区の共産党員、優秀な共産青年同盟員、活動家を」の上に書き加えられた。

⁷⁴ タイプ打ちされ消された文章「教育条件の整備」の上に書き加えられた。

⁷⁵ 消去された。

⁷⁶ 書き加えられた。

⁷⁷ 消去された「コルホーズへ」の上に書き加えられた。

第 114 号 1942 年 10 月 7 日付国家防衛委員会決定の実施に関するソ連人民委員会議決定第 1843-861s 号

モスクワ市、クレムリン

1942 年 11 月 18 日

機密

カザフ共和国に関する事項

ソ連人民委員会議は、1942 年 10 月 7 日付国家防衛委員会決定第 2383ss 号の実施に関連してカザフ共和国人民委員会議および共産党中央委員会⁷⁸から提出された以下の提案を採択することを決定する：

1. 旧ドイツ人コルホーズを、共和国内の他のコルホーズからの追加入植によってコルホーズ員を補充することを許可する。追加入植は、共和国のコルホーズから移住に同意した世帯の一部を組織的に選出することによって実施する。必要な場合には、旧ドイツ人コルホーズを隣接するカザフ人またはロシア人のコルホーズとの合併を実施する。

2. 労働軍に動員されたドイツ人コルホーズ員の私有家畜で管理者不在となったものについて、共和国内コルホーズの畜産農場での保管を目的とした移管を許可する。

3. 労働軍に動員されたドイツ人の子供たちを、ロシア人およびカザフ人のコルホーズに配置することを確実にする。8 歳以下の子供たちについては、必要に応じて定員を増やした上で、コルホーズの適切な児童施設に配置し、8 歳以上の子供たちについては、コルホーズ員の同意を得た上で、その家族に配置する。

ソ連人民委員会議副議長

モロトフ

ソ連人民委員会議事務局長

チャダーエフ

注記：「第 1 号。スターリン同志宛」

第 116 号 動員されたドイツ人の管理に関するエンバネフテストロイ・トラスト管理者シチェルボフと特別部部長バシェニナから検査所、建設および組立列車、[...] ⁷⁹事務所長宛指令

グリエフ市

1942 年 11 月 26 日

機密

貴下の個人的責任のもと、動員されたドイツ人の正確かつ厳格な日次管理を出勤時および宿舎滞在時に行うことを命じる。そのために寮に特別な管理人を配置し、1 日 2 回（朝の就労前と夕方）点呼による確認を実施すること。就労現場では、ドイツ人を特定の現場監督者または十人長のもとに配属し、これら監督者や十人長が彼らの就労状況を厳重に監視する義務を負う。欠勤が発生した場合は、直ちにその原因を調査し、適切な措置を講じるため特別部に即時報告すること。すべての動員されたドイツ人は兵舎形式での居住とし、いかなる場合も私的住居の提供を禁止する。一般市民との接触を防止するためのあらゆる措置を講じること。

エンバネフテストロイ・トラスト管理者

⁷⁸ 原文ママ

⁷⁹ 判読不能

シチエルボフ
特別部部長
バシェニナ

第 124 号 カザフ共和国内務人民委員部からカザフスタン共産党中央委員会への報告書「カザフ共和国の各州における動員予定のドイツ人および労働入植者について」⁸⁰

アルマ・アタ市

1943 年 8 月 27 日
最高機密

州	登録ドイツ人		計画された動員		
			ドイツ人		クラーク
	男性	女性	男性	女性	
セミパラチンスク	1,695	4,127	300	400	
パヴロダール	1,656	4,168	300	500	
南カザフスタン	936	2,686	150	300	500
クジル・オルダ	138	865	—	—	600
クスタナイ	2,316	5,192	400	500	—
ジャンブール	803	821	150	—	200
北カザフスタン	1,327	4,115	200	400	—
カラガンダ	1,169	2,175	100	1,400	
東カザフスタン	591	15,275	100	1,400	
アルマ・アタ	803	1,258	200	200	200
アクチュビンスク	259	732	—	—	—
アクモリンスク	3,908	7,561	500	600	
合計	15,801	48,975	2,500	4,500	1,500

ボグダノフ

第 125 号 「石炭産業における就労のためのドイツ人男女、労働移住者および特別移住者の動員について」に関するカザフ共和国人民委員会議およびカザフスタン共産党中央委員会決定案

アルマ・アタ市

1943 年 8 月 28 日⁸¹

⁸⁰ <https://media.alexanderyakovlev.org/fond/issues-doc/1022079>

⁸¹ 後に 1943 年 10 月 12 日、カザフスタン共産党中央委員会と人民委員会議は「カラガンダ炭田への労働力動員について」の共同決定を採択し、アクモリンスク州とカラガンダ州からそれぞれ 500 人、計 1,000 人の現地住民の動員について言及した。都市部および農村部の非就労人口と特別労働移住者から 7,000 人の動員が計画され、その大部分（5,000 人）は後者が占めていた。

1943 年 8 月 19 日付国家防衛委員会決定第 3960/ss 号⁸²に基づき、カザフ共和国人民委員会議およびカザフスタン共産党中央委員会は以下のように決定する：

1. 各州労働者代議員ソビエト執行委員会、州党委員会、カザフ共和国内務人民委員部州管理局に対し、10 日以内にドイツ人男女および労働特別移住者の中から 8,500 人（内訳：ドイツ人 7,000 人、特別移住者 1,500 人）を人民石炭委員部の石炭産業就労用に動員し派遣することを義務付ける。

2. 内務人民委員部州管理局長に対し、24 時間以内にカザフ共和国内務人民委員部へ必要な貨車数と動員者の積載駅についての申請を提出することを義務付ける。

3. 内務人民委員部州管理局長、州労働者代議員ソビエト執行委員会議長、および該当州の党委員会書記に対し、定められた期限内での動員者の選定と派遣について自ら管理することを義務付ける。

動員者が適切な上着、靴、予備の下着、寝具類および防寒着を所持していることを確認すること。

4. ボグダノフ、カルジャウバエフ両同志に対し、石炭産業就労用の労働力の動員状況および就労地への派遣について日次管理を行うことを委任する。

カザフ共和国人民委員会議副議長

ザゴベリエフ⁸³

カザフスタン共産党中央委員会書記

スクボルツォフ

査閲：ボグダノフ、カルジャウバエフ、ザゴベリエフ、1943 年 8 月 28 日

第 128 号 カザフ共和国人民委員会議およびカザフスタン共産党中央委員会から州執行委員会および州党委員会宛「カラガンダ石炭への動員労働者の不適切な選抜について」の電報⁸⁴

アルマ・アタ市

1943 年 9 月 17 日

中央委員会および人民委員会議より、健康で各地での地下労働に耐える男性を優先して正しく選抜するという再三の指示があったにもかかわらず、ジャンブル、セミパラチンスクおよびその他の州において、以下のような不適切な動員が行われ、寄せ集めの人員が送られている：列車から書類なしで降ろされた人々、市場での一斉検問で拘束された人々、法令に違反した人々、2 級障害者、未成年者、妊婦、2 歳未満の乳児を持つ女性。「カラガンダ石炭」に動員された労働者の 85% が女性であり、男性は主に 16 歳で、軽作業にのみ適している。結果として、各地域から到着した労働者のほとんどが地下採掘作業に使用できない状態となっている。

「カラガンダ石炭」への労働力動員という政府の任務遂行に対するこのような軽率なアプローチは、石炭盆地の今後の石炭生産発展を危険にさらしている。上記の異常事態を解消し、「カラガンダ石炭」への労働者派遣を所定の期限内に確実に実施すること。

人民委員会議副議長

⁸² 国家防衛委員会は 1943 年第 3・4 四半期の石炭採掘確保のため、ソ連 NKVD に対し、8 月中に NKVD 収容所・居住地から 11,000 人（内訳：包囲されていた特別対象者 5,000 人、2 年以下の刑期の収容者 6,000 人）を石炭産業に移管し、7,000 人の労働・特別入植者、7,000 人のドイツ人男女を動員することを義務付けた。

⁸³ 署名なし。

⁸⁴ 西カザフスタンおよびグリエフ州党委員会を除く

ザゴベリエフ
カザフスタン共産党中央委員会書記
カルジャウバエフ

第 132 号 パブロダール毛皮工場・皮革工場の工場長代行ブルコフからパブロダール州共産党委員会書記
クリトフ宛⁸⁵の、「子供を伴う女性労働軍（ドイツ人女性）の悲惨な状況について」の書簡

パブロダール市

1943 年 12 月 29 日
機密

1943 年秋、州兵事委員会からパブロダール国営皮革工場の建設のために、一時的に女性労働軍（ドイツ人女性）が受け入れられました。12 月にはこれらの労働者を使用することは不可能で、彼女らの労働能力も非常に低いものでした。彼女たちは全員、子供を数人抱えており、靴や衣服也没有ありません。

12 月 23 日、私は州兵事委員会に労働軍の女性たちを引き取るよう書簡を送りました。未婚の女性は州兵事委員会が連れ去り、工場が借りているバラックから移転させました。しかし、子供を持つ女性たちには居住地に移動するよう提案しただけでした。皮革工場は彼女たちに精算を行い、解雇しました。

12 月 23 日、私は州兵事委員会に労働部隊の女性たちを引き取るよう書簡を送りました。未婚の女性は州兵事委員会が連れ去り、工場が借りているバラックから移転させました。しかし、子供を持つ女性たちには居住地に移動するよう提案しただけでした。皮革工場は彼女たちに精算を行い、解雇しました。

今日バラックを訪れたところ、すべての女性労働軍員が依然としてバラックに住み続けており、寒さと子供たちと自分たち自身の衣服と靴の不足のため、移動できないと私に告げました。工場は彼女たちに食事と燃料を提供できません。さらに、彼女らの中には病人もいます。

極めて深刻な状況が生じています。私は市執行委員会、市共産党委員会、その他の組織に相談しましたが、この問題に関して適切な支援を得られませんでした。

したがって、毎日が食料、燃料、衣服などの欠如により深刻な結果をもたらす可能性があるため、貴方に相談することにしました。最も適切な解決策は、適切な衛生処理の後、子供たちの輸送のための交通手段を提供し、近隣のコルホーズやソフホーズに移住させることだと考えています。

女性労働軍の総数は大人 43 人、子供 61 人の計 104 人です。親のいない子供たちもいることを付け加えておきます（母親と父親は入院中）。

私に何をすべきかご指示ください。

毛皮工場および皮革工場代行
ブルコフ

決議：ドソフ同志。これらの人々をパブロダール地区のドイツ人コルホーズに配置することに決定。コルホーズへの送付と定住を監視されたい。コイチュバエフ。1944 年 1 月 3 日

⁸⁵ パブロダール州執行委員会議長コイチュバエフへも同送

第 137 号 カザフスタン石油コンビナートの企業責任者への指令：動員解除された労働軍メンバーへの衣服、靴、食料の支給について

グリエフ市

1944 年 2 月 21 日

最高機密

傷病による動員解除や一時的な労働不能による休暇を与えられたドイツ人男女労働者が、適切な衣服、靴、移動中の食料を支給されずに企業から送り出され、その結果、風邪による疾病や死亡に至るケースが発生している。このような事態を防ぐため、季節に適した衣服と靴、および食料が支給されていないドイツ人男女動員労働者の送り出しを厳しく禁止する。

この指示に違反した企業責任者は、厳重な責任を問われ、裁判にかけられることを警告する。

動員労働者（ドイツ人男女）に交付する証明書には、必ず衣服と食料の支給状況を記載すること。⁸⁶

カザフスタン石油コンビナート長官

ピリペツ

第 139 号 カザフスタン共産党グーリエフ州委員会書記クルグロフからカザフスタン石油コンビナート長官ピリペツへの指令⁸⁷「動員ドイツ人の住居・生活環境について」

グリエフ市

1944 年 3 月 6 日

最高機密

カザフスタン共産党州委員会に、カザフスタン石油コンビナートの企業における動員ドイツ人の不適切な労働使用に関する情報が寄せられている。彼らの住居・生活環境は今なお整備されていない。

カザフスタン石油コンビナートの郊外経営地ヤマンカ集落には 79 名のドイツ人男女がいる。その大多数は寝具を支給されておらず、浴場と洗濯場は全く存在しない。動員ドイツ人は床に直接寝ている。洗面台がないため、ドイツ人は宿舍内で顔を洗い、食事に使う器で洗濯をしている。洗面器が全くないため、洗濯物のすすぎには台所用バケツを使用している。ドイツ人の衛生管理は全く行われていない。

マクト油田の第 3 建設組立事務所の 55 区画寮に住む 21 名のドイツ人は完全に着る物がなく、その結果わずか 3 人しか働いていない。寮の施設は非衛生的な状態で、洗面台も飲料水用タンクもない。寮には寝具が全くなく、人々は何も敷かず床の板の上で直接眠っている。衛生処理や計画的な入浴も行われていないため、寮の全員がシラミに侵されており、発疹チフスの蔓延の危険がある。

特別居住者への食事供給は不十分で、浮腫や栄養失調による死亡例も発生している。

このような動員ドイツ人の不適切な扱いの結果、労働能力を失うケースが多発しており、これは生産にとって好ましくない。

この特別居住者に最低限の労働条件を整備するために必要な措置を講じるよう要請する。

講じた措置について 1944 年 3 月 15 日までに州委員会に報告すること。

カザフスタン共産党州委員会書記

⁸⁶ この文書は、1944 年 2 月 5 日にソ連石油工業人民委員代理 I. カリャーギンがカザフスタン石油コンビナート指導部に送付した指令とほぼ同一の内容である。

⁸⁷ 直送

決議：ロッシン同志は動員特別居住者の生活改善のための緊急措置を直ちに講じる必要がある。ダンシン同志は、指摘された不備の解消のためにマズニコフ同志とアケノフ同志に書簡を転送すること。3月7日。ピリペツ。

備考：1) 特別移住者関連文書に [...] 名の書簡、1944年3月8日⁸⁸ 2) 読了。ロッシン、1944年3月7日

第144号 カザフスタン石油コンビナート建設組立局部長ダンシンからコンビナート長官ピリペツへの報告書「特別居住者の住居・生活環境と給食状況の調査について」

グリエフ市

1944年5月31日

機密

あなたの指示により、1944年5月25日から28日にかけて、ヤマンカ集落の労働供給局郊外経営地における特別居住者の住居・生活環境と給食状況の調査を実施した。

郊外経営地のドイツ人男女の総数は80名。そのうち第1区画で23名、第2区画で54名、ヤマンカ集落で3名が働いている。

第1区画で働く者は2つの宿舎に住み、2家族は区画内で独立して居住している。1家族はバクサイ集落に、1家族は第1区画⁸⁹に、2名は事務所に住んでいる。第2区画では事務所に住み働く1名を除き、全員が宿舎に住んでいる。

第1区画の宿舎は不衛生で、窓は壊れ、内部は89暗く、寝具は汚れシラミが発生している。特に男性と若者は極めて不潔で、ボロボロの服装でシラミに侵されている。

ウラル川からの水は宿舎まで引かれておらず、バケツも支給されていないため、人々は鍋や皿で水を運ばざるを得ない。

浴場と医療サービスは全く存在せず、6km以上離れたヤマンカ集落まで行かねばならない。

第2区画の宿舎は満足できる状態で、シラミの発生はない。両区画とも煮沸水がなく、その結果、胃腸の病気が発生し、特にマラリアが蔓延している。石鹸の支給は1944年8月29日に行われ、その時だけ集団での入浴が実施された。第1区画の宿舎内に梅毒に重症の2名（カザフ人）が収容されているのは全く容認できず、即時隔離が必要である。

日用品配給券は使用できない。そのため、シーツは衣服に作り替えられている。

政治・大衆活動は全く行われていない。

第1区画長マクシモフ同志はドイツ人の正当な不満に対応せず、彼らに対して容認できない乱暴な態度をとり、「お前らはヒトラー主義者だ」「ヒトラーの一味だ」などの政治的侮辱を加えている。そのためドイツ人の士気は低下し、マクシモフに対する不満が多く、労働意欲に影響している。

食事は極めて劣悪で、労働供給局から規定量の穀物が供給されないことが原因で、食料配給券は完全に使用できない。

生産ノルマ未達成を理由に、1日のパン配給を700gから300gに減らすという全く違法な慣行が導入されている。このことは大きな不満を引き起こし、労働生産性を低下させている。

⁸⁸ 署名判読不能

⁸⁹ インクで書かれている。

食事用の食器は全体の 25%しか確保されていない。

第 1 区画の地元漁獲による魚は、区画長マクシモフ同志の指示により、ドイツ人女性には全く支給されていない。

ドイツ人に対する管理規則の重大な違反がある。すなわち、隔離された宿舎に収容し重労働に使用するべきところ、実際には第 1 区画の男性宿舎にドイツ人 5 名とロシア人 4 名が、女性宿舎にドイツ人女性 7 名とロシア人女性 1 名が収容されている。1 家族はバクサイ集落に住んでいる。

ヤマンカ集落の民間住宅に 6 名が住んでいる。

区画からヤマンカ集落への私用での外出は制限されておらず、外出許可証も導入されていない。そのため兵舎制度が実施されていない。

また規則に違反して、内務人民委員部の許可なく、以下の者が事務職に異動している（1944 年 4 月 25 日付命令第 59 号）：

キウスネル - 事務所企画担当、アルテス - 第 1 区画会計補佐、トレネス - 第 2 区画主任会計、ロット - 第 2 区画会計補佐、シュテルレ - 第 2 区画勤務管理者、シャフェ - ヤマンカのパン工場警備員

ヤマンカ郊外経営地におけるドイツ人の労働利用改善のため、大規模な農作業期において、以下の措置が必要と考える：

1. 第 1 区画の宿舎を（第 2 区画のように）適切な状態にする
2. これらの宿舎にドイツ人のみを集中させる
3. ドイツ人の民間住宅や区画事務所での居住を禁止し、区画宿舎に移住させる
4. 区画内での直接の医療サービスを確保する
5. 月 2 回以上の集団入浴を組織する
6. 可能な限り石鹸を支給する
7. 必要な数の食事用食器を供給する
8. 厨房の隣に食事の受け取りと配給用の屋根付き小屋を建設する
9. バクサイ地区保健部と月 2 回以上の宿舎の完全消毒実施について合意する
10. 緊急に必要な者への日用品と靴の支給を確保する
11. 寝台を修理し寝具を支給する
12. ウラル川から宿舎への給水を確保する
13. 飲料水用の煮沸タンクを設置する
14. 生産ノルマ未達成を理由とする 1 日のパン配給削減の違法な慣行を禁止する
15. 食堂を通じた食料配給券の完全な使用を確保する
16. 全てのドイツ人を例外なく事務職から重労働の農作業に異動させる
17. 現地内務人民委員部との合意の上、近隣集落の住民に区域内立入許可証を発行し、宿舎区域内での乳製品販売を組織する
18. 伝染病予防のため、バクサイ地区保健部と月 1 回以上の区画居住者全員の健康診断実施について合意する
19. マクシモフ区画長による反政治的行為とドイツ人への乱暴な扱いは労働生産性の低下を招いており、また区画のすべての作業遂行を確保していないというチェルノウソフ副農場長の意見も踏まえ、マクシモフを区画長職から解任する
20. パン配給を 700g から 300g に削減する制度を独断で導入したことについて、チェルノウソフ副農場長に処分を科す
21. 石油人民委員部の要求に従い、特別リストの基準による特別居住者への供給について、州商業部と配給カード事務所と調整する

カザフスタン石油コンビナート秘密動員部長

決議：ロッシン同志はヤマンカに赴き、全ての不備を解消するための措置を講じること。実施について私に報告されたい。1944年6月1日。ピリペツ⁹⁰。

カルムイク人特別入植者に関する資料

第 150 号 カルムイク自治共和国に居住するカルムイク人の追放に関するソ連人民委員会議決定第 1432/425 号抜粋

モスクワ市、クレムリン

1943 年 12 月 28 日

最高機密

ソ連人民委員会議は以下を決定する：

1. ソ連最高会議幹部会令に従い、カルムイク自治共和国に居住する全てのカルムイク人を、アルタイ地方、クラスノヤルスク地方、オムスク州、ノボシビルスク州に追放する⁹¹。

カルムイク人の追放はソ連内務人民委員部が担当する。

2. ソ連内務人民委員部は追放されるカルムイク人を以下のように配分する：

アルタイ地方に 25,000 人

クラスノヤルスク地方に 25,000 人

オムスク州に 25,000 人

ノボシビルスク州に 20,000 人

[...] ⁹²

10. ソ連農業人民委員部（アンドレエフ同志）、ソフホーズ人民委員部（ロバノフ同志）、食肉・乳業人民委員部（スミルノフ同志）、漁業人民委員部（イシコフ同志）、ソ連調達人民委員部（スボーチン同志）は、ソ連内務人民委員部の指示に従い、地区ごとに特別移住者からの受入れを行う：農業人民委員部 - 馬と他の役畜、ソフホーズ人民委員部 - 種畜、食肉・乳業人民委員部 - 乳牛と他の生産用家畜、漁業人民委員部 - 水産物と漁具、調達人民委員部 - 農産物。

全ての家畜、水産物、農産物の受入れ、および特別移住者の財産の補償は、1943 年 10 月 14 日付ソ連人民委員会議決定第 1118-342 号⁹³で定められた条件に従って行う。

11. ソ連保健人民委員部（ミテレフ同志）は、内務人民委員部と協議の上、特別移住者を輸送する列車の衛生・医療サービスを確保する。

⁹⁰ 署名

⁹¹ この決定に従い、再定住は 1944 年 1 月 22 日までに完了した。カルムイク人特別移住者の定住数に関する報告書では、カザフスタンは 2 週間後の 1944 年 2 月 2 日に登場する。漁業人民委員イシコフは、カルムイク人が専門的漁師であることを理解し、戦線向け魚缶詰供給のため北部・東部漁場への派遣をソ連内務人民委員部に要請した。その後、例外的措置としてソ連内務人民委員部は、1 列車分の 648 家族（2,268 人、うち男性 509 人、女性 780 人）をクズルオルダ州アラリスク市に移送するよう指示した。ブガイによると、1943 年末の移住者総数のうち、カザフスタンには 2,423 人（うち子供 1,700 人）が居住していた。1945 年以降、ソ連東欧地域の収容所に収容されていたカルムイク人グループは東部に移送された。一部の者については、カラカルバク自治共和国のアラル海沿岸のムイナク集落が居住地に指定された。ここにはカザフ共和国からも 185 家族（538 人）が到着した。

⁹² アルタイ州、クラスノヤルスク州、ノボシビルスク州、オムスク州の執行委員会への指示部分は省略。

⁹³ 文書第 162 号を参照。

備考：「ナセトキン同志へ。この文面は承認された。チェルヌィシヨフ。12月29日」

第156号 クジルオルダ州特別移住者経済整備局からカザフスタン共産党クジル・オルダ州委員会への報告書：「1944年11月5日現在のクジル・オルダ州における特別移住者の経済・生活状況について」⁹⁴

クジル・オルダ市

1944年11月5日以降

カザフスタン共産党州委員会と州ソビエト執行委員会の全権代表による調査の結果、州内の各地区における特別移住者の経済・生活状況について、以下の状況が確認された。

地区組織による特別移住者の状況改善のための取り組みの結果、いくつかの肯定的な成果が見られる：

1. チイリ地区

この地区には1,084世帯、計4,168人が居住している。そのうち恒久的な住居を与えられているのは374世帯のみで、残りは過密状態での居住を強いられている。しかも住居は修理されておらず、窓やドアも設置されていない。

地区内一部のコルホーズでは労働体制が十分に整備されており、その結果、特別移住者たちは社会主義的労働の模範を示している。例えば、「ギガント」コルホーズには17人のスタハノフ運動員がおり、「アヴァンガルド」には16人、「アルガバス」には14人、「トゥンクルス」には15人などがいる。

特にクラエフ同志を始めとする数人は420労働日というようなスタハノフ的成果を上げている。しかし、一部のコルホーズでは労働体制が全く不十分で、コルホーズで働く特別移住者の個人労働日計算さえしていない状況だ。例えば「ウリグリ」「クズル・トゥ」「ジャナ・トゥルムス」などのコルホーズでは、1944年7月以降、特別移住者の労働日を個人労働日計算記録につけていない。

特別移住者の家畜用に196トンの粗飼料が確保されているが、これは必要量を満たしていない。家畜の屠殺事例も報告されているが、これは、特別移住者には、特に地区中心部では家畜を飼育する余地がないことが原因だ。

学齢期の子供744人が就学対象だが、実際に通学しているのは524人とどまる。

さらに、この地区には55人の浮浪児がおり、現在まで何の児童施設にも収容されていない。

チイリ地区では、8月と9月にコルホーズ指導者による特別移住者への暴行や虐待が発生した。「クズル・トゥ」コルホーズでは、議長のタルマノフと副議長がチェチェン人特別移住者を暴行し、チェチェン人作業班長も被害に遭った。同様の事例が「ジャナ・トゥルムス」「ウリグリ」などのコルホーズでも報告されている。

チイリ地区での特別移住者に対する大衆活動は極めて不十分で（新聞の朗読やソヴィエト情報局の発表などが行われていない）、チェチェン人特別移住者は能力に応じた仕事に登用されていない。

地区内では、深刻な支援を必要とする特別移住者への援助体制が整っていない。この状況は、地区組織が地区内に存在する可能性を十分に活用していないことに起因している。

⁹⁴ カザフスタン共産党クジル・オルダ州委員会書記ドルジェンコ、クジル・オルダ州ソビエト執行委員会副議長シトニコフ宛。

2. アラル地区

全ての移住者世帯（397 世帯、チェチェン人 1,664 人）は工業施設内に居住している。

アラルスルファート（訳者注：クジル・オルダ州のガラス産業向け原材料生産工場、生産組合）では特別移住者の生活環境が良好に整備されており、50 人のスタハノフ運動員がいる。これは特別移住者総数の 70% を占める。

スルファートの指導者たちは特別移住者の労働に必要な条件を整え、スタハノフ運動員には追加のパンや食事が支給されている。

学齢期の子供は 27 人で、そのうち 21 人が学校に通っている。

造船所、スルファート、国営海運の施設では、特別移住者の居住スペースは十分に確保されている。

一方、水産業関連施設では住居の確保が不十分で、深刻な過密状態が発生している（サキシエワ、アンドレワ、グマエワは早急な住居の変更が必要）。

燃料に関しては、スルファートと製塩トラストを除き、[…]⁹⁵の計算で供給されている。これらの組織の指導者たちは、労働者への燃料供給を確実にしようと約束している。

企業指導者たちは衰弱者や病人への実質的な支援を行ってこなかった。これは地区指導者たちがこの問題に関心を示していないためだ。例えば、製塩トラストでは、チェチェン人特別移住者のマンレアノワが[…]⁹⁵数日間、湿った床の上で横たわったままで何の援助も受けていない。カルムイク人特別移住者のガグエワは 2 人の子供がおり、3 人の兄弟が赤軍に所属し⁹⁶、夫はノヴォシビルスクにいる。現在、ガグエワは衰弱して浮腫を発症し、子供たちと合わせて 1 日 300 グラムのパンしか受け取っていない。同様の事例は他の施設でも見られる。

ほとんどの施設で、特別移住者への靴や作業服の支給は行われていない。特別移住者は現在、自前の服と靴で働いている。

特別移住者の衛生状態は極めて悪く、浴場にも行けず、地区の医療従事者も病人への支援を行っていない。住居は不衛生で、子供たちの間で死亡率が高い。

赤軍兵士の家族や多子の母親への国家手当の支給状況も劣悪で、軍人家族 270 世帯のうち、手当を受給しているのは 17 世帯のみである。

3. カルマクチ地区

この地区には 806 世帯、計 3,114 人が配置されており、そのうち 414 世帯がコルホーズに、残りは工業施設や鉄道に配置されている。コルホーズにいる 414 世帯は全てコルホーズに加入している。

調査の結果、産業組合の地区産業コンビナートを除く工業施設の特別移住者は、良好な住居を与えられ、スタハノフ運動員以上の食事を受け、企業指導者から他の可能な支援も受けていることが判明した。特に毛皮工場長の特別移住者への思いやりのある対応は特筆すべきで、深刻な支援を必要とする移住者に 79 足の

⁹⁵ 2 単語判読不能

⁹⁶ カルムイク共和国は戦時中に約 4 万人を前線に送り、そのうち 1.4 万人が政府の勲章を授与され、22 人がソ連邦英雄の称号を受け、70 人以上が赤旗戦闘勲章を授与された（うち 6 人は 2 回受章）。また、20 人がアレクサンドル・ネフスキー勲章を受け、280 人が祖国戦争勲章の完全受章者となった。1942 年には第 110 カルムイク騎兵師団が編成され、ドン川地域と北カフカスでの戦闘に参加した。カルムイク人は他の戦線でも戦った。

1943 年 12 月 27 日から 30 日にかけてのカルムイク人民の強制移住後、全戦線のカルムイク人将兵は集合地点に召集され、労働大隊に配置転換された。1944 年 1 月末から 2 月初めにかけて、下士官と兵卒のカルムイク人軍人が前線から召還された。彼らはウラル軍管区の管轄下に置かれ、その後コシバ川のシロコフスカヤ水力発電所建設のため内務人民委員部のシロコフスキー収容所に送られた。建設完了後、カルムイク人前線兵士の動員解除は 1945 年 2 月から 8 月まで長引いた。

1944 年夏、南部戦線および第 3・第 4 ウクライナ戦線の部隊で従軍していたカルムイク人は、南ウラル軍管区のチカロフ市に移送され、そこからバシキール自治共和国に送られた。モロトフの建設大隊には「前線から召還された」7,000 人のカルムイク人が所属していた。家族のもとに戻った前線兵士たちは特別司令部に登録され、自動的に特別移住者の身分となった。

靴と 600 メートルの織物を提供した。

しかし、コルホーズでの特別移住者の生活環境に関しては、このような肯定的な事例と共に、深刻な問題も存在する。例えば：

a) コルホーズの特別移住者は、労働日に対する報酬を全く受け取っていないため、これらの世帯は食料に困窮している。コルホーズには特別移住者を支援する余力が全くない。

b) 大多数のコルホーズでは、特別移住者用の燃料が確保されておらず、誰も燃料の調達に取り組んでいない。

州委員会と州執行委員会の決定の実施状況の調査結果を受けて、地区執行委員会と地区委員会は以下の対策を講じた：

a) 家庭用品と食料品の収集の組織化

b) 漁業・狩猟班の組織化

c) 地域の原材料を使用した各種製品製造班の組織化

d) 特別移住者への燃料運搬のための輸送班の組織化

e) 乳牛の割り当てと、その生産物の深刻な困窮状態にある特別移住者への配給

しかし、これらの対策は特別移住者の緊急のニーズを満たすには不十分であり、州からの食料支援が必要である。

4. スィルダリア地区

この地区には 196 世帯、797 人が移住させられ、そのうち 98 世帯が工業部門に、残りはコルホーズに住んでいる。コルホーズに居住させられた世帯のうち、一世帯もコルホーズには受け入れられていない。これは、労働能力のある家族が地区や市の工業部門で仕事についたためだ。

地区内のすべての世帯は、空き家を活用した住居を確保できていない。コルホーズに家屋購入のために提供された融資は、12 月 1 日までに使用される予定だ。

地区内に配置された特別移住者のすべての世帯は、規定の家畜を生体重 200kg ずつ受け取った。家畜の屠殺が至る所で行われている事実がある。地区の組織は、家畜をコルホーズの農場に受領書と引き換えに引き渡すことで、残りの家畜を保護するための措置を講じている。

特別移住者に靴と衣服を提供するため、地区の組織は地区内でそれらの収集を行っている。

学齢期の子供 200 人について、どのコルホーズでも就学できていない。これは特別移住者の子供たちが衣服や靴を持っておらず、ロシア語もカザフ語も理解できないためだ。

5. カザリンスク地区

地区には 717 世帯が配置され、合計 2,827 人がいる。717 世帯のうち、385 世帯 (1,238 人) がコルホーズに、残りの 223 世帯が工業企業、国営機関、鉄道に配置された。コルホーズにいる 385 世帯は全てコルホーズのメンバーとして受け入れられた。

労働可能な 431 人は基本的に農作業のノルマを達成しており、全員がコルホーズの生産活動に参加している。

鉄道や工業で働く特別移住者は一日のノルマを超過達成しており、スタハーノフ運動員もいて、車両基地、機関区、線路保線区 2 など、管理部から表彰されている者もいる。

特別移住者は空き家や寮を利用して住居を確保しており、特に鉄道部門、機関区、「クリ・アルイク」コルホーズでは充実している。

地区内の特別移住者は家畜を全て受け取った。カザリンスク市とノヴォカザリンスクでは家畜は支給されていない。

特別移住者に支給された家畜は全て、春まで保管する受領書と引き換えにコルホーズに預けられた。

地区の組織は特別移住者の生活環境改善のため、衣服、靴、穀物の収集を行うなどの対策を講じている。燃料調達班が結成され、すでに 25 トン以上を確保し、工業部門では労働者一人当たり月 100 束の藁が支給されている。

学齢期の子供は 473 人いるが、就学しているのは 102 人だけだ。

地区は独立したクラスを設けることで、母語（チェチェン語）での教育条件を整えた。

しかし、特別移住者の状況には重大な問題がいくつかある。

かなりの数の特別移住者が生産ノルマを達成できていない。これは特別移住者が体力的に弱く、栄養不足であることが原因だ。

学齢期の子供 473 人は、靴と衣服がないため、全員は通学できていない。一部のコルホーズでは提供された住居が修繕されておらず、過密状態（複数世帯が同居）となっている。例えば、アマンゲルディ名称コルホーズでは 16 人が一部屋で生活している。

コルホーズの管理部は、衰弱した病気の特別移住者に何の援助も提供していない。アバイ名称、「ジャナ・トゥルムス」、「コムニズム」、「ウルケンディ」の各コルホーズは、州からの支援がない限り、特別移住者への食料支援は全く不可能な状況だ。

上記の調査を行った全ての地区とコルホーズにおいて、特別移住者の家族は非衛生的な状態（浴場や駆虫施設が使えない）で生活している。地区の医療従事者は特別移住者の病人にほとんど注意を払わず、具体的な治療支援を提供していない。住居を訪問することもないため、その結果、特に子供の死亡率が上昇している。

特別移住者生活基盤整備州部長
フヴォロフ

第 158 号 カルムイク人とチェチェン人特別移住者の状況に関するアラリスク内務人民委員部地区部からカザフスタン共産党アラリスク地区委員会への報告

アラリスク市

1945 年 1 月 3 日
最高機密

市内に居住するカルムイク人とチェチェン人特別移住者の状況は非常に深刻だ。多くの家族が食料と燃料の不足により極度の衰弱状態に陥っている。一部の家族は企業幹部の無責任な態度により、このような状態に追い込まれている。企業幹部は衰弱により病気になった特別移住者を直ちに解雇し、死に追いやっている。

3～4 人の子供を持つ母親（多くは従軍者の家族）だけが労働可能な家族もあり、そういう母親は到着以来どこにも就職できていない。これらの家族は特に深刻な状況にある。

例として以下のような事例がある：

1. モルハエワ・エリプイシュ・サンガジ＝ゴリャエワ（1941 年生まれ⁹⁷）、パパーニン通り 6 番地在住。病床で寝たきりで浮腫があり、1944 年 11 月と 12 月に 2 人の幼い子供（息子と娘）を亡くした。軍人の妻で、以前は「第 2 次 5 カ年計画」作業組合で働いていた。

2. ロバザノフ・ムルタザリ（35 歳ぐらい）、ナベレジナヤ通り 1 番地在住。極度に衰弱しており、病気で浮腫のある幼い子供 3 人がいる（うち 1 人は入院中）。1944 年 8・9・11・12 月⁹⁸の間に父親、妻、子供 1 人を亡くした。

⁹⁷ 原文ママ

⁹⁸ テキストの不一致：4 ヶ月で 3 人の死亡

3. アフマトハノフ・ネイザトはロバザノフと同じ住居に住んでいる。家族3人（本人、姉妹、兄弟）は全員浮腫があり衰弱している。彼らの住居は全く居住に適さない。暖炉は故障して煙が出るし、照明もない。

4. カザエワ・ツィキ（1900年生まれ）、オルジョニキッゼ通り1番地8号室在住。病気の幼い子供4人がおり、本人も病床にある。

5. オチロワ・ビュルク・チュルベエヴナ（カルムイク人、1904年生まれ）は入院中で、1936年生まれの娘が残されている。第3バラック40号室に住んでいる。病気のため以前から働いていない。

6. マガマエフ・ウスム（チェチェン人、63歳）は漁業複合施設で働いていたが、高齢で解雇された。幼い子供2人がおり、第2バラック労働者居住区に住んでいる。

7. アレクエワ・エティ（チェチェン人女性、1904年生まれ）は病気のためどこにも働いていない。娘のジョヴザン（1924年生）と幼い息子がいる。

8. ナドビトワ・ニチャ・コチャノヴナ（カルムイク人女性、1901年生まれ）は娘のターニャ（1940年生まれ）とともに最近アマストクリから到着。一時的に労働不能で、娘とともに浮腫がある。第1バラック9号室に住んでいる。

9. ドルジエワ・オリヤ・バガエヴナ（カルムイク人女性、1928年生まれ）は弟のウラジーミル（1941年生まれ97）とともに病気のため以前から働いていない。現在は浮腫があり衰弱している。第1バラック12号室に住んでいる。

このような事例は他にも多数ある。

アラリスク内務人民委員部地区部副部長、上級大尉
ヴェレフキン